

文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(平成25年度～平成29年度)

「春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業」

文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」(平成27年度～令和元年度)

「岐阜でステップ×岐阜にプラス地域志向産業リーダーの協働育成」

2021(令和3)年度



成果報告書



中部大学

はじめに

中部大学は、建学の精神「不言実行、あてになる人間」の下、地域社会について考え行動できる人材の育成を進めるため、2013年度～2017年度には、文部科学省「地（知）の拠点整備事業」（以下「COC事業」という）に採択された「春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業」を、2015年度～2019年度には、COC事業に加えて文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（以下「COC+事業」という）に採択された「岐阜でステップ×岐阜にプラス地域志向産業リーダーの協働育成」を展開しました。COC事業が終了した2018年度からは、すでに役割を終えた一部の事業は整理統合しつつ、この事業を大学独自で取り組む事業として継続し、COC+事業が2019年度をもって終了したことを受けて、2020年度からはその内容も整理しながら組み込みました。（以下「COC継続事業」という）

COC継続事業の目的は、中部大学が地域の知の拠点として、地域と連携した知の創造を通じて、地域に目を向け問題解決に取り組むことができる人材としての地域創成メディアーターを育成するとともに、地域再生、地域活性化に貢献することです。

本年度はこの目的を達成するため、昨年度までの活動成果を当初掲げた達成目標と照らし合わせて再検討した結果、シニア大学（中部大学アクティブアゲインカレッジ）を今まで以上に発展させるために、COC継続事業の数ある活動のうちのひとつという位置づけから切り離して独立した事業とし、昨年度の4つの活動を①地域関連の正課教育「地域共生実践」と地域関連科目の授業の実施、②本学と地域（春日井市、春日井商工会議所、高蔵寺ニュータウン等）が連携しての生活・住環境を考えるまちづくり、③同じく本学と地域が連携しての世代間交流プログラムの実施の3つの活動に整理・統合して展開してきました。

事業目的の一つである地域創成メディアーターの育成については、今年度も昨年度と同様にルーブリック評価を用いて、その達成要件を審査し、新型コロナウイルスの感染拡大による活動の制約があったにもかかわらず、多くの学生を地域創成メディアーターに認定する運びとなりました。

本成果報告書は、2021年度のCOC継続事業において実施した各種活動とその成果をまとめたものです。本報告書の内容を学内外に広く発信して、本学のCOC継続事業に関するご理解を深めていただくとともに、次年度以降の地域連携教育・研究活動に活かしていきたいと考えています。今後とも、これまでのCOC並びにCOC+事業の経験と成果を踏まえて、大学独自の「地（知）の拠点事業」をCOC継続事業として推進し、その人材育成目標及び地域貢献目標を確実に達成すべく努力を重ねていく所存です。学内外の多くの方々には引き続きご支援・ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2022年3月

中部大学 国際・地域戦略部門地域連携センター

センター長 櫻井 誠

-目次-

はじめに

1. 概要

(1) 目的・目標・概要図 1

(2) 実施体制・メンバー表 7

2. 活動報告

(1) 全体の活動成果 9

(2) ワーキンググループ等報告

① 正課教育WG 25

② 生活・住環境を考えるまちづくりWG 28

③ 世代間交流プログラムWG 36

(3) その他プロジェクト活動報告

① PBLゼミ 41

② COC+参加大学共通プログラム「オータムスクールin瑞浪」 81

3. 地域創成メディエーター資格取得卒業生アンケート結果一覧 99

4. 新聞記事 131

1. 概 要

(1) 目的・目標・概要図

1. 概要

(1) -1 目的

中部大学（以下本学）「地（知）の拠点整備事業」：『春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業（以下本事業）』は2018年3月に5年計画の最終年度を迎えた。事業目的は5年間を通して設定されているため、ここでは5年間の事業目的の概要をあらためて記す。

本事業は初年度の報告書にも述べられているように本学が「地域課題の解決」および「地域に役立つ人材養成」を目的とする地域再生・発展のための地（知）の拠点となるための大学改革事業である。またその改革の成果を地域社会に還元し、地域社会に貢献していくことを目的としている。

本学はその基本理念として、『不言実行、あてになる人間』を信条とし、豊かな教養、自立心と公益心、国際的な視野、専門的能力と実行力を備えた、信頼される人間を育成するとともに、優れた研究成果をあげ、保有する知的・物的資源を広く提供することにより、社会の発展に貢献する。」こととしており、その社会貢献上の使命として、「さまざまな社会活動に参画し、大学が保有する知的・物的資源を活用することによって、地域を中心とする社会の福利向上と発展に貢献する」ことを学内外に明確にしており、地域貢献・地域連携は本来、本学の使命でもある。

すなわち本学は建学の精神「あてになる人間」育成プログラムの重要な柱として本事業を遂行しており、社会・産業界の中で地域にも目を向けて「行動できる人間」「自ら道を切り拓ける人間」「頑張れる人間」「信頼できる人間」としての学生育成を目指している。本学はこの事業を通してさらに一層地方大学の社会的使命を探究し、持続可能な未来社会の創造とその教育のあり方を力強く追求する。

I. 全体としての目的

本事業全体の目的をさらに具体的に述べれば、地域にも目を向けて地域社会の再構築のために必要な実践的人材の育成を目指し、現代社会の主役である高齢者にとって安心・安全で豊かな社会づくり、まちづくりを春日井市に展開する。その成果を春日井地域に還元し、都市づくりを進める。さらに、その成果と知識を広く日本社会全体に拡大することで日本の発展に貢献していく。こうした実践活動を学生自身が担っていくことで、学生自身が実践的知識を深め、支援技術を学び、前述の地域であてになる人材に育っていく。

II. 教育上の目的

地域社会の再構築のために必要な実践的人材の育成を目指す。

① 「地域連携教育改革・教育システムの構築」

現在まで進めてきた教育改革をさらに発展させ、地域社会に役立つ人間となるための行動計画を持てるよう、全学共通教育の科目として新たに『地域共生実践』を設置し、学部・学科にも地域志向関連科目を設置した。こうして基礎教育と専門教育を交互に

発展的に教育し、地域社会再構築のために必要な実践的人材を育成するための教育改革を目的とする。さらに最終的に中部大学が認定する“あてになる人間＝『地域創成メディエーター』”の育成を目的とする。

②「地域連携プログラム」

春日井商工会議所と連携協定を締結し、単なる就労ではなく、人材育成プログラムとして意識的に学生を教育する報酬型インターンシップ型の就労システムを構築した。また、「高蔵寺ニュータウンのキャンパスタウン化」といった地域貢献活動においても学生を社会貢献の実践的に参加させ、高齢者・地域住民と交流させることで、高齢化社会の地域課題を理解し、積極的に課題解決策を考える能力を涵養することも目的としている。

③「コミュニティ情報ネットワーク事業」においては地域への情報発信を行うことやスポーツ障害予防を啓発する活動を目指した。

④「生活・住環境を考えるまちづくり事業」でも学生を研究活動に参加させることで、地域の課題を解決していく能力の育成にも資することが目的ともなっている。

⑤「高齢者と学生の交流、高齢者宅への Learning Home Visit (LHV)」では地域での高齢者問題を身近に感じることから、問題解決能力の育成を目指した。

⑥「シニア大学（中部大学アクティブアゲインカレッジ：CAAC）」では地域に開かれた大学としてシニア向けの学びの場を提供し、その学びを通して地域に貢献できるアクティブシニアの育成を目指した。

Ⅲ. 研究上の目的

地域活性化の課題研究として以下の研究の推進を目的とする。

①「コミュニティ情報ネットワーク事業」

地域住民に役立つコミュニティ情報を発信し、豊かで便利な地域として発展するための情報の提供を行う。

②「生活・住環境を考えるまちづくり事業」

春日井市のまちづくりの課題解決に協働し、地域の住民が安心して快適な生活を送れるようになることを目的に社会基盤の整備、地域環境の改善に関する開発研究を行う。

その他社会貢献活動関連研究

「高齢者-学生交流・LHV事業」や「シニア大学」の開設などの社会貢献に関連しながら、地域の課題をさまざまな観点から調査研究し、地域活性化と高齢者支援の手段を見いだしていくことを目的とした研究活動も並行して行う。

Ⅳ. 社会貢献上の目的

改革の成果を春日井を中心とした地域に還元し、地域の再生・活性化を支援するため、以下の地域社会貢献を目的とする。

①「地域連携教育改革・教育システムの構築」

地域に役立つ人材を教育機関として養成し地域に送り出すことで社会に貢献する。地

域の課題を現実的に理解し、解決のために行動を起こすことができる“あてになる人材”を養成する。そして地域のコミュニティ活動の中心人物であり、リーダーとなることのできる知識と問題解決能力を持ち、良好な対人関係を維持できる人材を地域に送り出す。これは教育機関として重要な社会貢献活動である。さらに本事業では、春日井市の課題克服のための解決策を中部大学が軸となって展開し、現代社会の最重要課題である高齢化社会の以下の課題解決に挑戦する。

- ②「高齢者と学生の交流、高齢者宅への Learning Home Visit(LHV)」
高齢世帯や独居高齢者の見守りや生活支援を目的に若者による高齢者との交流や同居活動を進める。
- ③「シニア大学（中部大学アクティブアゲインカレッジ：CAAC）」
高齢者の健康づくりや再雇用のための技術資格取得を目的に実践教育を行う。

(1) -2 目標

COC及びCOC+については、それぞれ、2017年度と2019年度に文部科学省補助金事業は終了し、2020年度よりCOCの目的の継続並びにCOC+の理念の融合を鑑みて活動中である。また、活動テーマのうち、シニア大学が中部大学アクティブアゲインカレッジとして2021年度から独立した。今年度の目標はそれらを鑑みて以下のように設定した。

I. 全体

- ①COC推進委員会委員とワーキンググループの統合・再編
各事業活動リーダー・副リーダーおよび各学部代表委員からなるCOC推進委員会の機能を維持し、活動内容に応じてワーキンググループを一部、統合・再編し（実施体制・メンバー表参照）、本事業全体の推進にあたる。
- ②地域創成メディアーターの育成
平成27年度までの立ち上げ期間から、平成28年度以降、具体的アクションプランを本格的に実施して地域創成メディアーターの育成に取り組んでおり、今年度も引き続き地域創成メディアーターの輩出を図る。なお、COC+で輩出していた地域活性化リーダーについては、資格取得要件を途中まで獲得している学生に対してのみ引き続きフォローし輩出を図ることとするが、新規の希望学生の受け入れを停止し地域創成メディアーターへの統合を図ることとする。
- ③内部評価委員会の開催
学長を委員長とする学部長・研究科長会のメンバーに春日井市をオブザーバーに加えて内部評価委員会を開催し、事業活動の報告とそれに基づいて評価を受ける。

II. 教育

教育活動としては地域連携教育の推進と報酬型インターンシップの確立を目指す。

- ①地域連携教育改革を実施し、教育システムの構築
 - 1) 地域共生実践の春学期3講義・秋学期5講義、並列開講の運営。担当教員・協力者の勧誘と増員。

- 2) 地域創成メディエーターへの導き。
 - 3) 地域創成メディエーター学生発表会（+エクспレッション）を開催し、地域創成メディエーターをルーブリック評価に基づき認定する。
- ②報酬型インターンシップ制度の維持・発展
- 1) 春日井商工会議所との連携強化。
 - 2) 学生への説明会の開催。
- ③体験型学習の推進
- 1) PBLゼミの実施。
 - 2) COC+参加大学共通プログラム「サマースクール」への参画。

Ⅲ. 研究

研究活動として高蔵寺ニュータウンを中心としたまちづくり活動を展開し、生活・住環境を考えるまちづくりを推進する。

- ①春日井市等のまちづくりの課題解決に協働し、地域住民が安心快適な生活を送れるようになることを主な目的として、社会基盤の整備、地域環境の改善に関する活動を行う。
- 1) 「まちづくり」の意義と参加方法について学ぶ機会をつくる。
- 2) まちづくり勉強会（学内）、タウンウォッチング（学外）、地域の自然環境調査（学外）等を実施する。
- 3) 正課並びに自主活動を強化する。

Ⅳ. 社会貢献

高齢者・学生の交流活動を実施し、社会貢献活動として高齢者-学生交流・Learning Home Visit（LHV）事業、高蔵寺ニュータウンのキャンパスタウン化の各活動を軌道に乗せ、世代間交流プログラムを推進する。

- ①高齢世帯および独居高齢者の見守りや生活支援を目的に、若者による高齢者との交流を実践する。
- 1) KCGサークル（地域発の健康教室）等の高齢者向けの健康に関する活動の実施。
- 2) 様々な活動を通しての高齢者とのコミュニケーションの実施。

春日井市の知の拠点＝**中部大学**
 学部：7学部(29学科)、大学院：6研究科
 学生数：約10000人、教員数：約500人

あてになる人間の育成
**中部大学認定
 地域創成メディアエーター**

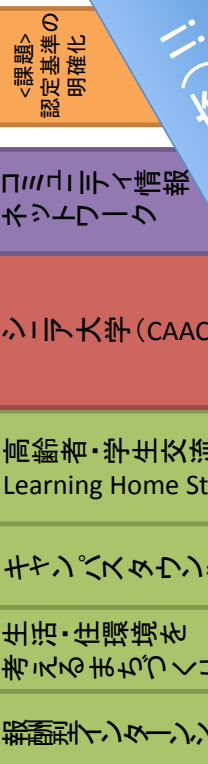
本プログラムで育成した、中部大学認定「地域創成メディアエーター」が、人と人との絆をつくる介在をし、活力あるコミュニティを形成する。

春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業

地域の方々と学生、地域と大学がキャンパスの壁を越えて融合し、持続可能な新しい未来社会とその教育を春日井の地に実現する。
中部大学は平成26年に開学50周年を迎える。中部大学ならやれる！中部大学が成功させる！



地域との関わり体験を通して他者を理解し、自身の価値観をみつめる

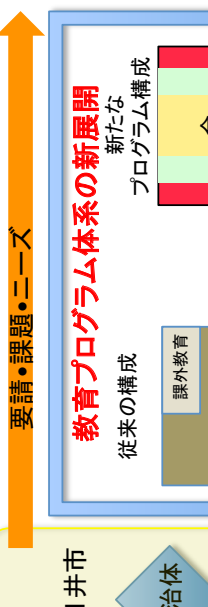


教育プログラム体系の新展開
 新たな構成
 全学共通教育
 学部・学科
 専門科目

従来の構成
 課外教育
 専門教育
 基礎教育

本プログラムでは、全学共通教育科目に「地域共生実践」(2単位)を新設する。さらに学部・学科において、地域連携に関する科目・演習等を設置する。

本プログラム推定参加学生数：
 25年度：約50名、26年度：約80名
 27年度：約400名
 28年度：約600名
 29年度：約800名
 (以降、順次増加する。)



要請・課題・ニーズ

春日井市

自治体

市民

地域

企業

学校
 (小・中・高)

その他

正課教育
 地域の方々と学生、地域と大学がキャンパスの壁を越えて融合し、持続可能な新しい未来社会とその教育を春日井の地に実現する。
中部大学は平成26年に開学50周年を迎える。中部大学ならやれる！中部大学が成功させる！

「らせん」構造
 複合的学修システム

地域との関わり体験を通して他者を理解し、自身の価値観をみつめる

情報ネットワーク

シニア大学(CAAC)

高齢者・学生交流
 Learning Home Stay

キャンパスタウン化

生活・住環境を
 考えるまちづくり

報酬型インターンシップ

春日井市にある高蔵寺ニュータウンを課題解決のモデル地域と位置づけ、包括的な人材育成と地域活性化事業を中部大学と自治体が協力して実施する。本市全域に発展させる予定である。事業終了時には、春日井市が活性化された、人材が育つ。

中部大学のCOCとしての目標

- “地域”と言う名のシャワー(刺激)で学生を育てる。
- 地域だけでは解決できない課題を、大学の持つシーズを活かして、地域と協働で取り組む。
- “まちづくり”の不可欠な資源が次代を担う若者である。この意識を高め、地域と共に育てる。
- 地域において優しい心配りができる、真のリーダー養成を目指す。
- 地域からあてにされる大学を目指す。
- 地域連携において、春日井モデルを明確にし、このモデルを全国に伝える。

創造

- ・新たな価値を創造することができる
- ・情報共有システムに必要な技術を開発することができる
- ・調査した技術を整理することができる
- ・老若男女が同一の環境で学ぶ場を提供できる
- ・学生本人が人生プランを創造することができる

自立

- ・社会人としての考え方や能力を伸ばすことができる
- ・一人一人が多様な個性・能力を伸ばす事ができる
- ・対人関係形成能力を改善し自立心を養うことができる
- ・世代間交流により知的にも道徳的にも成長することができる
- ・地域貢献することにより目的意識や学習意欲を高めることができる
- ・世代を超え、相互に切磋琢磨し、いたわりの心と自立心を養う事ができる
- ・地域特有の課題を見つけて出しその解決策を考える能力を伸ばす事ができる

協働

- ・春日井市の活性化に寄与できる
- ・プロジェクトメンバーの一員として、システムの在り方を議論できる
- ・地域の方々と対話・議論し、システムの在り方を議論することができる
- ・異世代の結束は地域を活性化し、高齢社会問題の多くを解決できる
- ・高齢者と若者の相互理解が、異なる世代同士の結束をもたらすことができる
- ・共に支え合う、共に学び合う、共に理解し合うことを通じて社会に参画することができる

創造

- ・持続可能な日本社会を創造するために有用な新しい教育構造を提示できる
- ・世代間交流により意図的・政策的・教育的プログラムが創造できる
- ・新たな視点による「まちづくり」の意識を創造することができる
- ・高齢者対策にとって積極的で画期的な取り組みができる

自立

- ・社会人としての考え方や能力を伸ばす事ができる
- ・一人一人が多様な個性・能力を伸ばす事ができる
- ・対人関係形成能力を改善し自立心を養うことができる
- ・世代間交流により知的にも道徳的にも成長することができる
- ・地域貢献することにより目的意識や学習意欲を高めることができる
- ・世代を超え、相互に切磋琢磨し、いたわりの心と自立心を養う事ができる
- ・地域特有の課題を見つけて出しその解決策を考える能力を伸ばす事ができる

協力・提案・シナジー

(注)2013年申請書類より抜粋

(1) -3 2020年度以降 COC養成事業詳細図

中部大学における地域発展に貢献する人材の育成（2020年度以降）

【専門分野の学習】

～地域の課題を発見し、解決の一步を踏み出す人材になるう～

COC（春日井市ほか）

学ぶ(10単位以上)+動く(1企画以上) 年間100名程度
全学科対象

地域創成メデイエーター（学長名）認定

地域創成メデイエーター発表会・審査会

報酬型インターンシップ

生活・住環境を考えるまちづくり

コミュニティ情報ネットワーク

世代間交流プログラム

地域連携住居

シニア大学(CAAC)

その他
(セミ単位等のフィールド活動)

動く(課外)

1個以上の参加

学ぶ(正課) 10単位以上

④ 活躍する

③ 挑戦する

① 見る ② 聞く

～『あてになる人間』具現化プロセス～

～地域(ふるさと)の良さを知り、活躍できる人材として地域(ふるさと)に還ろう～

COC+ (岐阜県)

学ぶ(3単位以上)+動く(5企画以上) 年間15-20名程度 全学科対象

COCと産業界ニーズへ振分け
地域活性化リーダーは地域創成メデイエーターと統合

企業現場教育(岐阜県)は、産業界ニーズと統合

サマースクールは、COC「動く」へ移行

フィールド活動@ぎふは、専門分野の学習のため、COC「動く」へ移行

PBL@ぎふゼミは、地域や周囲に関わっていくための力を身に付けることができる体験型学習のため、COC「学ぶ」へ移行

COC+でのリスク予防管理士指定科目は、産業界ニーズと統合

【キャリア教育】

～リスク管理を修得して、21世紀型企業人になるう～

産業界ニーズ

学ぶ(3単位+1企画)+動く(1企画)
年間150名程度 指定学科対象

リスク予防管理士(学長名)認定

3・4年

・下記全てについて必修
・下記総合評価にてA以上を認定

動く(課外)

1-3年

企業現場教育(愛知県等)
指定学科(※)各1回

必

レポート

1-3年

企業現場教育(岐阜県)

学ぶ(正課2単位以上+一部課外)

2-3年

リスク予防管理士指定科目
(ハイオ産業リスク予防学ほか) 2単位
(愛知企業等より特別講師招聘)

必

レポート

2-3年

単位認定基準に依り

必 2

3年秋

リスク予防管理士特別セミナー
(愛知企業等経営者クラス) 年2回

必

レポート

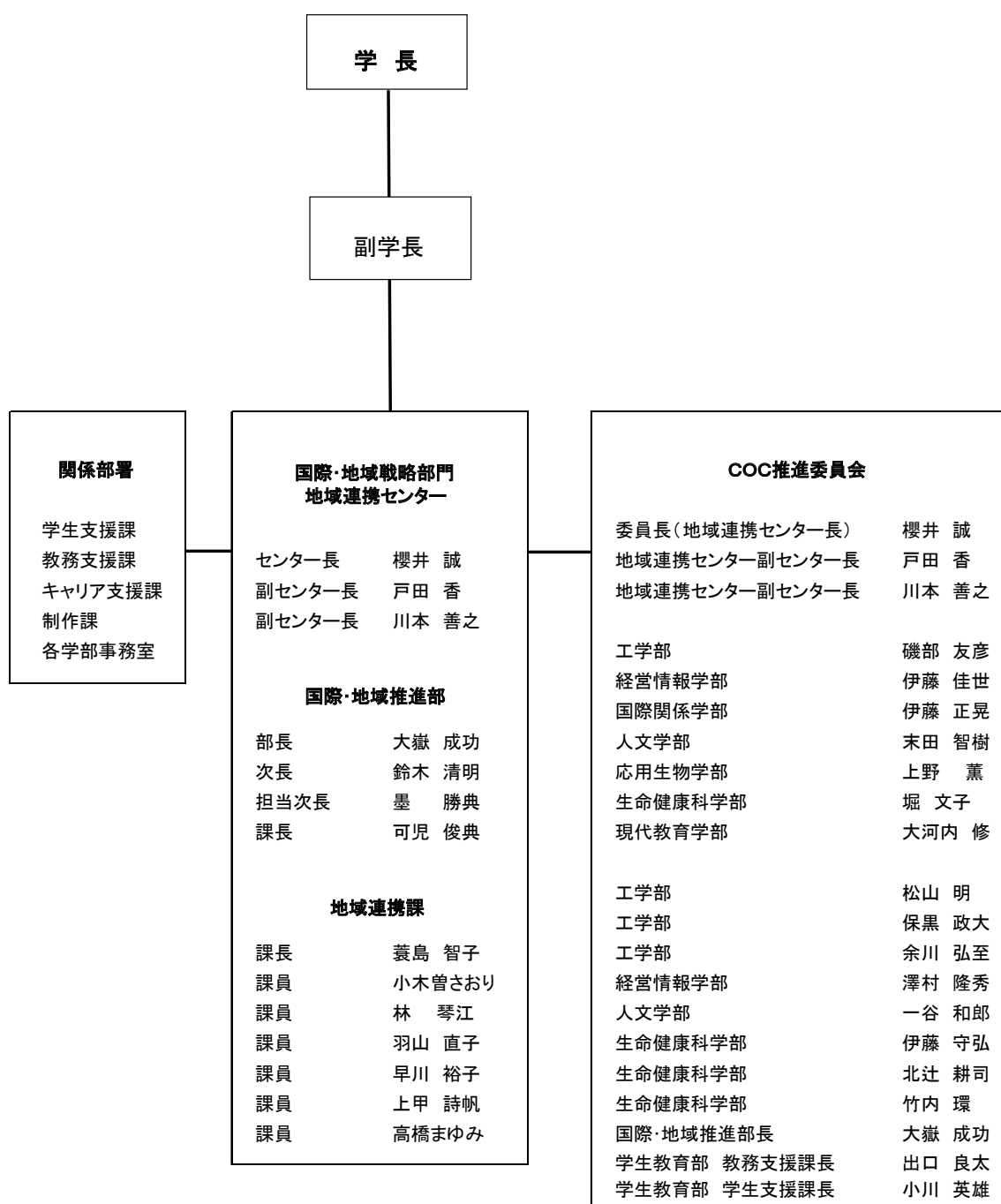
(2) 実施体制・メンバー表

(2) 実施体制・メンバー表

本事業を全学的に推進・実施するために以下のように学長を総括責任者とし、全学体制を構築。実際の事業は、全学部からの委員を含むCOC推進委員会を設置し推進にあたっている。またCOC推進委員会内に活動毎に3つのワーキンググループを設け各活動を展開し、事務部門は2019(令和1)年度から国際・地域推進部で事業全体の事務的管理にあたっている。(以下、中部大学COC継続事業体制図およびCOC・WGメンバー表参照)

2022年2月現在

中部大学COC継続事業 体制図



2021年度 COC・WGメンバー (2月1日)

正課教育WG (活動番号①)

委員長	上野 薫	(応用生物学部 環境生物科学科 准教授)
副委員長	伊藤 守弘	(生命健康科学部 生命医科学科 教授)
委員	竹内 環	(生命健康科学部 助教)
同	山羽 基	(工学部 建築学科 教授)
同	伊藤 佳世	(経営情報学部 経営総合学科 准教授)
同	羽後 静子	(国際関係学部 国際学科 教授)
同	牧野 典子	(生命健康科学部 保健看護学科 教授)
オブザーバー (事務局)	櫻井 誠 墨 勝典	(地域連携センター長/工学部 応用化学科 教授) (国際・地域推進部 担当次長)

生活・住環境を考えるまちづくりWG (活動番号②)

委員長	磯部 友彦	(工学部 都市建設工学科 教授)
副委員長	松山 明	(工学部 建築学科 准教授)
委員	岡本 肇	(工学部 都市建設工学科 准教授)
同	横江 彩	(工学部 建築学科 准教授)
同	余川 弘至	(工学部 都市建設工学科 講師)
同	小林 由実	(応用生物学部 食品栄養科学科 助手)
(事務局)	墨 勝典	(国際・地域推進部 担当次長)

世代間交流プログラムWG (活動番号③)

委員長	堀 文子	(生命健康科学部 保健看護学科 准教授)
副委員長	戸田 香	(生命健康科学部 理学療法学科 教授)
委員	長島 万弓	(応用生物学部 食品栄養科学科 教授)
同	野田 明子	(臨床検査技術教育・実習センター 教授)
同	三摩 真己	(人文学部 コミュニケーション学科 教授)
同	末田 智樹	(人文学部 歴史地理学科 教授)
同	伊藤 守弘	(生命健康科学部 生命医科学科 教授)
同	宮下 浩二	(生命健康科学部 理学療法学科 教授)
同	尾方 寿好	(生命健康科学部 スポーツ保健医療学科 准教授)
同	横手 直美	(生命健康課学部 保健看護学科 准教授)
同	矢澤 浩成	(理学療法実習センター 講師)
同	谷利 美希	(作業療法実習センター 講師)
同	北辻 耕司	(生命健康科学部 スポーツ保健医療学科 助教)
同	松村 亜矢子	(生命健康科学部 准教授)
(事務局)	墨 勝典	(国際・地域推進部 担当次長)

2. 活動報告

(1) 全体の活動成果

2. 活動報告

(1) 全体の活動成果

事業活動はCOC推進委員会ならびに活動毎のワーキンググループにより行なわれてきたが、それらに共通する課題や統括する活動は地域連携センター長を中心にCOC推進委員会等COC全体で取り組んできた。それらの成果は以下のようである。

1) 中部大学COC継続事業のスタート

文部科学省「地（知）の拠点整備事業」としての5年間が終了し、2018（平成30）年度からは中部大学COC事業として再スタートをした。また、2019（令和元）年度をもって、文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（COC+）としての5年間も終了した。そのため、2020年度からは、2019年度まで6つあったWGを4つに統合して新たにCOC継続事業としてスタートした。さらに2021年度にはシニア大学が、シニアの枠を取り、広く社会人を対象とした中部大学アクティブアゲインカレッジ（CAAC）として、新たに独立事業として展開することとなったため、今年度のCOC継続事業は3つのWGに整理統合し、正課外活動を春日井市及びその近郊地域へ拡げて活動することになった。

2) COCホームページの拡充

各ワーキンググループの活動内容を中心に適宜更新し拡充した。

3) COC推進委員会の開催

各ワーキンググループリーダーと各学部代表委員などからなるCOC推進委員会の構成員を見直した。委員は、委員長以下21名とし、COC推進委員会が各活動の報告と重要事項の審議にあたった。

4) 地域創成メディエーターの育成

2015（平成27）年度までの立ち上げ期間を経て、2016（平成28）年度はCOC事業における地域創成メディエーターの本格的実施年度となった。以降、育成を継続し、2021（令和3）年度も前年度同様に育成に努めた。

(1) COC継続事業における地域創成メディエーターの人物像

本学の建学の精神「不言実行、あてになる人間」育成プログラムの重要な柱として、COC継続事業では「地域創成メディエーター」の育成を行っている。社会・産業界は、都市だけでなく「地域にも目を向けられる人材」を求めているため、「自ら行動できる人間」「考えられる人間」「自ら道を切り拓ける人間」「がんばれる人間」「信頼できる人間」「地域にも目を向けられる人間」としての学生育成を図っている。学生が地域社会に触れると「なぜ」「どうして」とこれまでの同学年の学生仲間関

係とは違う驚き等を感じ、対処法や改善策を考えると自然と「考える力」が熟成される。

(2) 地域創成メディエーター育成のための具体的アクション

以上の認識の下に、COC推進委員会、事務局が一丸となって、他部門とも密接な協力の下に以下に示すような具体的なアクションプランを作り、着実に実施し、地域創成メディエーターの育成を図った。

- ① 正課外教育事業の体験を1つ以上とする。
- ② オリエンテーション時に学生に対して、地域創成メディエーター取得を促すチラシ（別紙①参照）を配布することにより周知を図った。
- ③ 推進委員は担当する正課科目の講義にて地域創成メディエーターの取得を学生に促した。
- ④ 教務支援課に依頼し、資格取得に必須となる正課科目を取得あるいは履修中の学生を学科ごとにリストアップした。
- ⑤ 各推進委員に学科毎（場合により学部）の上記リストを渡し、各学科の3年生指導教員とタイアップしてリストの学生に地域創成メディエーターを取得するように積極的に促した。
- ⑥ 副委員長が事務局と連携し、⑤のフォローアップを行った。
- ⑦ 推進委員および「動く」の活動担当者から、119名の地域創成メディエーター候補の学生を選出いただき、「動く」の課外活動のフォローアップを行った。
- ⑧ 「動く」の活動は、昨年までに認定された活動のうち今年度も継続する28活動と、新たに認定された5つの活動を加えて、合計で33活動となった。
- ⑨ キャリア教育科目（自己開拓、社会人基礎知識）において、3年生以上のみ、大学側の受講人数制限により、本人の意思とは関係なく「学ぶ（正課教育）」を履修できない希望学生には、特別課題レポートを提出させて、地域創成メディエーター資格条件の「学ぶ」をクリアとする特別措置を認めた。特別課題教育科目では、必修科目としていた「地域共生実践」をその他5科目と同様に選択科目の1つとし、学生が資格取得に挑戦する可能性を上げた。また、従前COC+において開催していた「PBLぎふゼミ」は2020年度より「PBLゼミ」に改め、2021年度もキャリア教育科目の1単位として読み替え対象とした。
- ⑩ 地域創成メディエーター育成のルーブリック評価で、育成する人材像を明確にした。（別紙②参照）

(3) 地域創成メディエーター取得学生の推移

立ち上げ期間の2014(平成26)年度4名及び2015(平成27)年度5名から、本格実施となった2016(平成28)年度は144名、2017(平成29)年度からはルーブリック評価に基づき「地域創成メディエーター」の資格を132名、2018(平成30)年度は108名、2019(令和元)年度は66名、2020(令和2)年度は60名に授与した。2021(令和3)年度

は75名の学生に授与できる運びとなっている。

また、発展的に統合したCOC+事業における認定資格の地域活性化リーダーの取得については、単位取得中だった学生について継続的にフォローを行い、2020(令和3)年度は3名に授与した。2021(令和3)年度は対象者がいないことにより、今年度を以って地域活性化リーダーの資格認定は終了した。

2022(令和4)年度以降も引き続き地域創成メディエーターの育成を進めていく予定である。

5) 地域創成メディエーター学生発表会「+エクспレッション」開催(別紙③参照)

2月15日(火)本学不言実行館アクティブホールにおいて、中部大学地域創成メディエーター学生発表会「+エクспレッション」を開催した。新型コロナウイルス感染拡大状況により、ポスター発表は中止し、オンライン配信を取り入れたハイブリッド開催となった。

地域創成メディエーター資格認定の最終課題「+エクспレッション」は、講義での規定単位取得に加え、キャンパスを地域に広げた課題体験に参加・実践した学生たちが、まちの再生や地域活性化などの特有の課題に地域と協働して現場で解決策を考えて取り組んだ過程と成果を発表。口頭発表7名、ポスター発表68名の学生が地域創成メディエーター候補生となった。参加者は、一般市民8名、教職員32名、学生13名(口頭発表者、ポスター発表代表者含む)が来場し、WEB会場には50名の参加があった。

なお、来場者にアンケートを依頼し、15名から回答を得た。(別紙④参照)

6) 内部評価委員会の開催

3月4日(金)に学部長・研究科長会構成員からなる内部評価委員会が開催され、2021(令和3)年度事業活動の内部評価が行われた。

7) ぎふCOC+事業推進コンソーシアムへの参画

岐阜大学を中心とした事業協働機関としてCOC+事業に参加した5大学(岐阜大学、中部大学、中部学院大学、日本福祉大学、名古屋学院大学)で設立されている「ぎふCOC+事業推進コンソーシアム」に引き続き参加した。

8) 採択他大学との交流と活動

(1) COC+参加大学共通プログラム「オータムスクール」に参加

新型コロナウイルスの感染拡大により、従前までの合宿形態での「サマースクール」は開催できなくなり、その代替として、11月13日(土)、14日(日)、21日(日)の3日間にわたり、瑞浪市における「ふるさと納税」と「まちづくり」を題材とした課題に取り組む「オータムスクール2021 私が市長だ! 瑞浪市プロモーション大作戦」が開催された。この活動には岐阜大学をはじめとするCOC+参加の5大学より30名の学生が参加した(本学からは4名の学生が参加した)。

2 活動報告

(2) 「学生交流会」に参加

3月1日(火)岐阜大学と金沢工業大学を幹事校として、中部地区をはじめ全国の大学等を対象に、COC事業またはCOC+事業の継続的・発展的な活動だけではなく、地域の課題に関する活動、地域をフィールドとした活動の成果を発表する「学生交流会」がハイブリッド(現地及びWEB)開催され、各大学の代表学生が発表した。本学からは、工学部の光法快と塔本哲成、人文学部の倉地雄土が「小牧市東部まちづくりワークショップ」と題した発表を行った。

中部大学 学長認定資格

まだまだ

間に合う!!

いつからでも
気軽にチャレンジ可能!
気になったら
まずは、事務局へGO!!



就活を有利に!

免許・資格欄を
充実させたいなら!

地域創成メディエーター

地域が、キミのキャンパス。

中部大学 地域連携センター
キャンパスプラザ 2階

Phone.0568-51-9872 e-mail:coc@office.chubu.ac.jp
https://www3.chubu.ac.jp/innovation_mediator/

「地域創成メディエーター」資格とは、在学中から社会経験を積み、社会で生きる力を身につける、中部大学式「人材育成体験プログラム」。地域の人々と共に地域のさまざまな問題解決への取り組みを経て「行動できる人」「自ら道を切り拓く人」「頑張れる人」「信頼できる人」として中部大学が自信を持って認定し、推薦できる学生の証です。

- ADVANTAGE 1** 専門性がより高まる
- ADVANTAGE 2** 直接就職に結びつく可能性がある
- ADVANTAGE 3** 職業の適性がわかる
- ADVANTAGE 4** 就活時のアピールポイントになる
- ADVANTAGE 5** コミュカや思考力が高まる
- ADVANTAGE 6** 幅広い価値観が学べる
- ADVANTAGE 7** 学部学科を超えた仲間ができる

「地域創成メディエーター」の資格取得は、
地域と社会に選ばれるために必要な **実践力・応用力・人間力** を養うために役立ちます。

Step.1

単位取得 & 課題設定

規定単位を取得し、審査基準をクリアした人に、学長認定の資格が授与されます。

学ぶ

授業で
知識を習得
正課

Aの科目から1単位以上、
B～C科目から各2単位以上、合計10単位以上 必須

自立した社会人として地域の人々に関わるために、
地域社会の多様な背景を知り、専門的な知識を身につけよう。

A キャリア教育科目

「自己開拓」

グループワークによる実習。協同作業を通じて自分をより深く知ることができます。

「社会人基礎知識」

自分の適性に合う職種や企業を選ぶための基礎的な知識を習得します。

B 特別課題教育科目

「地域共生実践」

「持続学のすすめ」

「地域の防災と安全」

「地球を顧る」 「人類と資源」

「グローバル環境論」

C 地域関連科目

メディエーター資格取得の動機や
地域の理解に役立つ科目を自由選択

選択した科目で会得した知識が、地域課題へどう繋がったか、「関連」や「動機」、「成果」を表現できればOKです。

※地域関連科目の詳細は事務局まで

年1回開催 PBLゼミ

実社会に対応するリアルな問題に対峙する課題解決型学習 (Project Based Learning) で仕事に必要な共同作業の能力を養い、実践的思考を鍛えます。

★「学ぶ」Aキャリア教育科目の1単位に読み替え可能

動く

課外体験に
参加・実践
課外

1プロジェクト以上に参加 必須

キャンパスを地域に広げて、まちの再生や地域活性化など、
特有の課題に取り組む現場で解決策を考えて実践にあたります。

▼プロジェクト活動の一例 ※そのほかさまざまな活動が計画されています。プロジェクトの詳細は事務局まで

高齢者との交流

- シニア大学の講義を補助
- 世代間交流会への参加
- ラーニングホームでシニア宅の訪問や共同生活を体験

イベントの運営を通して地域貢献

- 高校の体育系部活の運営補助
- 子育て相談会の運営補助
- 街のイベント情報誌「まちこみゅニュース」の編集・発行

地域のまちを知るまちづくりを考える

- 高蔵寺ニュータウン地域連携住居への入居と地域交流イベント参加
- 障害者スポーツのすすめ
- 森の健康診断

技術を身につけながら地域貢献

- 報酬型インターンシップ
- NPO活動情報発信Webサイトの作成
- イベントでの救護ボランティア活動
- 地域の健康教室の活動支援

※「学ぶ」、「PBL」、「動く」のプログラム内容は変更される場合があります。

Step.2

資格申請

申請は手続きカンタン

申請書はパソコンでダウンロード! 必要内容を書き込み、単位証明書を添付して申し込むだけ。

いつでも教職員が全面サポート!
メディエーター資格取得は自主性・自発性を大切にしていますが、困ったときや分からないことは何でも相談を。ヒントやアドバイスをします。

Step.3

成果発表

plus エクスプレッション

資格取得の最後の課題がこの発表会。キャンパス内外を交えた審査員の前で、自身で設けた課題への取り組みと、その成果をプレゼンテーションします。自分自身の成長ぶりをしっかりアピールするのがポイントです。

課題への
取り組みと
成果

自分の変化
気づき
成長

会得した力を
今後どう
活かすか

審査

学長認定

地域創成 メディエーター 誕生

中部大学の建学の精神、「あてになる人間」=地域創成メディエーターに見事、認定された学生には、認定証が贈られます。資格取得までの道のりが社会で生きる力となり、その達成感「自分はやれる」という自信につながるハズ!

いつでも
何度でも
チャレンジ
できます

この資格は一度認定されれば終了ではありません。新たな挑戦を続け、自分をどんどん育てましょう!



中部大学

地域連携センター キャンパスプラザ 2階

TEL.0568-51-9872 e-mail:coc@office.chubu.ac.jp https://www3.chubu.ac.jp/innovation_mediator/

別紙② ルーブリック評価 (A-2表)

< A-2表 >

【ルーブリックは、学生に見せて、この項目で評価されることを伝えて頂きますようお願いいたします。】

中部大学地域創成デザインエーター資格申請 ルーブリック(A-2) 【動くの活動責任者(推薦者)が記入して下さい。申請書<A-1表>に添付の上、提出下さい。】

被推薦者氏名		学籍番号		所属:		氏名:				
認定活動名称		学籍番号		推薦者(教職員)		氏名:				
到達目標	小区分	評価	大項目	A(5点)	B(4点)	C(3点)	D(2点)	E(1点)	F(0点)	点数
1) 地域で生じている問題について理解し、解決のための地域の取り組みに主体的かつ継続的に仲間を協力し参加することができる。またその活動に意義を見出すことができる。 2) 取り組みに係る様々な主体とコミュニケーションを円滑にすることができ、自分の担当内容について責任をもって取り組むことができる。そのためのPOCAサイクル、報告、連絡・相談を滞りなく実施することができる。 3) 地域の取り組みに係ることで、自己理解を深め、自己啓発を促し、キャリア設計を再構築することができる。 4) 自分の専門性と特性を活かし、新しい視点からの意見や提案をすることができ。	1	3	合計10単位の整合性がとれている	十分整合性がとれている	整合性がとれている	整合性が不十分	整合性が不十分	整合性が不十分	整合性がない	点数
	2	3	自由選択の「地域連携科目」が活動(動く)と関連している	十分関連している	関連している	関連が不十分	関連が不十分	関連が不十分	関連がない	
	3	3	自由選択の「地域連携科目」の本来の意義や目的が理解できる	十分理解している	理解している	理解が不十分	理解が不十分	理解が不十分	理解がない	
	4	3	自分にとっての「関連科目」の意義が整理できる	十分整理されている	整理されている	整理が不十分	整理が不十分	整理が不十分	整理されない	
	5	3	他者との関わりを学び、実践できる	十分実践できる	実践できる	実践できない	実践できない	実践できない	実践できない	
	6	3	自分と他者の関係について、自分の考えを述べ、それを人に説明できる	十分説明できる	説明できる	説明できない	説明できない	説明できない	説明できない	
	7	3	組織を活性化させる力が身に付いている	十分身に付いている	身に付いている	身に付いていない	身に付いていない	身に付いていない	身に付いていない	
	8	3	"持続可能な社会"のために必要なもの、ことわりを考える力が身に付いている	十分身に付いている	身に付いている	身に付いていない	身に付いていない	身に付いていない	身に付いていない	
	9	3	考え方や価値観を異にする人々との対話に要するコミュニケーション能力が身に付いている	十分身に付いている	身に付いている	身に付いていない	身に付いていない	身に付いていない	身に付いていない	
	10	3	合憲形成のために重要な行動が理解できる	十分理解している	理解している	理解が不十分	理解が不十分	理解が不十分	理解がない	
	活動状況									
	1) 1	3	参加したプロジェクトの目的や意義が理解できる	若干の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	若干の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	行動に関して、進捗や間違いがほとんどなく、確実に実施することができ	行動に関して、進捗や間違いがほとんどなく、確実に実施することができ	行動に関して、進捗や間違いがほとんどなく、確実に実施することができ	行動に関して、進捗や間違いがほとんどなく、確実に実施することができ	行動に関して、進捗や間違いがほとんどなく、確実に実施することができ
2) 1	3	十分な量の活動ができる	申請者に期待される活動量を十分に満たして参加することができる	申請者に期待される活動量の6割程度は参加することができる	申請者に期待される活動量の3割程度は参加することができる	申請者に期待される活動量の3割程度は参加することができる	申請者に期待される活動量の3割程度は参加することができる	申請者に期待される活動量の3割程度は参加することができる	申請者に期待される活動量の3割程度は参加することができる	
3) 1	3	責任感をもって活動に参加できる	自分の仕事はまもなく、チーム全体のどんな仕事でも嫌がらずに1人で行うことができ、約束を守り成果をあげることはしない	自分の仕事はまもなく、チーム全体のどんな仕事でも嫌がらずに1人で行うことができ、約束を守り成果をあげることはしない	自分の仕事はまもなく、チーム全体のどんな仕事でも嫌がらずに1人で行うことができ、約束を守り成果をあげることはしない	自分の仕事はまもなく、チーム全体のどんな仕事でも嫌がらずに1人で行うことができ、約束を守り成果をあげることはしない	自分の仕事はまもなく、チーム全体のどんな仕事でも嫌がらずに1人で行うことができ、約束を守り成果をあげることはしない	自分の仕事はまもなく、チーム全体のどんな仕事でも嫌がらずに1人で行うことができ、約束を守り成果をあげることはしない	自分の仕事はまもなく、チーム全体のどんな仕事でも嫌がらずに1人で行うことができ、約束を守り成果をあげることはしない	
4) 1	5	主体的に活動に参加できる	指導がなくとも、極めて積極的に参加することができる	指導がなくとも、積極的に参加することができる	指導がなくとも、積極的に参加することができる	指導がなくとも、積極的に参加することができる	指導がなくとも、積極的に参加することができる	指導がなくとも、積極的に参加することができる	指導がなくとも、積極的に参加することができる	
5) 1	5	解決すべき課題が理解できる	指導がなくとも、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	指導があれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	指導があれば、必要な内容の3割程度を他者に明確に伝えることができる	指導があれば、必要な内容の3割程度を他者に明確に伝えることができる	指導があれば、必要な内容の3割程度を他者に明確に伝えることができる	指導があれば、必要な内容の3割程度を他者に明確に伝えることができる	指導があれば、必要な内容の3割程度を他者に明確に伝えることができる	
6) 1	3	課題解決のためにクリエイティブなアイデアを提案できる	指導がなくとも、適切な情報の収集およびそれに基づき客観的な判断を十分に実行することができる	指導があれば、適切な情報の収集およびそれに基づき客観的な判断を十分に実行することができる	指導があれば、適切な情報の収集およびそれに基づき客観的な判断を十分に実行することができる	指導があれば、適切な情報の収集およびそれに基づき客観的な判断を十分に実行することができる	指導があれば、適切な情報の収集およびそれに基づき客観的な判断を十分に実行することができる	指導があれば、適切な情報の収集およびそれに基づき客観的な判断を十分に実行することができる	指導があれば、適切な情報の収集およびそれに基づき客観的な判断を十分に実行することができる	
7) 1	3	プロジェクトにおける自分の役割が説明できる	指導がなくとも、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	指導があれば、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	指導があれば、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	指導があれば、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	指導があれば、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	指導があれば、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	指導があれば、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	
8) 1	3	チーム活動における自分の特性を理解し、チームに貢献できる	自分で自分の特性を把握し、他者にも伝えることができ、活動にもそれを活かす努力をしている	指導があれば、自分の特性を把握し、他者にも伝えることができる	指導があれば、自分の特性を把握し、他者にも伝えることができる	指導があれば、自分の特性を把握し、他者にも伝えることができる	指導があれば、自分の特性を把握し、他者にも伝えることができる	指導があれば、自分の特性を把握し、他者にも伝えることができる	指導があれば、自分の特性を把握し、他者にも伝えることができる	
9) 1	3	自分の専門性を活かし、新しい視点からの意見や提案をすることができ	自ら、自分の専門分野に関する情報収集を行った、新しい意見や提案を述べることができる	指導があれば、自分の専門分野に関する情報収集を十分に実行することができる	指導があれば、自分の専門分野に関する情報収集を十分に実行することができる	指導があれば、自分の専門分野に関する情報収集を十分に実行することができる	指導があれば、自分の専門分野に関する情報収集を十分に実行することができる	指導があれば、自分の専門分野に関する情報収集を十分に実行することができる	指導があれば、自分の専門分野に関する情報収集を十分に実行することができる	
10) 1	3	POCAサイクルを理解し、実行できる	POCAサイクルを理解し、実行できる	指導があれば、POCAサイクルを理解し、実行することができる	指導があれば、POCAサイクルを理解し、実行することができる	指導があれば、POCAサイクルを理解し、実行することができる	指導があれば、POCAサイクルを理解し、実行することができる	指導があれば、POCAサイクルを理解し、実行することができる	指導があれば、POCAサイクルを理解し、実行することができる	
11) 1	3	報告・連絡・相談(ホウレンソウ)を理解し、実行できる	報告・連絡・相談(ホウレンソウ)を理解し、実行できる	指導があれば、報告・連絡・相談(ホウレンソウ)を理解し、実行することができる	指導があれば、報告・連絡・相談(ホウレンソウ)を理解し、実行することができる	指導があれば、報告・連絡・相談(ホウレンソウ)を理解し、実行することができる	指導があれば、報告・連絡・相談(ホウレンソウ)を理解し、実行することができる	指導があれば、報告・連絡・相談(ホウレンソウ)を理解し、実行することができる	指導があれば、報告・連絡・相談(ホウレンソウ)を理解し、実行することができる	
12) 1	3	推薦理由	推薦理由	推薦理由	推薦理由	推薦理由	推薦理由	推薦理由	推薦理由	

別紙② ルーブリック評価〈B表〉

〈B表〉

中部大学地域創成メディアセンター資格申請 ルーブリック(B) 【発表指導責任者が申請後から発表会4日前までに記入し提出ください。】
 【ルーブリックは、学生に見せて、この項目で評価されることを伝えて頂きますようお願いいたします。】

被指導者氏名		学籍番号		所属		発表指導責任者		氏名		
認定活動名称		大項目		A(5点)		B(4点)		C(1点)		
到達目標	区分	小区分	選り番号	評価項目	3A 5A	3B 5B	A(3点)	B(2点)	C(1点)	
D(0点) F(0点)	点數									
1) 地域で生じている問題について理解し、解決のための地域的取り組みに主体的かつ継続的に仲間と協力し参加することができる。またその活動に意義を見出すことができる。	「動く」	内容・組織の理解	1	参加したプロジェクトの活動目的が理解できる	3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の3割程度は伝えることができる	
			2	参加したプロジェクトの活動目的が理解できる	3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の3割程度は伝えることができる	
			3	参加したプロジェクトの運営組織(フレームワーク)と関係者(対象者)について理解できる	3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の3割程度は伝えることができる	
			4	参加したプロジェクトの成果について理解できる	3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の3割程度は伝えることができる	
			5	参加したプロジェクトにおける今後の課題が理解できる	3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の3割程度は伝えることができる	
2) 取り組みに係る様々な主体とコミュニケーションを円滑にすることができ、自ら担当内容について責任をもつことができる。そのためのPDCAサイクル、報告・連絡・相談を滞りなく実施することができる。	活動後の反省・成長	6	プロジェクトに参加したことによる自分の成長が説明できる	3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の3割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の1割程度は伝えることができる	
		7	プロジェクトに参加した自分に対する課題が説明できる	3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の3割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の1割程度は伝えることができる	
		8	チーム活動における自分の特性を理解し、今後の活動に活かすことができる	5	指導がなくても、自分の特性を十分に理解でき、個性を他者に明確に説明することができる	自分の指導をすれば、自分の特性を十分に理解でき、個性を他者に明確に説明することができる	指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	指導をすれば、必要な内容の3割程度は伝えることができる	指導をすれば、必要な内容の1割程度は伝えることができる	指導をすれば、必要な内容の1割程度は伝えることができる
		9	成果を生むために重要なチームや個人としての在り方や考え方について説明できる	3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の3割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の1割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の1割程度は伝えることができる
		10	「地域創成メディアセンター」資格の目的や意義について理解できる	3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若手の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の3割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の1割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の1割程度は伝えることができる
プレゼン準備	1	プレゼンに必要な資料収集ができる	3	十分な資料を集められる	十分な資料を集められる	十分な資料を集められる	十分な資料を集められる	十分な資料を集められる	十分な資料を集められる	
2	プレゼン内容の方向性を考えることができる	3	自ら考えて工夫・改善が見られる	指導があれば、工夫・改善が見られる	指導があれば、工夫・改善が見られる	指導があれば、工夫・改善が見られる	指導があれば、工夫・改善が見られる	指導があれば、工夫・改善が見られる	指導があれば、工夫・改善が見られる	
3	プレゼン内容を総合的に理解できる	3	十分に理解できる	ある程度は理解できる	ある程度は理解できる	ある程度は理解できる	ある程度は理解できる	ある程度は理解できる	ある程度は理解できる	
4	プレゼン内容を通して、大学での自らの成長や課題を客観的に整理できる	3	十分に成長がみられ、課題について整理できる	課題については整理できる	課題については整理できる	課題については整理できる	課題については整理できる	課題については整理できる	課題については整理できる	
5	プレゼン内容を通して、将来自分が貢献したい「地域」における「活動」を語るることができる	3	具体的な活動内容を語るることができる	ある程度の活動内容を語るることができる	ある程度の活動内容を語るることができる	ある程度の活動内容を語るることができる	ある程度の活動内容を語るることができる	ある程度の活動内容を語るることができる	ある程度の活動内容を語るることができる	
合計点 (47/100点)									合計点 (47/100点)	

別紙② ルーブリック評価 (C表)

< C表 >

中部大学地域創成メディエーター資格申請 ルーブリック(C) 【発表会当日に評価員が記入】

被評価者氏名	学籍番号
--------	------

評価委員	所属:	氏名:	Ⓜ
------	-----	-----	---

区分	大項目	チェック	得点	小項目
プレゼン 当日	プレゼン内容が分かりやすい		A(3点)	内容が簡潔にまとめられていて理解しやすい
			B(2点)	内容は簡潔にまとめられているが、理解しづらい部分がある
			C(1点)	内容が簡潔にまとめられていないか、量が少なすぎるため、理解できない
			D(0点)	明らかに発表内容として不十分である
	プレゼン資料が見やすい		A(3点)	十分に工夫されていて分かりやすく、また効果的である
			B(2点)	工夫が少なく簡素ではあるが、理解できる
			C(1点)	資料不足あるいはまとめきれておらず、理解しづらい部分がある
			D(0点)	明らかに資料作成が不足していて、理解できない
	声の大きさが適切で、 身振りも使ってプレゼンができる		A(3点)	聞き取りやすい声で、身振りも使って発表ができる
			B(2点)	聞き取りやすい声ではあるが、身振りが少なく淡々と発表している
			C(1点)	声は大きいですが、早口で聞き取りづらい
			D(0点)	声が小さく、身振りも少なく、発表内容が分かりづらい
	プレゼンにふさわしい服装や姿勢、 視線、言葉遣いができる		A(3点)	いずれもふさわしいものである
			B(2点)	姿勢が悪く、下を向いているなど視線が定まっていない
			C(1点)	言葉遣いが悪く、言い直しが多い
			D(0点)	いずれもプレゼンにふさわしいものではない
	プレゼン内容に対しての 質疑応答ができる		A(3点)	質問に対して適切に答えることができる
			B(2点)	質問に対して時間は必要だが、答えることができる
			C(1点)	質問に対して適切に答えられない
			D(0点)	質問に対して全く答えられない
プレゼン内容を通して、 今後の自分のキャリア設計を 伝えることができる		A(3点)	具体的な内容を伝えることができる	
		B(2点)	曖昧な部分もあるが、ある程度は伝えることができる	
		C(1点)	キャリア設計と思われる内容はありますが、伝えられない	
		D(0点)	キャリア設計と思われる内容がない	
				合計点 [18点満点]

別紙③ 地域創成メディエーター学生発表会



文部科学省

地(知)の拠点

文部科学省 平成25年度「地(知)の拠点整備事業」選定取組
春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業



中部大学 第8回「地域創成メディエーター」学生発表会

PLUS エクスプレッション

参加無料

地域創成メディエーター資格とは？

地域の人と人をつ結びつけるメディエーター
[mediator: 媒介者]となり、春日井市をはじめ
地域の様々な問題に主体性をもって取り組み、
中部大学の建学の精神
「不言実行・あてになる人間」を身につけた学生
に認定される資格です。



2022. **2/15** (火)

13:30 ▶ 16:30 [13:00 受付開始]

中部大学不言実行館 1F アクティブホールほか



中部大学

主催／中部大学 後援／春日井市 お問い合わせ／中部大学 地域連携センター

〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200 TEL.0568-51-9872 FAX.0568-51-1172

E-mail coc@office.chubu.ac.jp <https://www3.chubu.ac.jp/coc/> ※お申込みは裏面をご確認ください



「地域創成メディエーター」資格は、資格そのものが大切なのではなく、その道のりこそが学生自らにとって大事なことであり、「意義」と「価値」がある「行動」です。

文部科学省 平成25年度「地(知)の拠点整備事業」選定取組
春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業
第8回「地域創成メディエーター」学生発表会

PLUS エクスプレッション

プログラム

- 13:30 開会挨拶：櫻井 誠 (中部大学 地域連携センター長)
- 13:35 学生によるプレゼン発表
- 15:00 学生によるポスター発表 2Fステージエリア
- 16:20 地域創成メディエーター認定証 授与式
- 16:25 閉会挨拶：戸田 香 (中部大学 地域連携センター副センター長)
- 16:30 閉会

*プログラム内容は予告なく変更される場合がありますのでご了承ください

プレゼン発表

地域創成メディエーター資格に挑む学生が、これまでの知識修得と体験を振り返り、達成感や今後の課題、目標なども交え、自己成長について自らプレゼンテーションを行います。

ポスター発表

自己プレゼンテーション同様、ポスターを用いて自己成長について視覚的にPR。参加者の皆さまには学生と直接コミュニケーションをとっていただき、ご意見やアドバイスをお願いします。



中部大学へのアクセス

●JR神領駅からスクールバス

JR中央本線「神領(じんりょう)」駅下車
(名古屋駅より「普通」で約26分)、
北口「中部大学バスのりば」から名鉄バスで約10分

●JR高蔵寺駅から名鉄バス

JR中央本線・愛知環状鉄道「高蔵寺(こうぞうじ)」駅下車
(名古屋駅より「快速」で約26分)、
北口8番のりばより名鉄バス
「中部大学前」行に乗車約10分

●お車ご利用の場合

東名高速道路
春日井インターチェンジより約5分



お申し込み締切
2/10(木)

参加ご希望の方は、下記ご記入のうえFAXにてご送信ください。お申し込みはメール、お電話でも受けつけております。

ふりがな			
氏名			
勤務先 団体名			
所属		役職	
連絡先	TEL		
	e-mail		



中部大学

参加お申込み・お問い合わせ先：中部大学 地域連携センター

FAX.0568-51-1172 TEL.0568-51-9872 e-mail.coc@office.chubu.ac.jp

第8回地域創成メディアーター学生発表会 PLUS エクスプレッション

日時：2022年2月15日(火曜日) 午後2時00分～午後3時45分

会場：中部大学 不言実行館 1階 アクティブホール

主催：中部大学

後援：春日井市

14時00分～14時05分

開会挨拶 櫻井 誠 (中部大学 地域連携センター長)

14時05分～15時20分

地域創成メディアーター紹介 上野 薫 (中部大学 応用生物学部・准教授)

学生による自己プレゼンテーション

1 「みんなを」「信じる」「私」

稲垣 龍雅 (人文学部 コミュニケーション学科 3年)

2 大学生生活 リベンジャー

光法 快 (工学部 都市建設工学科 2年)

3 自分と社会の未来を創る

宮田 直 (経営情報学部 経営総合学科 3年)

4 スタートラインへの旅

小林 岳斗 (工学部 都市建設工学科 3年)

5 受け身から自発へ ～活動で成長～

服部宏太郎 (工学部 都市建設工学科 3年)

6 真のコミュカとは ～地域貢献活動を通して～

樋口 春輝 (工学部 都市建設工学科 3年)

7 「発信」で「成長」

荒川 杏菜 (人文学部 コミュニケーション学科 4年)

<休憩>

15時30分～15時40分

地域創成メディアーター認定証 授与式 竹内 芳美 (中部大学長)

15時40分～15時45分

閉会挨拶 戸田 香 (中部大学 地域連携センター 副センター長)

**** 中部大学 地域連携センター ****

〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200番地

Tel: 0568-51-9872

■学生によるポスター発表

NO.	学科	氏名	学年
A-1	都市建設工学科	伊藤 健甫	3年
A-2	都市建設工学科	森 創太	3年
A-3	歴史地理学科	倉地 雄土	2年
A-4	経営総合学科	柴田 拓実	3年
A-5	経営総合学科	渡邊 修司	2年
A-6	欠番		
A-7	都市建設工学科	遠藤 滉大	3年
A-8	都市建設工学科	伊藤 大賀	3年
A-9	理学療法学科	安藤 拓視	3年
A-10	生命医科学科	梅村 魁人	3年
A-11	建築学科	小野 衛	3年
A-12	建築学科	朝倉 翔一	2年
A-13	理学療法学科	石黒 翔大	3年
A-14	理学療法学科	水谷 翔	3年
A-15	コミュニケーション学科	丸井 萌	3年
A-16	コミュニケーション学科	和田 萌子	3年
A-17	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	阪本 敦也	2年
A-18	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	兼松 暖	1年
A-19	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	横山 涼花	1年
A-20	都市建設工学科	河邊 康平	3年
A-21	都市建設工学科	山本 航征	3年
A-22	都市建設工学科	小塚 結貴	3年

21名

NO.	学科	氏名	学年
B-1	都市建設工学科	加藤 智士	3年
B-2	都市建設工学科	山田 銀平	3年
B-3	欠番		
B-4	経営総合学科	塚本 美空	3年
B-5	欠番		
B-6	国際学科	橋本 拓歩	3年
B-7	コミュニケーション学科	天野 真由	3年
B-8	都市建設工学科	北村 純平	3年
B-9	理学療法学科	丹羽 剛	3年
B-10	生命医科学科	神谷 咲良	3年
B-11	建築学科	永井 佑茂	3年
B-12	建築学科	生悦住理子	2年
B-13	理学療法学科	黒谷 悠仁	3年
B-14	コミュニケーション学科	古川 舞	3年
B-15	コミュニケーション学科	水野 翠	3年
B-16	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	伊東亜満歌	2年
B-17	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	西村瑛美理	2年
B-18	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	畠中 葵	1年
B-19	都市建設工学科	江上 健太	3年
B-20	都市建設工学科	桑山 拓巳	3年
B-21	都市建設工学科	山本 次郎	3年
B-22	都市建設工学科	後藤 誠弥	3年

20名

NO.	学科	氏名	学年
C-1	都市建設工学科	村上 嵩樹	3年
C-2	都市建設工学科	神田 啓登	2年
C-3	欠番		
C-4	欠番		
C-5	欠番		
C-6	環境生物科学科	浅野 瑞紀	3年
C-7	コミュニケーション学科	大井田 凜	3年
C-8	都市建設工学科	須賀 俊介	3年
C-9	理学療法学科	水井 孝紀	3年
C-10	応用生物化学科	赤羽 朋美	3年
C-11	建築学科	青山 優奈	2年
C-12	建築学科	今城 疾風	2年
C-13	理学療法学科	小松 蓮	3年
C-14	コミュニケーション学科	堀田 萌	3年
C-15	コミュニケーション学科	良知 遥	3年
C-16	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	長船 莉子	2年
C-17	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	大石真由香	1年
C-18	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	山田理未佳	1年
C-19	都市建設工学科	尾崎 俊甫	3年
C-20	都市建設工学科	永縄 篤	3年
C-21	都市建設工学科	木村 直哉	3年
C-22	都市建設工学科	丹羽 杏樹	3年

19名

NO.	学科	氏名	学年
D-1	作業療法学科	鈴木 凜那	3年
D-2	作業療法学科	安倍 志織	2年
D-3	作業療法学科	壹岐ひなた	2年

NO.	学科	氏名	学年
D-4	作業療法学科	伊藤かなみ	2年
D-5	作業療法学科	小谷こころ	2年
D-6	作業療法学科	下野実咲妃	2年

NO.	学科	氏名	学年
D-7	作業療法学科	高橋ひなた	2年
D-8	作業療法学科	柵木 麻佑	2年

8名

地域創成メディエーターポスター発表者(合計68名)

[第 8 回地域創成メディエーター学生発表会] の様子 ～2022 年 2 月 15 日(火)～



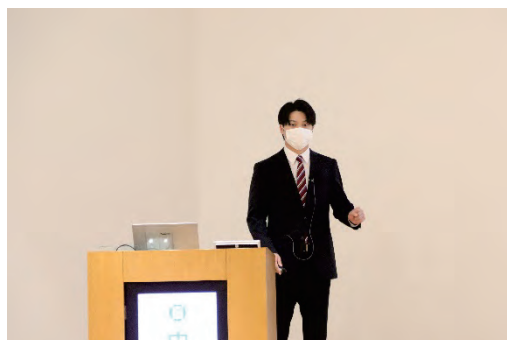
開会挨拶 櫻井誠
(中部大学教授 地域連携センター長)



学生によるプレゼンテーション 1



学生によるプレゼンテーション 2



学生によるプレゼンテーション 3



質疑応答



資格認定授与式 竹内芳美 (中部大学長)



資格認定授与式



口頭発表・ポスター発表学生記念撮影

2 活動報告

- ・プレゼンテーションが皆さん上手でしたが、これらの取り組みに参加し成長したことで自信がプレゼンにつながったのか、今回の発表のために懸命に練習した成果なのか、もともとプレゼン上手だったのか、知りたいと思いました。このようなプレゼン能力は社会に出ても必要なことですので、より多くの学生がこの能力を身につけられると良いと思います。
- ・学生に課題を与え、問題意識を持たせる「自ら学び、行動する」活動は本当に素晴らしい活動だと思います。
- ・みなさん声が大きくはっきり、よく分かりました。発表のフォーム(パワーポイント)に共通性(統一性)があるとよい。バラバラで見にくい。
- ・地方の現場へ出向し、地域の意見を直に聴き何を問題視しているかと体験した事で、すごく身に付いている事と思いよい体験だと思いました。
- ・細く長くつづけていくことが大事ですね。そのうちメディエーターOB、OGが地域側の担当者になる日を期待します。
- ・発表はどれも完成度が高く、大変良かったです。
- ・とても良かったです。それぞれがどう成長したかを見ることか出来ました。
- ・大変有意義なプログラムだと思います。

8. その他ご意見ご要望などございましたらお聞かせください

- ・人との関わりが大切な活動だと思いますので、このコロナ禍で関係者の方々、学生さんはとても苦労されたと思います。ありがとうございました。
- ・発表者の学部・学科バランスがよいともっと良かった。
- ・学期中(長期休みでない日)に開催された方が聴講者(オンライン)が増えるのでは。
- ・当地春日井市の活性化をめざし、もっと当地の住民との対話の拡大を図って欲しいと思います。
- ・現在、職場で若手人材の教育の難しさが問題(問題例:失敗から学ぶことを嫌がる、コミュニケーション能力の不足、人の話を聞かず、自己改善しようとしめない、受け身である)になることが多く、他企業の方に伺っても同じような問題をお持ちになってみえるようです。しかし、本日お話を聞かせて頂いた学生の皆様は、その問題を感じさせないような方々であったと思いました。今後、さらにこのような方々が増えることで、社会が活性化していくことにつながると思います。がんばってほしいです。
- ・SDGs プロジェクトなどに進化したとしても、地域貢献を柱として維持していただければ幸いです。
- ・地域の唯一の大学だからいろいろな場に参加したいと思うが...もう年をとりすぎてなかなか来校機会が減った。

2022年2月15日実施

(2) ワーキンググループ等報告

- ① 正課教育WG
- ② 生活・住環境を考えるまちづくりWG
- ③ 世代間交流プログラムWG

① 正課教育WG

1. 活動組織

委員長	上野薫
副委員長	伊藤守弘
委員	竹内環、山羽基、伊藤佳世、羽後静子、牧野典子 (櫻井誠)

2. 活動計画

4月-7月	「地域共生実践」春学期3クラス授業（遠隔授業）
4月-9月	地域創成メディエーター育成のルーブリック評価の見直し
4月-3月	地域創成メディエーターへの導き（広報活動）
4月-3月	次年度以降の開講数・講義手法の検討と情報収集
4月-8月	「地域共生実践」テキスト修正案の作成・評価基準の検討
8月-9月	春学期「地域共生実践」ふりかえり、評価基準の再検討、協力者勧誘
8月-9月	地域創成メディエーター申請様式検討
9月-1月	「地域共生実践」秋学期5クラス授業（遠隔授業）
10月	地域創成メディエーター申請開始
11月	地域創成メディエーター審査（プレゼンテーション候補者の選出）
11月-12月	地域創成メディエーター説明会開催
12月-2月	地域創成メディエーター学生発表会
2月-3月	秋学期「地域共生実践」ふりかえり、評価基準の再検討、協力者勧誘
2月-3月	「地域創成メディエーター」認定

3. 活動成果

総括：

2021年度も新型コロナ対応として「地域共生実践」は全て遠隔実施となった。本科目はグループワークが主体であるため、対面実施の場合にリスクが高いと判断したためである。昨年度と同様に、学科や学生個人によりGSEやZoomなどの遠隔教育システムへの対応可能度には差があるため、Course Powerを主としてグループワークに必要な資料配布、グループ間での意見共有などにより運営した。履修者の傾向としては、学年に関係なく、春・秋学期ともに急なコロナ対応（対面講義→遠隔講義）でも取得単位につなげようと前向きに考える学生と、自己管理が不十分で途中からレポート未提出が続いた学生との二極化が見られた。メディエーター資格への学生の履修時での目的意識は昨年と同様に少し低いように感じられ、これは長期化する新型コロナの影響により、目的意識が明確に持てない学生もいると思われた。

2019年度でのCOC+の終了に関連し、地域創成メディエーター輩出に関わる作業の簡略化や質の確保などが2020年度に議論され、学生自身が本資格に挑戦しやすくなる状

況を創出するため、本資格エントリー時での「地域共生実践」の取得については、2021年度から選択科目に変更された。さらに、次なる教育システムのステップアップのためのスタッフ側の余力を産むために昨年度議論されていたとおり、本年度は必須科目が選択科目になったことによる履修者数の推移や学生のエントリー数を春学期にて確認し、選択科目への変更による影響は認められなかったため、教務支援課への削減を申請した。その結果、2022年度より春学期2クラス、秋学期3クラスの並列開講に削減されることとなった。

項目別：

- 5月-7月 「地域共生実践」春学期3クラスの授業運営を実施した。
(履修者 79+79+76=234名、教員6名)
- 4月-3月 地域創成メディエーター育成のルーブリック評価の見直し：特に変更の必要性は認められなかったため、昨年通りで実施した。
- 4月-3月 地域創成メディエーターへの導き(広報活動)：オリエンテーションでのパンフレット配布・説明などを行った。
- 4月-3月 コロナ禍のため、対面式集会には参加できなかった。各自でPBLゼミ、学外フォーラムに関わる遠隔参加を実施した。
- 4月-8月 「地域共生実践」テキスト修正案の作成・評価基準の検討：委員会等により意見を収集したが、大きな問題は認められなかったので昨年通りで運営した。
- 8月-9月 春学期終了後、担当者間で春学期「地域共生実践」のふりかえり、評価基準の再検討を行うとともに、秋学期の協力者の勧誘を行った。
- 8月-9月 地域創成メディエーター申請様式検討：本年度は変更の意見がなく、昨年同様の様式での実施となった。
- 9月-1月 「地域共生実践」秋学期5クラスの授業運営を実施した。
(履修者 75+72+80+79+80=386名、教員9名)
- 1月-3月 秋学期終了後、秋学期「地域共生実践」のふりかえり、評価基準の再検討を行うとともに、次年度の協力者を勧誘した。
- 10月 地域創成メディエーター申請を予定通り開始した。
- 11月 地域創成メディエーター審査(プレゼンテーション候補者の選出)を予定通り実施した。
- 12月 「地域共生実践」受講生への「地域創成メディエーター」説明会を開催(2回実施)した。「動く」指導担当教職員へのポスター作製における指導を昨年と同様に具体的に実施し、配布資料にも明記した。
- 1月-2月 口頭発表練習を実施し、プレゼンテーションの本質的な目的や具体的な方法について指導するとともに、学生同士での学びの機会を与えた(2022年1月25日に1回目を、2月14日に2回目を実施)。
- 2月 地域創成メディエーター学生発表会の実施(+エクспレッション、2022年2月15日および3月18日の2回で実施)。
- 2月-3月 「地域創成メディエーター」認定(75名)。自主性の高い候補者の輩出を予

定している。

4. 今年度の課題・次年度の目標

コロナ禍2年目となる2021年度における地域創成メディエーター資格へのエントリー数は、昨年度と同程度であり、無理のない学生主体の希望数に近い値であったと考えられる。2022年度には、本学のSDGs関連講義のプログラムが活性化する動きがあるため、今後の「地域共生実践」やその他の関連講義の担当者や意義の整理などが課題になってくると思われる。コロナ禍3年目に突入し、徐々にwith/afterコロナの社会のありかたに変容してきている中、本講義においても持続可能で効果的なハイブリッドな講義運用方式について検討を続けていきたい。

第8回 地域創成メディエーター学生発表会「プラス・エクスプレッション」 2022年2月15日(火)開催



② 生活・住環境を考えるまちづくりWG

1. 活動組織

委員長 磯部友彦

副委員長 松山明

委員 岡本肇 余川弘至 横江彩 余川弘至 小林由実

2. 活動計画

- 10月－12月 春日井市の産地直売ひろば「ぐうぴいひろば」(JA尾張中央と連携)の活性化
- 9月－1月 岐阜県東濃地区の食文化の聞き取り調査の実施
- 5月－7月 アスコンについて「考動、未来につなぐ・残す」の活動実施
- 6月－12月 タウンウォッチング(高蔵寺NTタウンウォッチングなど)の実施
- 10月－12月 地域交通に関する調査の実施
- 10月 春日井まつり わいわい☆カーペンターキッズにボランティア参加
- 通年 演習・ゼミナールのテーマとして現実の地域課題を取り上げる
- 通年 卒業研究のテーマとして地域課題に対する解決方法に取り組む
- 通年 地域の人々との十分なコミュニケーションを交えた学生の自主活動を促進する
- 通年 過年度の地域志向研究経費による活動のフォローアップをする
- 通年 地域創成メディエーターの育成を計画的に実施する。

3. 活動成果

1) 正課としての活動

- a. 都市建設工学科「部門創成B(3年生科目)」において現地視察等を実施。

10月12日 春日井市役所ならびにJR春日井駅周辺(磯部友彦担当)【参加学生10名】



JR春日井市駅周辺開発現地視察



春日井市役所内で職員とともに演習実施

- b. 建築学科「ゼミナールA、B(3年生科目)」、「地域住宅計画(3年生科目)」、「建築・都市計画演習(3年生科目)」において現地視察等を実施

4月19日 ゼミナールA 春日井市プログレスビレジ春日井中央【参加者:学部生11名】

- 5月10日 ゼミナールA 小牧市グリーンテラス城山、C'sタウン光が丘
【参加者:学部生9名】
- 5月31日 ゼミナールA 小牧市グリーンテラス光が丘【参加者:学部生9名】
- 6月14日 ゼミナールA 守山区シティハイツ志段味【参加者:学部生6名】
- 6月21日 地域住宅計画 春日井市勝川駅周辺地区【参加者:学部生33名】
- 7月4日 ゼミナールA 多治見市滝呂団地、可児市桜ヶ丘ハイツ、みよし市あざぶの丘
【参加者:学部生8名】
- 7月12日 ゼミナールA 守山区エコビレッジ志段味【参加者:学部生8名】
- 7月26日 ゼミナールA 春日井高森台7丁目2【参加者:学部生8名】
- 9月29日 ゼミナールB 春日井市市営桃山住宅【参加者:学部生10名】
- 10月13日 ゼミナールB 春日井市桃山町北山住宅地 【参加者:学部生10名】
- 11月16日 建築・都市計画演習 中区錦二丁目周辺(長者町繊維街)
【参加者:学部生27名】
- 11月17日 ゼミナールB 春日井市勝川駅南口周辺整備事業【参加者:学部生8名】
- 11月27日 ゼミナールB 熱田区尾頭町、北区市営城北荘、北区大曾根北地区
【参加者:学部生8名】



可児市桜ヶ丘ハイツ



春日井市勝川駅周辺地区



熱田区尾頭地区

2) 各学科の卒業研究

- a. 都市建設工学科での卒業研究において地域に関する多くの課題が選定され、解決方法の検討がなされた。【参加学生46名】
- b. 建築学科での卒業研究、卒業設計において地域に関する多くの課題が選定され、解決方法の検討がなされた。【参加学生41名】

3) 地域志向教育研究活動フォローアップ

- a. 春日井市の産地直売ひろば「ぐうぴいひろば」(JA尾張中央と連携)での活動(山下紗也加・小川宣子担当)【参加学生5名】

品種が異なる6種類のさつまいもの特性を、色、甘さ、触感、水分量、栄養素、組織の違いから分析。その分析に基づいた最適な料理の提案。

10月6、13、20、27日 実験の実施。アンケート作成。

11月3日 生産者へのインタビュー。

2 活動報告

11月10、17日 ビデオ作成。ちらし作成。
12月4-31日 ファーマーズマーケットぐうびいひろ
ば内での研究成果発表。説明用チラシの配布と、
プレゼンが収録されたDVDの放映。J A尾張中央の
HPでビデオ、ちらしの紹介。アンケート実施。



生産者へのインタビューの様子

4) 地域創成メディエーターの育成

下記に示す「動く」の活動を通じて、地域創成メディエーターを育成した。

a. 岐阜県東濃地区の食文化の伝承（山下紗也加・小川宣子担当）【参加学生3名】

9月 恵那市在住の住民から恵那市の伝統食や伝統的な食材についての聞き取り調査の実施：今年度の食育のテーマは「朴葉すし」に決定。

12月1、6、20日 伝統食（「朴葉すし」）についてのビデオ作成。

12月8、27日 恵那市幼稚園での食育についての打ち合わせ。

2月 園児へビデオでの食育実践。園児への聞き取り調査・保護者へのアンケート実施。



伝統食や伝統食材について聞き取り調査をもとに打ち合わせの様子

b. アスコンについて「考動、未来につなぐ・残す」（余川弘至担当）

現場実習及び見学による学びと、グループワークによる課題解決能力の向上を目的とする。

6月2日 事前勉強会(現場実習に先立って、大学内でアスファルトについて学ぶ)
【参加学生8名】

7月7日 同上 【参加学生9名】

7月3日 名古屋中央アスコン(愛知県名古屋市)を訪問し、現地実習・研修を実施した。
アスファルト合材の製造過程やリサイクル状況を見学するとともに、アスファルト合材の供試体作成やマーシャル安定度試験を体験した。 【参加学生8名】

7月10日 同上 【参加学生9名】

9月22日 アスファルトもしくはコンクリートの再利用等の方法について、大学内で最終発表会を実施した。【参加学生17名】



現地実習において再生材料の説明を受ける



成果発表会の様子

c. 高蔵寺ニュータウンの定点観測（磯部友彦・松山明担当）

ニュータウン内に設置されている施設などの多様性を観察し、さらにそれらの変化を感じ取る。

11月3日 大学内で高蔵寺ニュータウンの学習 【参加学生2名】

11月10日 同上 【参加学生4名】

12月4日 サンマルシェ、高森台の観察 【参加学生5名】

12月8日 グルッポふじとう、藤山台の観察 【参加学生11名】



高蔵寺ニュータウンDIY住宅の視察



高蔵寺ニュータウン再開発地区の視察

d. 小牧市東部まちづくりワークショップ（磯部友彦担当）

小牧市主催のワークショップに参加し、対象地域の将来の姿を参加者とともに考える。学生にとって、ワークショップの運営方法についても学ぶ機会となる。

7月15日 事前打ち合わせ(オンライン)

【参加学生10名】

7月17日 第1回ワークショップ(小牧勤労センター)

【参加学生14名】

10月23日 第2回ワークショップ(小牧勤労センター)

【参加学生12名】

11月14日 第3回ワークショップ(小牧勤労センター) 【参加学生12名】



第3回ワークショップ終了後の参加者の集合写真

e. 春日井市における産地直売所を介した地域活性化への取り組み（山下紗也加・小川宣子担当）

地域の産地直売所の現状から課題を抽出し、大学生ができる課題解決を提案し、実践する。内容は、上記3)に記載。【参加学生5名】

f. 春日井まつり わいわい☆カーペンターキッズ（松山明担当）

春日井まつり開催時において建築士会春日井支部主催のイベントに参加し、児童に対して住宅模型作成のお手伝いをすることで、壊れにくい＝構造的に成立し、外観も良い住宅の在り方を再検討する。

春日井まつりの中止により、実施できなかった。

g. 学生主体の標準化教育（伊藤佳世担当）

学生主体の標準化教育を学び、青少年支援を行い、学生の主体性及び標準化教育とはどのようなものかを理解し、一人一人の成長に繋げる。

4月～11月 教材開発・改訂【参加学生42名】

9月2日 専門家連携 日本規格協会 経済産業省 NACS【参加学生2名】

9月9日 大学間連携（全国環境マネジメントシステム学生大会）【参加学生3名】

7月6日、8月24-26日、10月18、20、22、26日 中高大連携（春日丘中学連携）
【参加学生13名】

10月27日 中高大連携（名古屋国際中学高校連携）【参加学生4名】

11月2日 中高大連携（市邨高校連携）【参加学生4名】

11月24日 SDGs 学生カンファレンス（マイナビ主催）【参加学生4名】

11月13日 なごやエシカルフェア 2021【参加学生3名】

12月8日～10日 エコプロ 2021【学生はオンライン参加】

12月11、12日 環境デーなごや イオンモールナゴヤドーム【学生はオンライン参加】



なごやエシカルフェア 2021



中高大連携（中部大学春日丘中学校）

h. 新・森の健康診断（上野薫担当）

人工林の荒廃問題の啓発を促し、学生自身の課題発見・解決力等を向上させる。本年度の課題「20年後の恵那の里地里山を設計する」に取り組む。【参加学生36名】

12月4日（遠隔にて実施）

＜午前＞座学1：「恵那市における森林・林業の状況、課題について」、座学2：「近年の木材需要の変化について」、座学3：「移住者の声：私はなぜ、恵那を選んだか」、座学4：「恵那市の課題概要（総合計画）、獣害の状況など」

＜午後＞グループワーク（Zoom ブレイクアウトミーティング使用）

12月5日（恵那研修センターで対面実施）

＜午前＞発表会・意見交換会

＜午後＞森林観察（研修センター内森林）・地域視察（小里川ダム・おぼあちやん市）



新・森の健康診断参加者（恵那研修センター）

i. 志プロジェクト（山口直樹・趙偉担当）

地元企業と協力しながら学生目線を取り入れた企業案内を共同で作成することで、地域への貢献と学生の成長を促す。

10月7日 株式会社コムラ(岐阜市)の工場見学。企業の現場を見学し、社長から話を聞き、社員と意見交換を行った。【参加学生29名】

10月14日 株式会社浅野燃糸(岐阜県安八郡安八町)の工場見学。企業の現場を見学し、社長さんから企業の再生物語を聞く。【参加学生29名】



株式会社コムラの工場見学



株式会社浅野燃糸の工場見学

j. 小牧市「こまきこども未来館プロジェクトマッピング」委託事業

(柳谷 啓子・柊 和佑担当)

- こまきこども未来館4階未就学児エリアの20m×3mの壁面と床・天井の演出
- 四季の風物詩等や未来志向の映像等を投射し、入場無料のここに来て、どんな家庭環境の子どもも上質の情操教育の場に身を置くことを可能にすることが目的 (SDGs 4)
- 学生らは、企画・デザイン・モーション・音楽等の部門に分かれてそれぞれの部門の中でコミュニケーションをとり、協働して作業を進め、年間を通して週1回の学生会で進捗状況をチェックし合い(25号館会議室)、議論を重ねて、チーム全体としての作品に仕上げていく。
- 年間を通して、隔週で教員も交えての報告・アドバイスの全体会を開いている(25号館会議室)
- こまきこども未来館には、年4回コンテンツを納品
 - 4月6、13、20、27日 学生会：夏コンテンツの進捗状況チェック 【参加学生17名】
 - 5月6、20日 全体会：上記報告【参加学生17名+教員3名】 柳谷・柊・高橋(非常勤講師)
 - 5月11、18、25日 学生会：夏コンテンツの仕上げと秋コンテンツ企画打ち合わせ
【参加学生13名】
 - 5月18日 夏コンテンツ試写(於：こまきこども未来館) 【参加学生4名】
 - 6月1日 理事長への事業報告プレゼンテーション(於：メモリアルホール)
【参加学生17名+教員3名】
 - 6月1、8、15、22、29日 学生会：秋コンテンツの進捗状況チェック 【参加学生18名】
 - 6月2、17日 全体会：学生会の報告(秋コンテンツへの意見・アドバイス)
【参加学生18名+教員3名】

2 活動報告

- 7月6、13、27日 学生会：秋コンテンツの進捗状況チェック 【参加学生18名】
- 7月1、15、29日 全体会：秋コンテンツの進捗状況報告とアドバイス
【参加学生18名+教員3名】
- 8月3、10、17、24、31日 学生会：秋コンテンツの進捗状況チェックと冬コンテンツ企画
【参加学生17名】
- 8月5、17日 情報工学科鈴木裕利教授・宇佐美裕康助教、情報工学専攻院生2名と現場
で研究打ち合わせ 【参加学生6名+教員4名】
- 8月12日 全体会：秋コンテンツの進捗状況報告とアドバイス
【参加学生17名+教員3名】
- 9月7、14、21、28日 学生会：冬コンテンツの進捗状況チェック 【参加学生18名】
- 9月9、30日 全体会：冬コンテンツの進捗状況報告とアドバイス
【参加学生18名+教員3名】
- 10月12、19、26日 学生会：冬コンテンツの進捗状況チェック 【参加学生18名】
- 10月4日、14日、28日 全体会：冬コンテンツの最終チェック
【参加学生18名+教員3名】
- 11月2、9、16、23、30日 学生会：コロナで冬コンテンツの納延期のため再調整
【参加学生18名】
- 11月8日 言語文化専攻院生1名・コミュニケーション学科学生1名が芸術科学会
NICOGRAPH2021で本プロジェクトをテーマとする研究論文（査読付）を発表
- 11月11、25日 全体会：冬コンテンツの再調整チェック、アドバイス
【参加学生18名+教員3名】
- 11月15日 現場で新作コンテンツの試写・調整 【参加学生5名+教員2名】
- 11月30日 現場で朝日新聞社による『中部大学 by AERA』取材・撮影
【参加学生1名+教員1名】
- 12月7、14、21日 学生会：春コンテンツ企画打ち合わせ 【参加学生16名】
- 12月16日 全体会：春コンテンツ企画への意見 【参加学生16名+教員3名】
- 1月6日 全体会：今後の運営のスケジュール、担当者等の確認
【参加学生14名+教員3名】
- 1月11日 学生会：春コンテンツの絵コンテ確認 【参加学生7名】

* 学生数は月の平均出席者数



プロジェクションマッピングの試写・調整



打ち合わせの様子

4. 今年度の課題・次年度の目標

- 1) 卒業研究、卒業設計のテーマ選定において、多様な地域の課題を考慮する。
- 2) 受講科目の指導を含めて地域創成メディエーターの育成を計画的に実施する。
- 3) 地域課題への取り組みを、教員だけでなく学生・院生を交えて活発化させる。
- 4) 春日井地域での活動経験をもとに、他地域での活動にも積極的に取り組む。

③ 世代間交流プログラム WG

1. 活動組織

委員長 堀文子

副委員長 戸田香

委員 長島万弓 野田明子 三摩真己 末田智樹 伊藤守弘 宮下浩二
尾方寿好 横手直美 矢澤浩成 谷利美希 北辻耕司 松村亜矢子
水上健一

2. 活動計画 および 実施

7月17日(土) 9月10日(金) 多学科協同による乳児と母親に対する「子育てセミナー」
(横手)

10月9日(土) 体力測定会 (戸田)

10月9日(土) 睡眠・物忘れ相談、動脈硬化検査 (野田)

10月15日(金)・10月22日(金) アクティブシニアとの交流活動 (谷利)

11月13日(土)・28日(日) 地域調査 (末田)

12月11日(土)・12日(日) 第16回障がい者スポーツ指導者全国研修会 Web参加 (伊藤)

4月～3月 KCGサークルでの健康教室指導 (2回/月) (矢澤) *5月9月は中止

4月～3月 健康寿命延伸・認知症と生活習慣病予防のための快眠・運動教室 (野田)

5月～3月 在宅訪問・遠隔相談、高蔵寺集会場における地域交流快眠教室 (野田)

4月13日(火)～ シニア大学講義の補助 (健康増進実習など) 1年間35日 (水上)

随時 取材活動 (三摩：子育てセミナー)

4月～ 地域イベントに対するボランティア活動 (救護・消防団) *活動無し

4月6日(火) 地域におけるスポーツ・防災活動を通じた地域活性化への取組み 1回/週
*活動依頼無し

6月1日(火) 松本町との交流 (10月お祭り日程) *中止

6月1日(火) 部活動支援講習 2回/月 (年間10日程度) 活動依頼無し

8月17日(火) 福祉用具体験セミナー *中止

3. 活動成果

◇多学科協同による乳児と母親に対する「子育てセミナー」 (企画担当：横手直美)

【第1回】2021年7月17日(土曜日) 10時00分～11時40分

➤ ベビーマッサージとママのエクササイズ

保健看護学科 准教授 横手直美 (助産師)

➤ 子育てミニレッスン「赤ちゃんの発育発達とおもちゃの選び方」

幼児教育学科 講師 千田 隆弘

➤ 参加人数：乳児とその母親12組 (うち4組はパートナーも参加)

保健看護学科学生4名、幼児教育学科学生6名

【第2回】2021年9月10日（金曜日）10時00分～11時40分

- ベビーマッサージとママのエクササイズ
保健看護学科 准教授 横手 直美（助産師）
- 子育てミニレッスン「赤ちゃんのもしものときの備え」
スポーツ保健医療学科 助教 北辻耕司（救急救命士）
助手 繁野 行宏（救急救命士）
- 参加人数：乳児とその母親11組（うち3組はパートナーも参加）、
保健看護学科学生4名、幼児教育学科学生6名、
スポーツ保健医療学科（救急救命コース）学生4名



写真1：竹内学長ビデオメッセージ

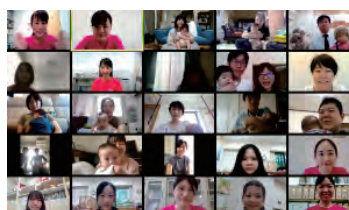


写真2：Zoom上での集合写真



写真3：ベビーマッサージ



写真4：おもちゃの選び方



写真5：乳児の心肺蘇生方法

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、Zoomを利用して「中部大学生命健康科学研究所 市民セミナー ～産後のママと赤ちゃんをオンラインで応援 ベビーとママのエクササイズ&子育てミニレッスン♪～」を2回開催し、本学の508F看護演習室および模擬保育室、521A実習室よりライブ配信を行った。今年度は、2回目のオンライン開催であり、竹内学長からもビデオメッセージをいただいた。また、広報活動では春日井市子ども政策課のご協力を得た。

セミナーは、開催日に土曜日を取り入れた効果か外出自粛による影響かは不明だが、パートナーと一緒に参加して下さったご家庭も複数あり、日常のリラックスした環境で感染の心配もなく参加できたと参加者に好評であった。また、保健看護学科に加え、幼児教育学科、スポーツ保健医療学科の学生がアシスタントとして活躍した。学生は各学科の専門性を活かした子育て支援を経験することができていた。

◇体力測定会（企画担当：戸田香）

【日時】 2021年10月9日（土）9時～12時 【場所】 中部大学 51・55号館

【参加者】 シニア16名・教員6名 学生55名（生命健康科学部 52名、人文学部 3名）

シニアの参加は感染対策が徹底できる20名とし、16名の参加を得た。その内、過年度から

2 活動報告

の参加者が7名、CAACから8名が参加した。学生が測定会の全工程をマンツーマンでエスコートした。

睡眠・物忘れ相談、動脈硬化検査企画と共同開催で、ロコモ診断・心電図検査を学生が主体となって実施した。健康をテーマとした企画であり、シニアのエスコートはどの学部の学生でも参加することで、今年度は人文学部から3名が参加した。測定の結果は学生がシニアに解説し、参加者全員の健康への関心を高めて頂く企画であった。シニア参加者からはアンケートにおいて好評を頂き、皆様から次年度も参加したいとお声を頂いた。この活動は事前に「マナー講座」への参加を義務づけている。学生からは日頃の学習の成果が活かされた喜びや、長時間のコミュニケーションを楽しく体験できた達成感などが聞かれた。次年度以降も同様の活動を継続する予定である。



◇アクティブシニアとの交流活動（企画担当：谷利美希）

【日時】 2021年10月15日（金）、10月22日（金） 9時～10時45分

【場所】 石尾公園（グランドゴルフ）

【参加者】 シニア約40名 教員1名 学生 12名（作業療法学科3年生5名、2年生7名）

本活動は、作業療法学生が、世代の異なる高齢者の特徴や生活状況を理解し、コミュニケーション力や状況判断力を養うために実施している。今年度は、感染症予防対策のため、屋外活動に参加した。参加学生は、活動を介して、地域在住高齢者の心身機能、生活スタイル、心がけている元気の秘訣を学ぶことができた。今後の臨床で出会う高齢者との関わりにおいて、目指すべき生活像や必要な地域支援を考える際にこの経験が活かされると考えられた。高齢者からは、学生との交流によって「活力が増した」「今後も継続してほしい」との声が聴かれたことから、お互いに有意義な交流ができたと考えられた。

今後も、教育的効果の検証や高齢者にとっての世代間交流の意義を検討しながら、世代間交流を継続していく予定である。



◇KCGサークルでの健康教室指導（企画担当：矢澤浩成）

【月2回開催】※5月・9月愛知県緊急事態宣言下は中断

KCGサークルは、地域在住高齢者・理学療法学科学生・教員で構成された健康増進サークルであり在籍数は約50名である。毎回、地域在住高齢者15名程度、5～10名の学生が参加している。具体的な活動内容は、健康増進のための体操の指導・レクリエーション・ディスカッション等である。

この活動により高齢者の身体的および精神的な健康維持増進と、理学療法士を志す学生の準医療人としての自覚と臨床力向上という相乗効果が得られ、さらに高齢者と学生がお互いに尊重し支えあう関係が構築され、地域活性化につながる期待感が高まった。

また、昨年度より感染予防対策についてメンバーで検討を重ね、コロナ下の自粛による身体的・精神的機能低下予防も目的に加え、安全で安心な活動として継続することができた。



◇地域調査（11月13・28日）への参加（企画担当：末田智樹）

本年度は、岐阜県郡上市（11月13日）と愛知県犬山市（11月28日）の地域調査を歴史地理学科の学生と進めることができた。とくに、お城（郡上八幡城・犬山城）とその城下町をベースとした歴史文化地域の観光状況を調査した。従来、中部大学東側に隣接する諸大明神社において毎年行われていた松本町祭に参加してきたが、COVID-19の影響で本年度も昨年度に続き中止となったため、本年度は当初から上記の地域調査を計画に組み込んだ。コロナ禍のなかで厳しい観光状況を視察したが、日本のワクチン接種等の施策が一応の成功を収めたこともあり、両地域ともに観光客数が回復傾向にあった。しかし訪日外国人の姿は少なく、それに対し各地の観光地域が地域外の日本人観光客の需要に取り組んでいた様子が観察できた。（参加学生3名、教員1名）



4. 今年度の課題・次年度の目標

2021年度は、COVID-19感染症対策としての「愛知県まん延防止等重点措置」や「厳重警戒宣言」「緊急事態宣言」の発出を受け、中止となった行事等もあった。しかし、予防接種の接種率の増加などから、感染者が減少し活動が再開され、世代間交流会も感染予防を考慮し、

2 活動報告

Zoomなどを使用して遠隔での交流に切り替えたグループもあった。また、室外の活動とするなど「3密」を回避しての活動の工夫により、実施できたものもあった。

世代間の交流は、引きこもりになりがちなシニアの方々との交流の機会となることや、学生たちのコミュニケーション力を高めることにも効果が感じられる。コロナ禍の収束が不確定な現状ではあるが、世代間交流に参加したいという学生のニーズは高い。一方で、世代間交流の活動内容は固定しつつあり、全学の学生が参加できる企画がない現状である。引きこもりがちなシニア世代が安心して参加できる交流の機会を提供するために、活動に参加する教職員仲間の拡大を図り、世代間交流を充実させ、次年度も創意工夫を重ねながら引き続き継続していきたいと考える。

(3) その他プロジェクト活動報告

- ① PBLゼミ
- ② COC+参加大学共通プログラム
「オータムスクール」

① PBLゼミ

リーダーシップを
発揮したい

チームに
なるとは
どのようなこと?

コミュニ
ケーションが
不安…

地域**貢**献に
興味がある

自分**ら**しくって?
自分の持ち味を
知りたい

人見知りで
グループワークが
苦手!

そんな学生の皆さんへ

PBLゼミ 2021

地域・社会で活躍したい! その一歩を応援します

「PBLゼミ」は、地域を学びの材料とし、学生自身が自分の持ち味を発揮して地域や周囲に関わっていくための力を身に付けることができる体験型学習です。グループワークを通して自分の新たな一面も見つかるかも?! 気軽にご参加ください。

< 2日間連続プログラム > **無料**

9/ **14** 日(火)
15 日(水)

両日とも13:00~16:30(予定)

オンラインで実施(スマホ・タブレット不可)

インターネットにつながったパソコンが必要です。無い場合は要相談

対象: 全学部生 締切: **9月3日(金)**

定員: 40名(定員になり次第終了)

申込方法: 氏名・学籍番号・学年・
携帯番号をEメールでお知らせください



※新型コロナウイルス感染状況等により変更する場合があります。

※PBLゼミは、地域創成メディアーター「学ぶ」の**キャリア教育科目**に読み替え可能(単位認定無し)

学習 テーマ	「自分が何かを学ぶときのスタイルを探求する」	「自他の価値観について探求する」
	「コミュニケーションについて体験的に学ぶ」	「課題解決のプロセスを体験する」 etc.



中部大学

中部大学 国際・地域推進部(キャンパスプラザ2階) ☎ <https://www3.chubu.ac.jp/coc/>

✉ E-mail: chiiki@office.chubu.ac.jp 担当: 墨・早川 (TEL 0568-51-9872)

中部大学 御中

オンラインPBLゼミ2021

アンケート集計結果
報告書

2021年9月

株式会社ラーニングバリュー

『オンライン PBL ゼミ2021』アンケート集計



目次

プログラム概要	3
---------	---

今回のプログラムに関するアンケート

【受講前アンケート】	4
Q 1. このプログラムに期待しています?	5
Q 2. PBLゼミに参加を決めた理由をお聞かせください	8
Q 3. それぞれの力や姿勢について、現在の自分にどれくらい身につけていると思いますか?	10
【受講後アンケート】	11
Q 1. このプログラムに満足しましたか?	12
Q 2. このプログラムを受け、自分自身に対して、新たな発見がありましたか?	15
Q 3. このプログラムを受け、「相手のことを知る」ことに変化がありましたか?	18
Q 4. このプログラムで、グループのメンバーに自分のことをわかってもらえましたか?	21
Q 5. このプログラムを受け、プログラムへの取り組み姿勢に変化がおきそうですか?	24
Q 6. このプログラムを受け、今後の学生生活に変化がおきそうですか?	27
Q 7. それぞれの力や姿勢について、現在の自分にどれくらい身につけていると思いますか?	30
Q 8. このプログラムの講師について感じたことを自由にお書きください	31
Q 9. このプログラムについて感じたこと、気づいた点などを自由にお書きください	33
【受講前・後比較】	35
Q : それぞれの力や姿勢について、現在の自分にどれくらい身につけていると思いますか?	

*アンケートのフリーコメントについては、入力されたままを再現しています



プログラム概要

■プログラム対象

学内希望者

■実施日

2021年9月15日(水) 9:00~17:00 (オンラインにて実施)

■プログラム内容

- ①オリエンテーション
- ②記者会見
- ③ライフポジション
- ④対人コミュニケーションについて
- ⑤課題解決実習
- ⑥まとめ・アンケート回答

■アンケート回答者数

受講前/40名

受講後/38名

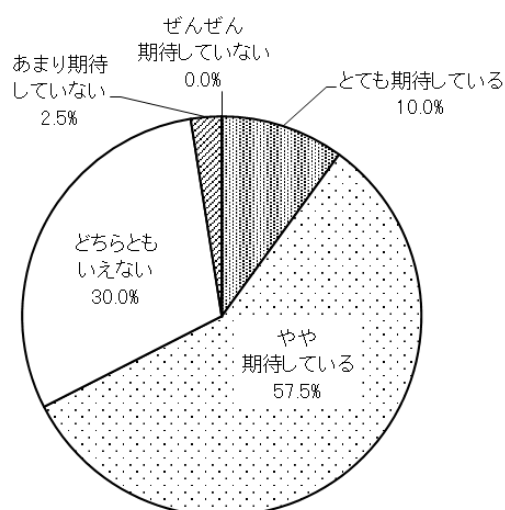
『オンライン PBL ゼミ2021』アンケート集計



受講前アンケート

Q 1. このプログラムに期待していますか？それはなぜですか？

期待度

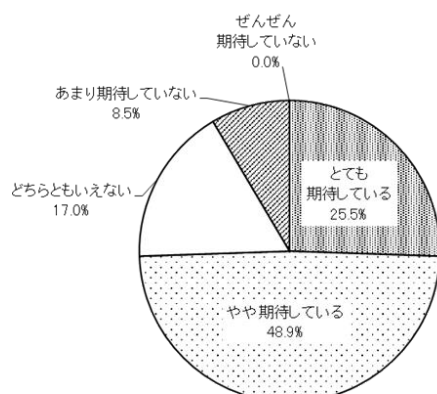


期待度		とても期待している	やや期待している	どちらともいえない	あまり期待していない	ぜんぜん期待していない	無回答
全体	40	4	23	12	1	0	0
		10.0	57.5	30.0	2.5	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)

【参考】2020年度PBLゼミ(オンライン) N=47

期待度



『オンライン PBL ゼミ2021』アンケート集計

フリーコメント

【とても期待している】

1年次に、寺澤先生の経営学入門を履修し、社会の知識を身につけることができました。PBLゼミでは寺澤先生による講和や、その他のグループワークなどがあり、自分が社会的な成長をできると考えたから。
社会に出る上で必要な事や大切なことを学習できていると思うから。
就職に生かすことが出来ると確信したため。
地域創成メディエーターという資格は自分にとってプラスであると思うため。

【やや期待している】

グループワークをする機会があまりなくいい経験になると思うから
このPBLゼミを通して、自分の持っている力を知れると感じているから。
コミュニケーション能力の向上に繋がりそうであるため。
これまでの自主活動のプログラムでは、自分の経験値となるモノばかりであったから
コロナ禍で地域と関わっていく力を身につけることができるから
すべての学部との交流ができるという点において期待している。
どのような内容か詳しく分かっていない為。
どのような話が聴けるのかとても楽しみだからです。
どんな内容かあまり分かっていないため。
学習テーマの一つである「コミュニケーションについて体験的に学ぶ」という内容が興味深いから。
具体的な内容をまだ深く理解していないため、新しいことに取り組む気持ちで行えるため
今後の糧となるから
自分にとってプラスになる話を聞けると思うから
自分のできないことを克服する機会にしたいと考えているため。
自分の社会的能力を試す機会であるから。
人見知り初めての人と上手くコミュニケーションを取れるか不安なため。
他学部との交流が期待できるため
大学で開かれる活動に参加したのは初めてだから。
知らない人とグループワークをした事がなく、良い経験になると思ったから。
地域創生メディエーターの資格を取るための手段でもあり、何か学べることがあると思うからです。
普段のオンライン授業では、グループワークが行われることが少なかったため、この機会に自分の持ち味を試すことができると考えたため。
普段は、自分から積極的に何かする訳では無いですが、今回のPBL活動では、グループで行うということなので、自ら発言できたら良いなと思っています。またその経験を今後、いかしたいと思っているからです。



普段関わることが出来ない他学科の方と関わることが出来るため。

【どちらともいえない】

あまり知らないため

どのようなものかまだよく分かっていないため

どんな内容なのか詳しくわからないため。

プログラムに参加した前と後の自分の変化が想像できない、難しい

まだ自身でなにもやっていないため詳しくわからないから。

よく分からない

初めて参加するのでどういったものなのかまだ分からないから

初参加だから。

初対面の人と話すのが得意ではないので不安だから。

詳しく何をやるかを理解していないため。

上手にグループワークができるか不安であるから。

内容があまりよく分からないため。

【あまり期待していない】


よくわからず申し込んだため。

『オンライン PBL ゼミ2021』アンケート集計

Q 2. PBL ゼミに参加を決めた理由をお聞かせください

フリーコメント

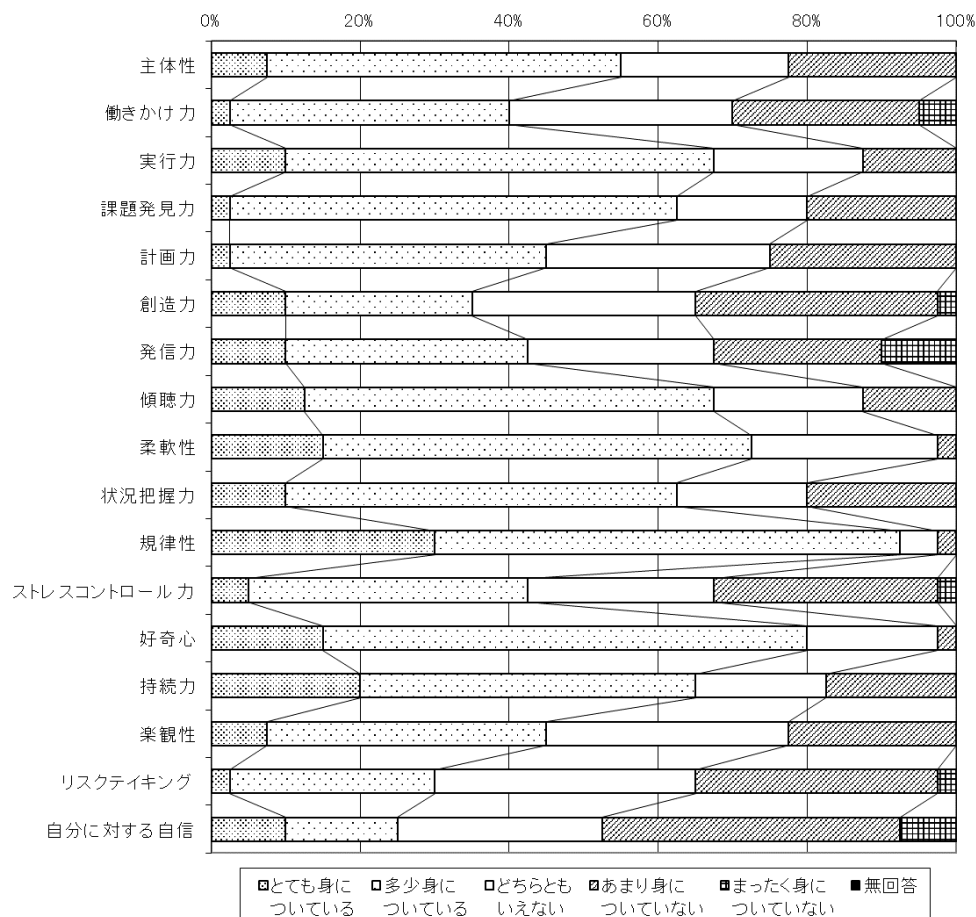
COC 単位取得のため。
PBL ゼミでは、対面授業を中心に、勉強以外のことを教えていただけるから。
PBL ゼミの内容がどのようなものか気になった為。
オンライン授業が多くなり、学生同士の交流が難しくなっている中で、PBL ゼミを通じて何か良い刺激を得たり新しい考え方を身につけたいと思ったから。
キャリア教育科目に読み替えが出来るため。
この PBL ゼミで、自分に足りないものを見つけ出したいから。
コロナによって参加しなかったイベントや活動がなくなってしまい、いろいろな方との交流をしてみたいと思ったから。
メディアーター取得に向けて。
やりなさいと先生に言われたから
教員からの勧めと、地域貢献活動に参加してみたいと気持ちがあったので参加しました。
苦手を克服しようと思ったから。
昨今の状況で同じ学科の人としか関わっていないので、他の学科の人ともコミュニケーションをとってみたいと思ったから。
資格を取得したかったため。
資格取得のため
資格取得のため
自主活動のプログラムの一環
自主活動取得に必要なためと、自分自身変わりたいなど思ったため。
自分にとって役に立つものだと思ったから。
自分を成長させたいと思ったため。
周りに流されたり、人に合わせて行動するのではなく、自分で強い意志を持って行動できるようになりたいと思ったから
就活により優位に物事を進めるため。
所属ゼミでの紹介。
新しいことに挑戦し、自分の経験にしたいと思いました。他の学部の方とも交流して、自分の視野を広げていきたいと思ったからです。
先生に勧めていただいたため。
先生に勧められたし、興味もあったため。
先生に勧められたため。
先生のすすめで COC 活動に参加するためです。
単位がとれるから



地域ソーシャルメディアーターの資格取得のため
地域創成メディアーターの資格取得のため。
地域創生メディアーターの資格を取るための1番の理由です。
地域創生メディアーターの資格取得のために必要であるため受講を決めた。
地域創生メディアーターの取得に必要なプログラムであったため。
地域創生メディアーターを取得するため
地域創生メディアーターを取得するため
地域創生メディアーターを取得するため。
地域創生メディアーター資格取得に必要なため
地域創生メディアーター資格取得を目指すため。
地域創生メディアーター取得のため
必要であったため

『オンライン PBL ゼミ2021』アンケート集計

Q 3. それぞれの力や姿勢について、現在の自分にどれくらい身についていると思いますか？



(%)

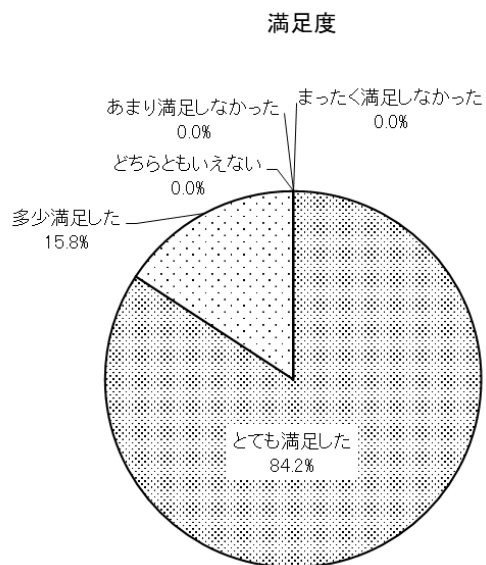
	サンプル数	とても身についている	多少身についている	どちらともいえない	あまり身についていない	まったく身についていない	無回答
主体性	40	7.5	47.5	22.5	22.5	0.0	0.0
働きかけ力	40	2.5	37.5	30.0	25.0	5.0	0.0
実行力	40	10.0	57.5	20.0	12.5	0.0	0.0
課題発見力	40	2.5	60.0	17.5	20.0	0.0	0.0
計画力	40	2.5	42.5	30.0	25.0	0.0	0.0
創造力	40	10.0	25.0	30.0	32.5	2.5	0.0
発信力	40	10.0	32.5	25.0	22.5	10.0	0.0
傾聴力	40	12.5	55.0	20.0	12.5	0.0	0.0
柔軟性	40	15.0	57.5	25.0	2.5	0.0	0.0
状況把握力	40	10.0	52.5	17.5	20.0	0.0	0.0
規律性	40	30.0	62.5	5.0	2.5	0.0	0.0
ストレスコントロール力	40	5.0	37.5	25.0	30.0	2.5	0.0
好奇心	40	15.0	65.0	17.5	2.5	0.0	0.0
持続力	40	20.0	45.0	17.5	17.5	0.0	0.0
楽観性	40	7.5	37.5	32.5	22.5	0.0	0.0
リスクテイキング	40	2.5	27.5	35.0	32.5	2.5	0.0
自分に対する自信	40	10.0	15.0	27.5	40.0	7.5	0.0



受講後アンケート

『オンライン PBL ゼミ2021』アンケート集計

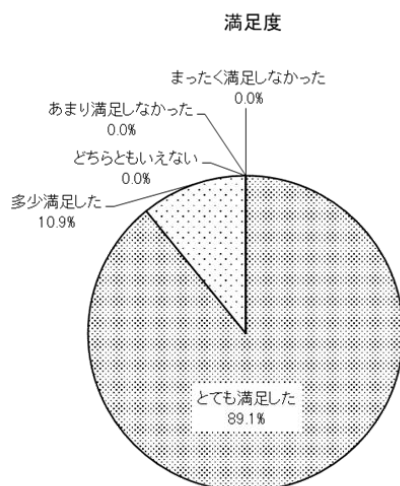
Q 1. このプログラムに満足しましたか？それはどうしてですか？



満足度		とても満足した	多少満足した	どちらともいえない	あまり満足しなかった	まったく満足しなかった	無回答
全体	38	32	6	0	0	0	0
		84.2	15.8	0.0	0.0	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)

【参考】2020年度 PBL ゼミ (オンライン) N=46




フリーコメント
【とても満足した】

いろいろな人のいろいろな意見を聴けた。コミュニケーション能力、人をまとめる能力が身についた。
グループのメンバーと尊重しあいながら意見を述べることができたため
グループの方々が素敵な考えを持っていて素敵な対応をしてくれたから。
グループメンバー全員に参加意欲が見られ有意義な時間であったため。
グループワークが終始充実していたことと、内容が面白かったため。
グループワークで自分の成長を感じたから
グループワークをすることの楽しさを実感できたため。また、自分の中での反省点を明確にできたため。
コミュニケーションの本質について理解できたから。
コミュニケーション能力の向上、かわり行動をしっかりと行えたから。
ディベートが楽しかったから
とても有意義な話し合いができたから。自分の意見を主張して、理解しようとしてもらうことの嬉しさや、他人の意見を踏まえて自分の意見を練ることの楽しさも知ることが出来た。
リーダー性の大切さや傾聴の大切さを学べたからです。
学科や学年の異なる人たちとかかわることができたことで新しい価値観や気付きを得ることができた、また、良き友人として知り合うことができたため。
楽しく活動することができたから。
貴重な機会を頂けたから。
堅苦しい雰囲気もなく、楽しく学ぶことができたため。
今まで関わりあう機会がなかった人たちとの交流が、かなりおもしろく楽しめた。課題の取り組む視点などの違いを学び、柔軟な発想と豊富な見方を身に付ける機会になったので、これからの生活に活かしていきたい。
刺激をもらえたから。
思っていたよりも面白い内容であったから。
自分の意見を言いやすかった。
自分の積極的に発言していくという力が身につきました。また、メンバーの意見を聞いて、こんな考え方があるのか、そういう面から考えると確かにこっちの方がいいのか、など新しい観点に気づくことが出来ました。
初めて zoom を使ったディスカッションに参加したのですが、対面とは違った難しさや伝え方を学ぶ機会になったからです。
初めてこのような体験をしたが、班の方々がとても温かく、そして、コミュニケーションの中や一人ひとりから学ぶことが沢山あったから。
初めてこんなに白熱したディスカッションが行えた。
初対面で、オンラインということで緊張しましたが、最終的には全員が意見を言い合え、学びが多かったから。

『オンライン PBL ゼミ2021』アンケート集計

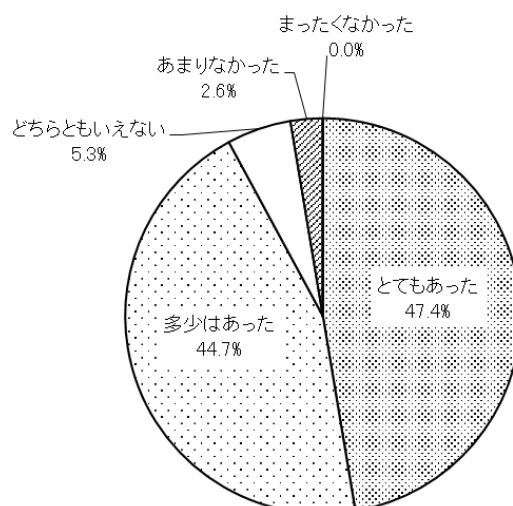
色んな学部学科の人や、学年の違う人と喋ってたくさんのことを学べたから
全くの初対面の方と、ここまで濃いディスカッションが出来たのは初めてだったから。
他学年、他学科の人たちと交流する機会がない中で今回一日長い時間いろいろな意見を交わすことができたため。
他学年、他学科の方と深くかかわることができてとても楽しかったです。自分にはない見方や考え方を知り、なるほどと思う場面がたくさんありました。また、コミュニケーションについて真剣に自分と向き合い、考えることができ、とても良い時間になれたと思います。
多くの人と交流したから
知らない人と交流することが初めての体験で、色々知ることができ良い経験になった。また、今後するであろう就活でのグループワークの体験にもなって良かった。
様々な学部の方達と話すことができ、話す側・聞く側の注意点なども学べたから。議論やクイズなどとても楽しかったから。

【多少満足した】

グループワークを通して、自分の意見を主張することができたし、意見が違う人とも話し合い、納得するグループの答えを出せたから。
色々な学部の人と話せたから。
全く知らない大学の人たちと問題解決に当たっていくのは、新鮮に感じたから。
他学科の方と意見交換をしたり、必ず必要である人と話すことについて深く考えることができ、良い経験でした。
話し合いの大切さを学んだから

Q2. このプログラムを受け、自分自身に対して、新たな発見がありましたか？
それはどのような点ですか？

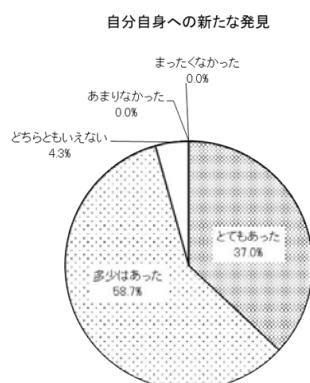
自分自身への新たな発見



自分自身への新たな発見		とてもあった	多少はあった	どちらともいえない	あまりなかった	まったくなかった	無回答
全体	38	18	17	2	1	0	0
		47.4	44.7	5.3	2.6	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)

【参考】2020年度PBLゼミ(オンライン) N=46



『オンライン PBL ゼミ2021』アンケート集計

フリーコメント

【とてもあった】

がくねんや環境の違いで同じ課題でも考え方が異なり、様々な意見に触れることができた点。
コミュニケーションについてたくさんのことを学べたから。特に、聴くことの大切さを学べたと思います。
リーダーシップを発揮する可能性を秘めている反面、他人を意見を聞かないという自己中心的な行動をしてしまう可能性を秘めていることに気がつけた点。
意外と自分はコミュニケーション能力が上がっていると気づいた。
思っていることを言葉にして伝える事を難しいと感じている人への配慮がこれまで足りていなかったと気付くことが出来た。自分の意見を相手に伝わりやすくするだけでなく、周囲の様子を見て、自分が今何をすべきなのか、思いやりのある立ち回りや対応力を身につけることも大切であると気付くことが出来た。
私は、とことん自分から進んで進行とかは出来ないんだと分かった一方、聞く側でも、反応することで、助けになることもあるということを発見した。
自分が頑固な性格で、自分の意見が否定されたわけではないのに自分の意見が変わったこと
自分の意見をしっかり伝えることができているなと感じた。
自分の良い点、悪い点に気づけた。
自分は、人の意見を聞くことによってより良い結果をさがしだすことができること。
自分は意見を言うことが苦手だと思っていたけれど、それ以上に意見を聞いてもらうことが嬉しいことだと感じたこと
自分自身についてもっと向き合っていこうと考えることができたから
場をまとめる能力にみんなが気づいてくれました。
色々な考えがあることを知れた
選ぶ言葉の大切さ
相手の意見を真剣に聞いて、理解しようと取り組みました。私は自信がない者だと思っていましたが、自分から話したい、伝えたいという思いをもって、実際に伝えることができたことに驚いています。しかし、まとめるのが苦手な、他人の助けが必要なことを知れました。
他学年の他学科の人と交流することで、自身の考え方や論理の癖を認識出来た点。
他人の意見を肯定することで新たな発見ができ、それによって今まで考えなかったことが見つけられること

【多少はあった】

あまり司会とかやるタイプではなかったけど、今回やってみて意外とみんなついてきてくれたのがよかった。
うなずきながら聞いたりするだけで相手も話しやすくなり、自分がそれをできたこと。
グループのメンバーから反応が良いと言ってもらい、自分は自然と会話で反応することができているということを知った。

ライフポイントについてや、対人コミュニケーションのこつなどできていないことやできていること、自分の特徴について知ることができた点
リモートワークでの意見交換の難しさです。 これからこの様な場面が増えてくると思うので新たな発見と共に慣れていきたいと思います。
議論が始まったら話せるけれど、沈黙が流れたときや実習の最初などに第一声を言うのが苦手であることを再認識した。
今日は話を振る立場をすることが多く、率先して話を回すことができたからです。
思ったよりも発言出来た。
自己肯定感をある程度持っていないと、人に異なる意見を言われた際に間違っているのかもしれないと揺らいでしまい、自らの意見を持ち続けることが難しいと感じました。
自分の意見をしっかり言うことができた
全員が初対面のグループでも慌てずに発言ができる点。
相手の話を聞く時の、頷きなどの相づち
知らない人とのコミュニケーションが苦手だと思っていたが、そうでもなく楽しむことができた。
問題解決にあたって、アドバイスをしたり、他者からの提案を聞いて実践したりする気持ちがある点。
話し合いでの自分の立場を理解できた。
話し方が上手で聞きやすいらしい

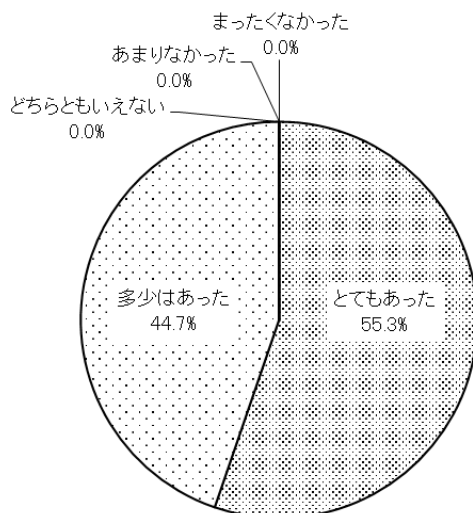
【どちらともいえない】

新たな発見はあまりなかったが、多少リーダーシップを発揮できたかなと思う。
特になかった。

『オンライン PBL ゼミ2021』アンケート集計

Q3. このプログラムを受け、「相手のことを知る」ことに変化がありましたか？
それはどのような点ですか？

他者理解に変化はあったか

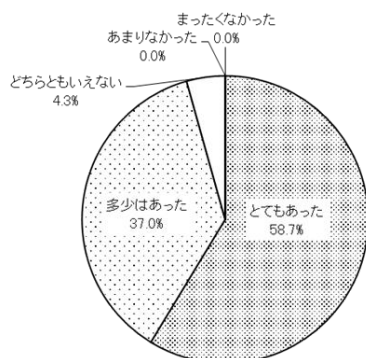


他者理解に変化		とてもあった	多少はあった	どちらともいえない	あまりなかった	まったくなかった	無回答
全体	38	21	17	0	0	0	0
		55.3	44.7	0.0	0.0	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)

【参考】2020年度 PBL ゼミ (オンライン) N=46

他者理解に変化はあったか

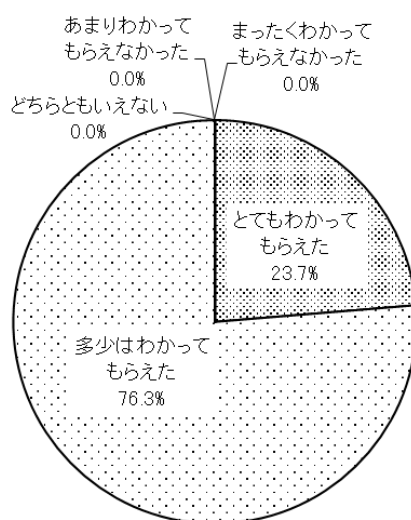


『オンライン PBL ゼミ2021』アンケート集計

各メンバーの性格や気質は知らなかったが、提案などを受け取ったときにその人の考え方を受け入れようとした点。
記者会見の時にうまくインタビューや質問に答えることができた点。
質問の回答に対してのより深い質問ができた
相手が言ったことに対してさらに深掘りし、詳しく知ろうとした点。
相手の話をよく聴くことで相手を知ろうとする姿勢ができた。
相手の話を聴くときの姿勢（表情など）が大事だと分かった。
相手を知ることでスムーズに課題などを送ることができる点です。
短い時間なりに相手の考えや意見を聞くことができ、自分の考えとの違いに気がつくことが多々あったからです。
発言する場面と、聞く場面で相手の状況も見ることができた。
聞き手の聴く態度や姿勢は話し手にとって最も重要であるから、聞き手が理解しよう、受け入れよう、知ろうという思いを態度や姿勢に表していく必要があると感じました。
話し手の意見の背景までくみ取ることが大切であることを学んだ。
話の聴き方とか、その人の考え方を知れたこと

Q 4. このプログラムで、グループのメンバーに自分のことをわかってもらえましたか？どのような点ですか？

自分のことをわかってもらえたか

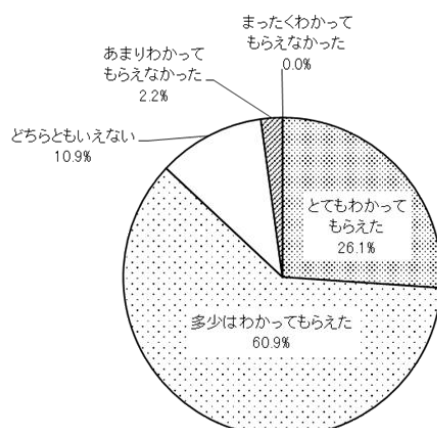


自分のことをわかってもらえたか		とてもわかってもらえた	多少はわかってもらえた	どちらともいえない	あまりわかってもらえなかった	まったくわかってもらえなかった	無回答
全体	38	9	29	0	0	0	0
		23.7	76.3	0.0	0.0	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)

【参考】2020年度 PBL ゼミ (オンライン) N=46

自分のことをわかってもらえたか



『オンライン PBL ゼミ2021』アンケート集計



フリーコメント

【とてもわかってもらえた】

1年でありながら平等に接してくださって、質問や沢山フォローもしていただいて、支えることのできる先輩方を見習っていきたいと感じることができた点
グループ内のメンバー全員が人の意見を丁寧に聞く人であったため、私の意見を尊重してくれたら、逆に私がすごく尊敬した場面もあった。
ついてきてくれた。自分1人しかいなかった意見を納得して聞いてくれた。
皆が沢山質問をしてくれたおかげで多くのことにこたえられたから
自己紹介
自分では意識していないけれど、相手が自分の行動を好意的に捉えてもらえた点で、相手への意欲的に取り組みたい姿勢が伝わったと感じる。
自分の性格や考えていることを理解してくれていた点
進行役を進んで行う人であると指摘された点。
性格や特徴など

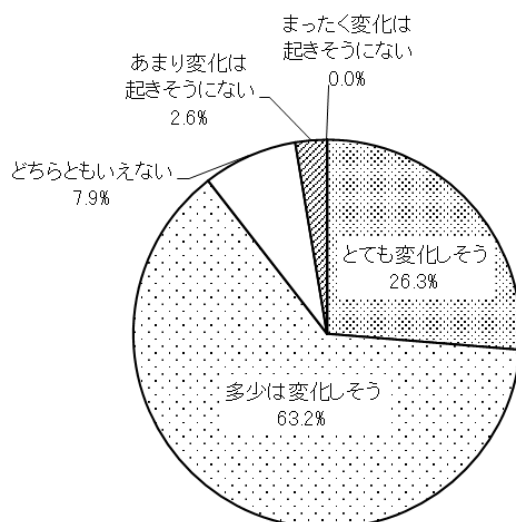
【多少はわかってもらえた】

インタビューでの質問の他に、課題が終わった後の時間にも質問等をしてくれ、互いに好きなことや学科のことなどを知れたところ。
グループのメンバーは私の意見にしっかり耳を傾けてくれていた
コミュニケーションが苦手なこと。積極的な方にあなたはどうかと意見を聞いていただけたから。
よくうなずいて聞いてくれた。
意見を多く言う点
記者会見でたくさん質問をしてもらえた。
記者会見では紙に書いていないことも詳しく聞いて貰えた点や、意見も多少は言えた点から。
記者会見で多くの質問を貰えた
口火を切るのは遅いが、意見は持っている点。
司会をやり直接感謝のお礼を言ってもらえたので自分を知ってもらえたと思います。
自己紹介をうまくすることができた点。
自分が言いたいこと以上に質問をしてもらえたから
自分の意見が言える人であると言ってもらえたから。
自分の意見を持っているということ
自分の意見を伝えることもできたし、耳を傾けてくださったので、わかってもらえた部分もあったと感じました。
自分の好きなものであったり、いい雰囲気を作りみんなに笑ってもらえたから
自分の話に頷きや同意などの返信があったからです。
質問コーナーで自分のことを知ってもらえた。

『オンライン PBL ゼミ2021』アンケート集計

Q5. このプログラムを受け、授業への取り組み姿勢に変化がおきそうですか？
どんな変化ですか？

授業への取り組み姿勢の変化

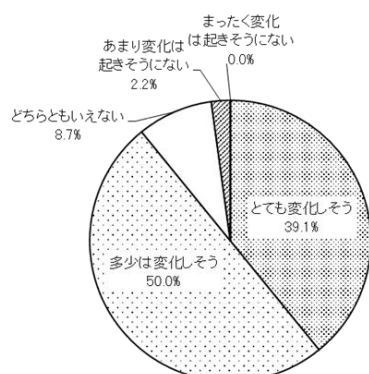



授業への取り組み姿勢の変化		とても変化しそう	多少は変化しそう	どちらともいえない	あまり変化は起きそうにない	まったく変化は起きそうにない	無回答
全体	38	10	24	3	1	0	0
		26.3	63.2	7.9	2.6	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)

【参考】2020年度 PBL ゼミ (オンライン) N=46

授業への取り組み姿勢に変化がおきそうか




フリーコメント
【とても変化しそう】

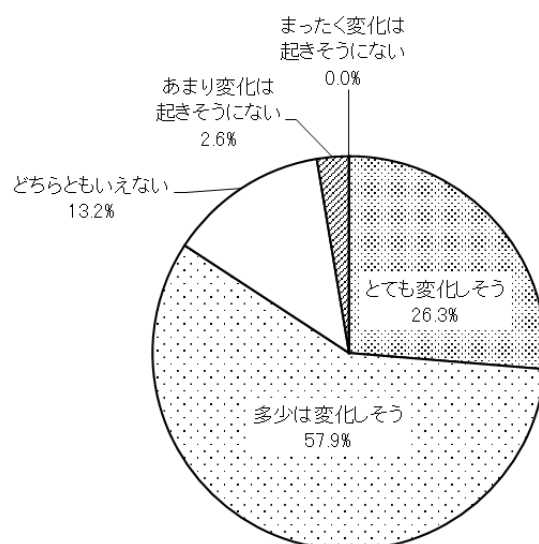
コミュニケーションの捉え方が少し変わりました。また、主体的に取り組むことや、関わる事の楽しさを感じました。
すごく楽しかった。最初は初対面が zoom というところもあり、不安が大きかった。みんなの意見を聴いたり、話し合うことの大切さ、そこから学ぶことの大きさを知ったので、もっと積極的にいろんなところで動いていきたいと思った。
より積極的に話し合いに参加するようになる。
自分の考えを相手に伝える
初対面の人とでも、楽しく充実した話し合いができる自信がついたから。
人とのかかわり方。
正解がない問いに対してもそれぞれの意見を言い合うことでその題材についてより深く理解することができること。
積極的に発言などをしていきたいと思った。
相手の意見を聴く姿勢、意見を言えてない人へ質問をすること
相手の話を聞くことの大切さや、聞くだけでなく、相手の心情を読み取ることが大事だと理解できたので、これからは生かしたいです。

【多少は変化しそう】

zoom での講義では、頷くなどのアクションをすることを心掛けようと思ったからです。
オンライン授業で、同じようにディベートがあれば、今までよりは、絶対、積極的に参加出来そうだなと思う。
グループワークにおける行動の仕方が良くなる
より聞く姿勢に気を付ける
今まで通りが 1 番ですが話し合いの場では今日の事を踏まえてやっていきたいと思います。
自分以外の学生の方々の話を聞く姿勢を見て、とても話しやすく、雰囲気の良いだけでも密度の濃い時間に出来たと感じる。今後は、今日関わった学生の方々を見習って取り組んでいきたいと考える。
授業でのグループワークでは、話し合いがスムーズに進むように、リーダーとなって場をまとめていきたい。
進んで意見を言ったり、司会役をかってでたりしてみたいと思った。
人の意見も取り入れながら考えていく
人の話をよく聞くこと
人の話を聞くことの重要性について知れたので、より熱心に授業に取り組めると思う。
積極的に発言すること
先生の話とか、何を意図して話しているのか汲み取ること
相手がどのような意図で話しているのかを理解しようとする点で変化が起きると思う

Q 6. このプログラムを受け、今後の学生生活に変化がおきそうですか？
どのような変化ですか？

今後の学生生活の変化

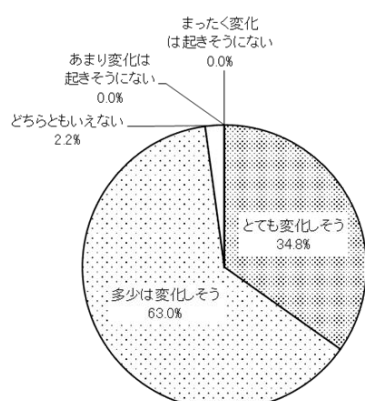


今後の学生生活の変化		とても変化しそう	多少は変化しそう	どちらともいえない	あまり変化は起きそうにない	まったく変化は起きそうにない	無回答
全体	38	10	22	5	1	0	0
		26.3	57.9	13.2	2.6	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)

【参考】2020年度 PBL ゼミ (オンライン) N=46

今後の学生生活に変化がおきそうか



『オンライン PBL ゼミ2021』アンケート集計



フリーコメント

【とても変化しそう】

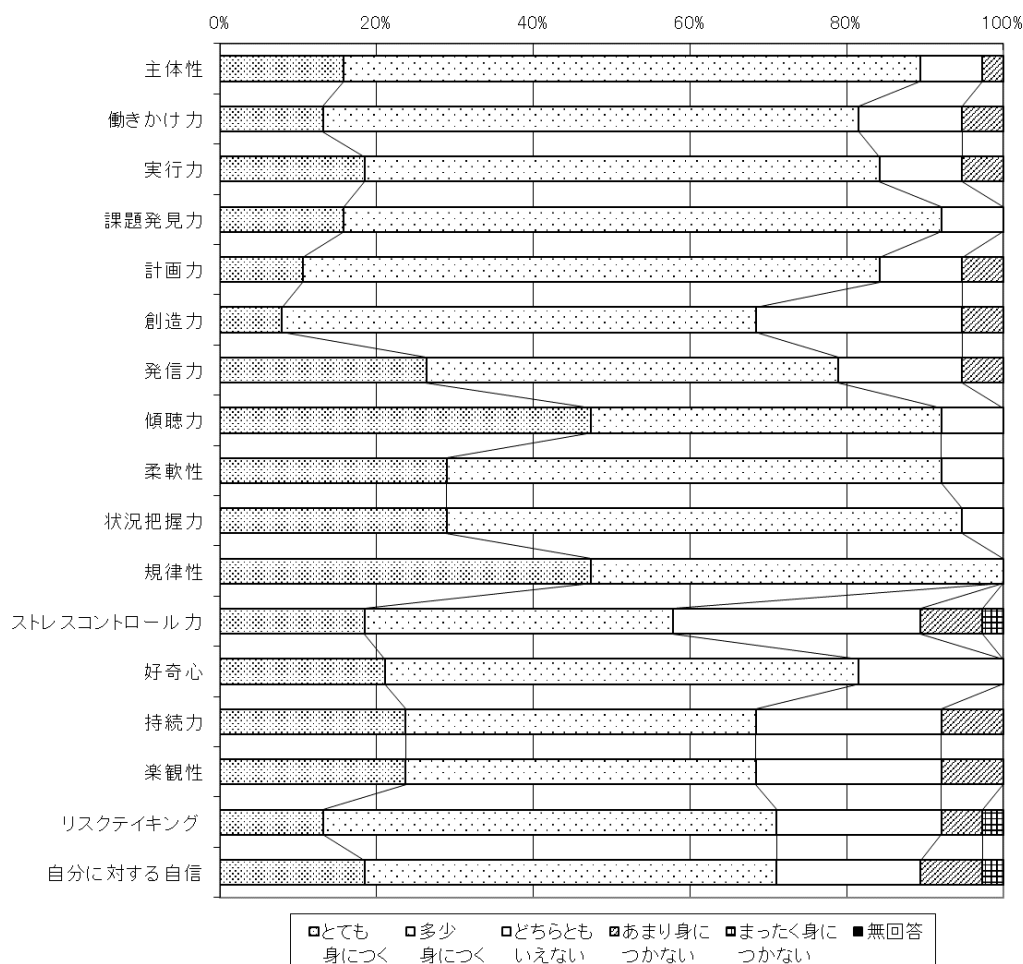
コミュニケーション能力を高めようとする気持ちの変化。
さまざまな取り組みに参加したい。もっと自分から動きたいと思った。
ちょっとしたことでも、自信をだして挑戦していきたいです。
一旦落ち着いて自分の意見を言い出すだけではなく他人の意見をいちど受け入れてから物事を考えること。
今回の実習で、初対面の方との接し方、関わり方を変えていこうと思った。ディスカッションをする際の立ち回りや雰囲気作り、思いやりはとても大事なので、意識してよい方向に自分自身を変えていきたい。
思ったことを相手にしっかり伝える
初対面のグループワークの時に今回の事を上手く使うことで、仲を深めれる
初対面の人にも多少今までよりも話せるようになったと感じる。
積極的にコミュニケーションをとれる自信がついたから。
他人の意見を尊重し、否定するだけでなく自分の意見も主張すること

【多少は変化しそう】

いろいろなことに挑戦すること。
いろんな行事に参加するかもしれないこと。
グループでの話し合いが効率よくできそう。
グループワークが楽しかったし、今後もこういった場に積極的に参加したいと思えた
コミュニケーションにおいて積極的になろうという変化
それぞれ個々の意見があってそれを尊重していきたい
なにか今回のような機会があったら積極的に参加していきたいと思った。
より社会的になると思う。
会話の中で相手の意見を聴く時の姿勢
自分の意見をしっかり伝えることができるようになりそう
新しいことに挑戦することが不安だったが、今回挑戦してみて意外と大丈夫かなと思えた。そのため、新しいことに挑戦していきたいと思う。
人と関わる上で、相手に意見をするときは何を伝えたいのか、誤解を生まない伝え方や相手の性格を意識して関わってきたい。
人と話をする時の聞き方が変わるとおもいます。聞き手がしっかりとアクションを起こすことで相手の話やすい環境をつくることを学べたので意識して生活したいです。
積極的にコミュニケーションを行いたい。
他の人の考えの重要性を知ることができた
他学科や他学年の学生との交流ができたので、学校で会った際は話せればよいなと思った。

『オンライン PBL ゼミ2021』アンケート集計

Q7. それぞれの力や姿勢について、現在の自分にどれくらい身についていると思いますか？



(%)

	サンプル数	とても身につく	多少身につく	どちらともいえない	あまり身につかない	まったく身につかない	無回答
主体性	38	15.8	73.7	7.9	2.6	0.0	0.0
働きかけ力	38	13.2	68.4	13.2	5.3	0.0	0.0
実行力	38	18.4	65.8	10.5	5.3	0.0	0.0
課題発見力	38	15.8	76.3	7.9	0.0	0.0	0.0
計画力	38	10.5	73.7	10.5	5.3	0.0	0.0
創造力	38	7.9	60.5	26.3	5.3	0.0	0.0
発信力	38	26.3	52.6	15.8	5.3	0.0	0.0
傾聴力	38	47.4	44.7	7.9	0.0	0.0	0.0
柔軟性	38	28.9	63.2	7.9	0.0	0.0	0.0
状況把握力	38	28.9	65.8	5.3	0.0	0.0	0.0
規律性	38	47.4	52.6	0.0	0.0	0.0	0.0
ストレスコントロール力	38	18.4	39.5	31.6	7.9	2.6	0.0
好奇心	38	21.1	60.5	18.4	0.0	0.0	0.0
持続力	38	23.7	44.7	23.7	7.9	0.0	0.0
楽観性	38	23.7	44.7	23.7	7.9	0.0	0.0
リスクテイキング	38	13.2	57.9	21.1	5.3	2.6	0.0
自分に対する自信	38	18.4	52.6	18.4	7.9	2.6	0.0

Q 8. このプログラムの講師について感じたことを自由にお書きください

フリーコメント（Q 1 の満足度別）

【とても満足した】

zoom でも円滑に進んでいたの、慣れているのかなという印象を受けました。
zoom の使用に関して完璧で、つまづく場面がなくですごくよかった。計画性が素晴らしいと感じた。
オンライン授業でも雰囲気良く、楽しく授業を進めることが出来た
お二人でプログラムを進めていただくことで、スムーズな進行で、受講していて全くストレスを感じることはありませんでした。ありがとうございました。
この様なプログラムを組んでいただきありがとうございました。 今後に生かしていきます。
とてもわかりやすく説明をしてくださって良かったです。
とても柔らかい雰囲気で講義して下さって、楽しく受けることが出来ました。ありがとうございました。
ハキハキと喋っていたのでとても聞き取りやすくてよかった。
やさしく、分かりやすく説明してくださってとても、安心して取り組みました。楽しかったです。
わかりやすく説明してくださった印象がある。
わかりやすく理解ができるように事前の準備や説明をしてくださりありがとうございました。このような機会はありません参加してよかったと思いました。楽しかったです。
具体例を挙げて話していただけたので内容が伝わりやすかった。
最初に発表順を決めることでグループワークに入って意見交換する時、毎回順番が変わらなかったから良かった。
授業を進めるスピードが早すぎず遅すぎず進めていただいたのでしっかり理解できていたのでありがたかったです。 まとめや解説も分かりやすく、勉強になる点が沢山ありました。 1日ありがとうございました。
上手に進行していただけたので円滑に講義を終えることができたので良かった。
進行がとてもスムーズで分かりやすかったです
生徒に対してとても優しく温かい方でした。ブレイクアウトルームや資料を送付するタイミングも絶妙で終始スムーズに受講することができました。楽しかったです。ありがとうございました。
声が聞こえやすかったです。説明も理解しやすい例があって分かりやすかったです。ありがとうございました。
説得力のある話し方や間の取り方を参考にしたいです。
説明の難しい事でもその概念をわかりやすく説明していただいたのでスムーズに理解できました。 ありがとうございました。

『オンライン PBL ゼミ2021』アンケート集計

説明等分かりやすかったですし、途中グループに入られたときも話しかけて下さって参加していて楽しかったです。
聴くことがコミュニケーションに1番大切なことと教えてくださり、ありがとうございました。聴くことは自分の成長に絶対につながるとこのプログラムを通して感じました。これからもっと、自信を持っていろんなことに挑戦していこうという気持ちになりました。ありがとうございました。
長い講義時間にもかかわらず疲れを感じさせないハキハキとした喋り方で、理解しやすく参加する意欲も途切れさせなかった。
分かりやすく進行してもらえたのでサクサク進むことができました。
優しい講師ばかりで、とても話しやすく、分かりやすい授業でした。
朗らかな人だったため、あまり緊張せず講義に参加できた。話も聞きやすく集中して取り組むことができた
話も分かりやすくよかった

【多少満足した】

これから行う課題についての説明がわかりやすかったです。また解説もわかりやすかった。
とても丁寧で、説明がわかりやすかったです。
声が聞き取りやすかった。
丁寧な説明でした。
分かりやすく、重きを置いている内容が伝わった

Q9. このプログラムについて感じたこと、気づいた点などを自由にお書きください

フリーコメント（Q1の満足度別）

【とても満足した】

1日のスケジュール通り段取りをこなしていくため、非常にやりやすかった。休憩も疲れてきた時に挟んでくれるため1回1回集中力を切らすことなく取り組めた

zoomでのディスカッションを初めて経験することができてよかったです。これからはzoomを使う機会は増えると思うので今日の経験を生かしていきたいです。ありがとうございました。

グループワークが多く、この時期にグループワークはあまり体験できないので社会に出た時に上手く立ち回れるのではないかな

グループワークはあまりできる機会がないので貴重な体験になった、就職活動でも活かしていきたい。

コミュニケーションとは何かを実際に体感できた授業度と思いました。

コミュニケーションを鍛える点でとても有意義な講義だと感じました。

コロナ禍で忘れていた人と話すことの楽しさをもう一度実感できました。楽しかったです。

できたら、対面がよかったです。コロナがおさまったらぜひ、対面でできたら、もっと聴く力、周りを見る力が、養われると思いました。コロナ禍の中、なんとか、PBLゼミを開講してくださり、ありがとうございました。

とても楽しかったです。もっと詳しくやっていきたくかったです。

とても充実した時間を過ごすことができました。学習する気持ちをこれからも持ち続けたいと思いました。

とにかく、楽しかったです。たくさんの事を吸収できました。ありがとうございました。

意見を言いやすい環境作りの大切さを感じました。今日のグループはその点とても話しやすく、とても良いディスカッションとなりました。

今回だけだと思いますが、一日中パソコンをつけているので、充電の持ちが心配になってしまいました。ありがとうございました。

最初は資格取得のために参加しており、あまりモチベーションは高くなかったが、参加してみても楽しく学ぶことができたので、参加して良かったと思います。

最初は時間長いなどか思ってたけど、いざやってみると時間があっという間で凄く楽しかった。

参加して本当に良かったです。楽しかったです。ありがとうございました。

自分の力を引き出してくれる

自分もアイズブレイクなど企画を担当する機会がある中でライフポジションなど面白いコンテンツを提供できる企業の凄さを実感した。

また自分の特性について客観的に分析する機会が得られ、今後の自分に確実にプラスになる有意義な時間でした。

説明がわかりやすく楽しいプログラムでした。ありがとうございました。

『オンライン PBL ゼミ2021』アンケート集計

<p>全員が初対面の方でしたが、初対面とは思えないほど温かい雰囲気で講義を進める事が出来たのでとても良かったです。誰一人として、講義を進めるにあたってマイナスな対応がなく、、とても身になる機会でした。本当にありがとうございました。</p> <p>相手の意見に耳を傾け話を聞くこと、しっかりと反応することの大切さを改めて感じました。</p>
<p>多面的に考えることの重要性を感じました</p>
<p>話し合い・コミュニケーションのうえでの注意点などを学べたほか、異なる学科の人と交流ができ、とても楽しかったです。先輩が初めに話し出してくださり、グループ全体で話しやすい雰囲気だったのがよかったです。一日って長いなと感じていたけれど、楽しくてあっという間でした。またこのような機会があったら参加したいなと思いました。</p>
<p>話し合いがこんなに楽しいと思ったことは初めてなので、参加してよかったと感じました。本日はこのような機会を下さりありがとうございました。</p>
<p>話し合いは自分から話そうという気持ちで盛り上がるのが分かった</p>

【多少満足した】

<p>ユニークな課題で、全く知らない人同士での討論も楽しくすることができた。</p>
<p>意外に時間が過ぎるのがあっという間で、自分がグループワークに集中していたのだなと思った。</p>
<p>今回参加してみて、人と話すことへの本質的な難しさや楽しさ、面白さに触れることができ楽しかったです。ありがとうございました。</p>
<p>初めて zoom 上できちんとした話し合いを行ったが、自分の意見を伝えること、相手の意見を聞くことがとても大切だと感じた</p>



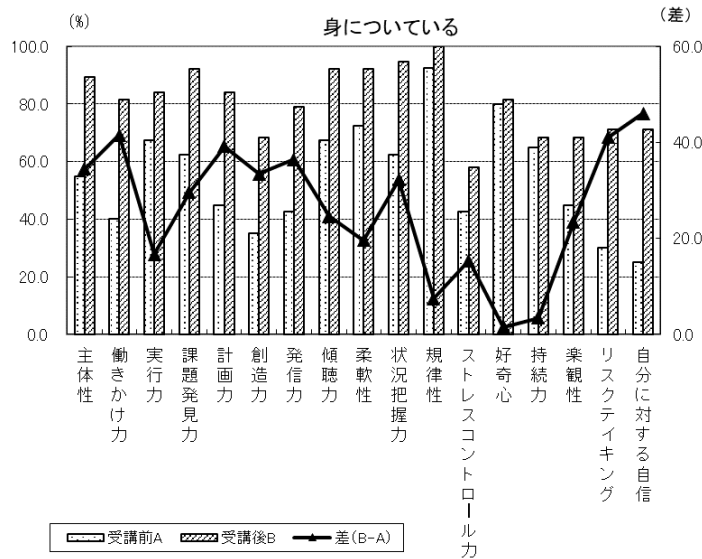
受講前・受講後比較
(社会人基礎力)

『オンライン PBL ゼミ2021』アンケート集計

Q：それぞれの力や姿勢について、現在の自分にどれくらい身についていると思いますか？

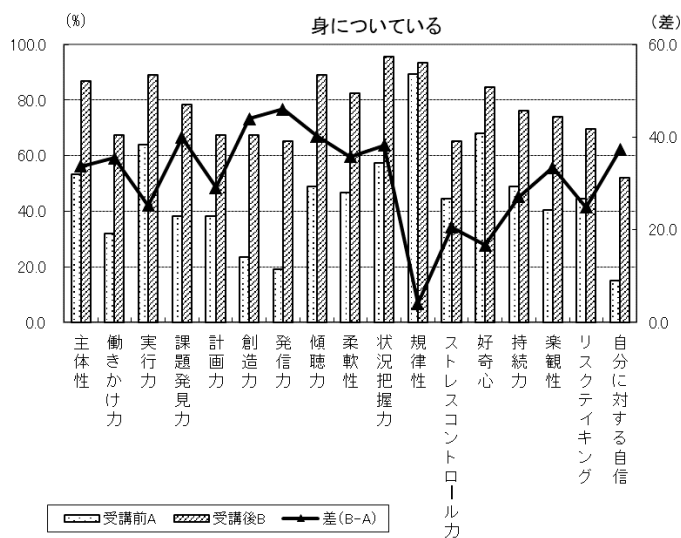
★「身についている」 事前事後比較

【2021年】 N=38



	身についているA-B		
	受講前A	受講後B	差(B-A)
主体性	55.0	89.5	34.5
働きかけ力	40.0	81.6	41.6
実行力	67.5	84.2	16.7
課題発見力	62.5	92.1	29.6
計画力	45.0	84.2	39.2
創造力	35.0	68.4	33.4
発信力	42.5	78.9	36.4
傾聴力	67.5	92.1	24.6
柔軟性	72.5	92.1	19.6
状況把握力	62.5	94.7	32.2
規律性	92.5	100.0	7.5
ストレスコントロール力	42.5	57.9	15.4
好奇心	80.0	81.6	1.6
持続力	65.0	68.4	3.4
楽観性	45.0	68.4	23.4
リスクテイキング	30.0	71.1	41.1
自分に対する自信	25.0	71.1	46.1

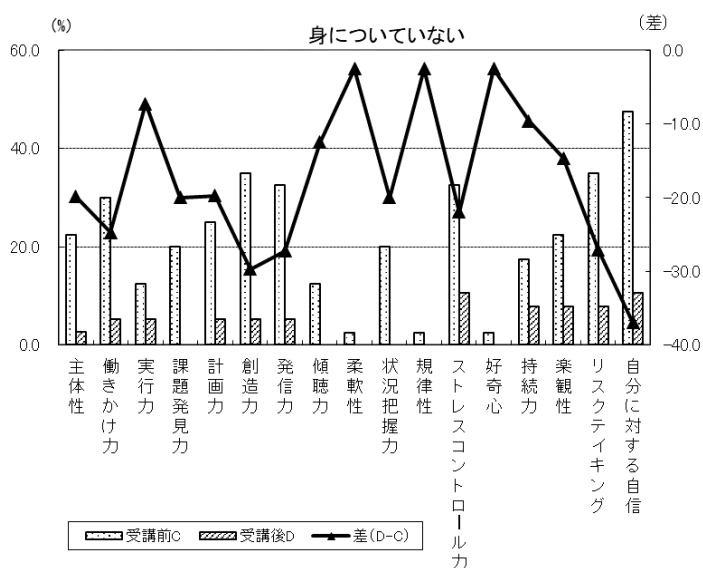
【参考：2020年】 N=46



	身についているA-B		
	受講前A	受講後B	差(B-A)
主体性	53.2	87.0	33.8
働きかけ力	31.9	67.4	35.5
実行力	63.8	89.1	25.3
課題発見力	38.3	78.3	40.0
計画力	38.3	67.4	29.1
創造力	23.4	67.4	44.0
発信力	19.1	65.2	46.1
傾聴力	48.9	89.1	40.2
柔軟性	46.8	82.6	35.8
状況把握力	57.4	95.7	38.2
規律性	89.4	93.5	4.1
ストレスコントロール力	44.7	65.2	20.5
好奇心	68.1	84.8	16.7
持続力	48.9	76.1	27.2
楽観性	40.4	73.9	33.5
リスクテイキング	44.7	69.6	24.9
自分に対する自信	14.9	52.2	37.3

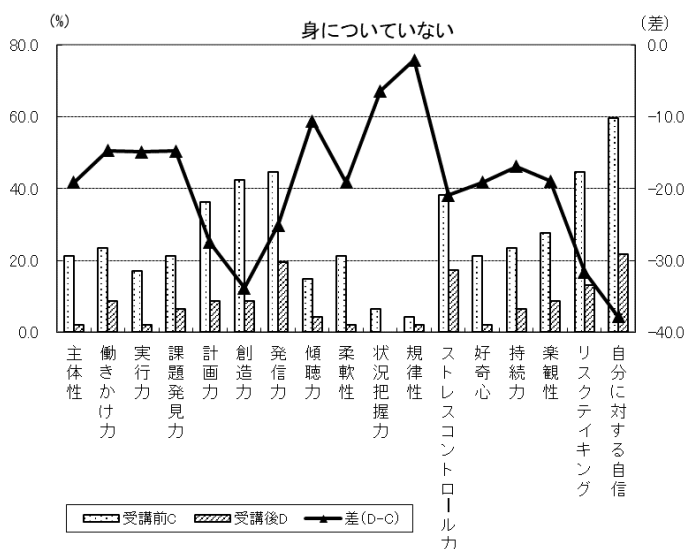
★「身につけていない」 事前事後比較

【2021年】 N=38



	身につけていないC-D		
	受講前C	受講後D	差(D-C)
主体性	22.5	2.6	-19.9
働きかけ力	30.0	5.3	-24.7
実行力	12.5	5.3	-7.2
課題発見力	20.0	0.0	-20.0
計画力	25.0	5.3	-19.7
創造力	35.0	5.3	-29.7
発信力	32.5	5.3	-27.2
傾聴力	12.5	0.0	-12.5
柔軟性	2.5	0.0	-2.5
状況把握力	20.0	0.0	-20.0
規律性	2.5	0.0	-2.5
ストレスコントロール力	32.5	10.5	-22.0
好奇心	2.5	0.0	-2.5
持続力	17.5	7.9	-9.6
楽観性	22.5	7.9	-14.6
リスクテイキング	35.0	7.9	-27.1
自分に対する自信	47.5	10.5	-37.0

【参考：2020年】 N=46

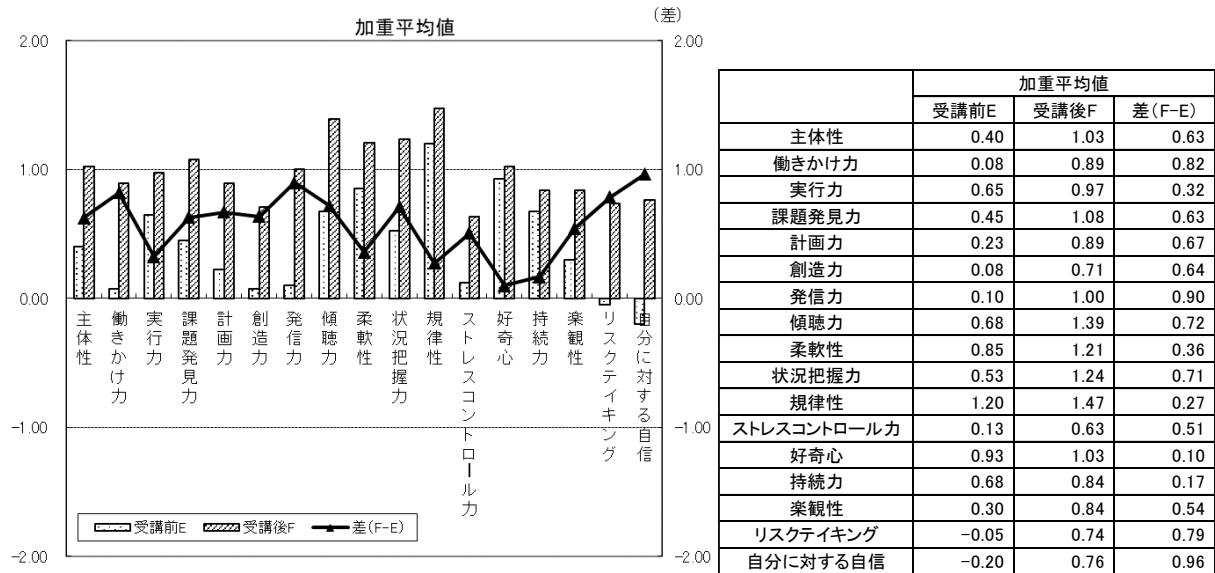


	身につけていないC-D		
	受講前C	受講後D	差(D-C)
主体性	21.3	2.2	-19.1
働きかけ力	23.4	8.7	-14.7
実行力	17.0	2.2	-14.8
課題発見力	21.3	6.5	-14.8
計画力	36.2	8.7	-27.5
創造力	42.6	8.7	-33.9
発信力	44.7	19.6	-25.1
傾聴力	14.9	4.3	-10.5
柔軟性	21.3	2.2	-19.1
状況把握力	6.4	0.0	-6.4
規律性	4.3	2.2	-2.1
ストレスコントロール力	38.3	17.4	-20.9
好奇心	21.3	2.2	-19.1
持続力	23.4	6.5	-16.9
楽観性	27.7	8.7	-19.0
リスクテイキング	44.7	13.0	-31.6
自分に対する自信	59.6	21.7	-37.8

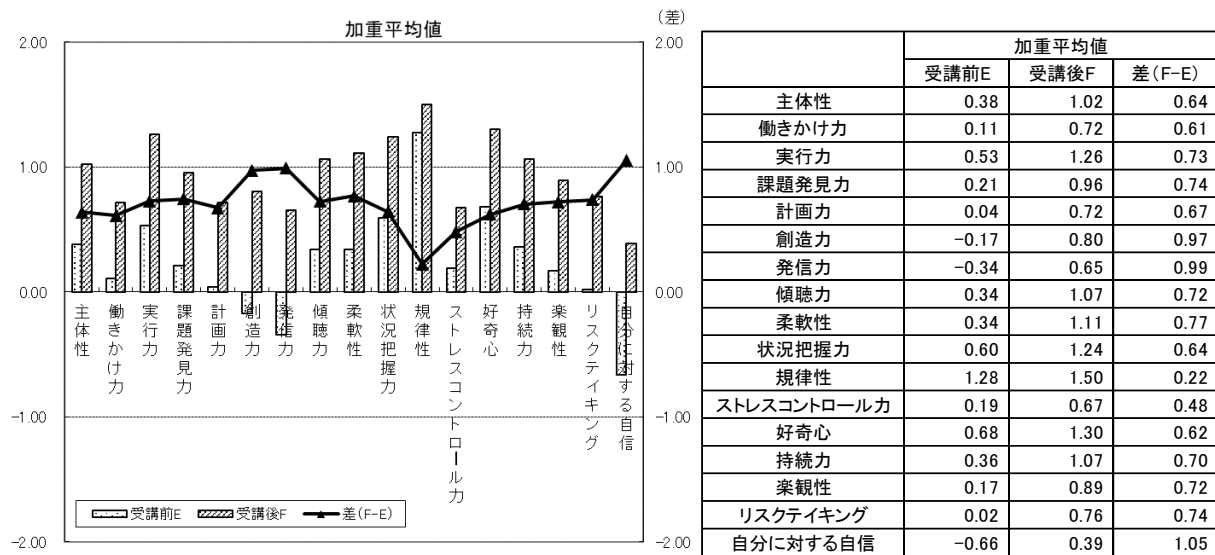
『オンライン PBL ゼミ2021』アンケート集計

★「身につけている」 事前事後の加重平均

【2021年】 N=38



【参考：2020年】 N=46



② オータムスクール 2021 in 瑞浪



文部科学省
地(知)の拠点

COC+参加大学共通プログラム
オータムスクール2021



私が市長だ! 瑞浪市

プロモーション大作戦

2021
11/13(土) 11/14(日) 11/21(日)

現地見学 9:00~17:00	オンライングループワーク 9:00~17:00	オンライン発表会 9:00~16:00
---------------------------	-----------------------------------	-------------------------------

A

ふるさと納税コース



ふるさと納税額のUPを目指そう

ふるさと納税額は年々順調に伸びているが、まだまだ他市より低い。今年度は前年比1.5倍の1億5千万円を目指している。ふるさと納税額を増やすための提案を考え、作成・プロモーションして欲しい。

B

まちづくりコース



人を呼び込むプロモーション

化石や宿場町など歴史的な財産と、最先端の研究学園都市の整備が進む街で過去と未来の交流拠点を目指している。ターゲットに合わせて移住・定住・関係人口増加の手法を考える。



mioちゃん&デスマくん
(化石博物館キャラクター)



岐阜大学



中部大学



中部学院大学
大学院/大学/短期大学部



名古屋学院大学



日本福祉大学

【オータムスクールとは】

ぎふCOC+事業推進コンソーシアムは、岐阜県における若者の地元定着率を上げることを目的として、岐阜県内の企業と大学生との接点増加を試み、産業界ニーズにより適合した人材を育成する教育プログラムを各大学において実施しております。その一環として、大学間共通のオータムスクールを岐阜県瑞浪市（東濃圏域）で開催します。このプログラムでは、地域を支えている方々や他大学の学生と一緒に、地域の「将来」を考えていきます。地域の現状や地元企業の理解を深め、自分の能力を磨いて、今後のキャリアの選択肢を広げましょう。

参加費

0円

※食費・集合場所までの交通費等実費は自己負担です。

参加人数

20

名程度（各コース5大学20名程度）

参加方法

フィールドワークは岐阜県瑞浪市内で実施します。オンラインはZOOMミーティングを用います。オンライン用の通信環境や機材は各自準備してください。

優秀な提案には

市長賞

が与えられるゾ!!

申込締切

2021年
9月15日(水)



化石博物館キャラクター
デスマくん

【申込方法】

9月15日（水）申し込み締切 全項目にご記入ください

申込書を記入し、キャンパスプラザ2階 地域連携センター（墨・早川）まで提出ください。

氏名		性別		学年	
学籍番号		学部			
携帯電話		メールアドレス			
希望コース (A,B,Cを記入)	第一希望 _____ 第二希望 _____ 第三希望 _____ A.ふるさと納税コース B.まちづくりコース C.どちらでも可 ※申し込み人数によって必ずしも希望コースになるとは限りません。予めご了承ください。				
フィールドワーク 集合場所 (1日目)	瑞浪駅前 ・ 岐阜駅前 集合場所からはバスで移動します。2日目、3日目はオンラインでの実施です。 ※状況によりフィールドワーク（現地実習）ができない場合は日程を延期する可能性があります。				
その他 (配慮事項など)					

【申し込み先】中部大学 地域連携センター（キャンパスプラザ2階）墨・早川
☎：0568-51-9872 ☒：chiiki@office.chubu.ac.jp

記載いただいた情報は、サマースクール2021以外の目的に使用しません。

COC+参加大学共通プログラム

オータムスクール2021報告書

— 目 次 —

I : 目 的	P. 1
II : テーマ	P. 1
III : 実施結果概要	P. 1
IV : 詳細スケジュール	P. 2
V : 学生アンケート結果一覧	P. 5

I：目的

2016年度から実施しているサマースクール（※）は、岐阜県における若者の地元定着率向上を目指して、岐阜県内の企業と大学生の接点を増やすプログラムの一つとして設計されました。

参加する5つの大学では、それぞれ、地域と連携した教育プログラムを展開しています。同じように地域と関わって頑張る大学生たちが混合チームを組み、実際の地域課題に対して解決案を提案するのが、サマースクールの活動内容です。

地域を支えている方々の話を聞き、他大学の学生と一緒に瑞浪市の未来を考えることにより、地域の現状や地元企業の理解を深め、自分の能力を磨くことで、今後のキャリアの選択肢を拓いてもらうことを目的としています。

※：サマースクールとはプログラムの名称です。今年は実施を秋に延期したためオータムスクールと呼称しています。

II：テーマ

「私が市長だ！瑞浪市プロモーション大作戦」

A：ふるさと納税コース：目指せふるさと納税額1.5倍

瑞浪市のふるさと納税額は年々順調に伸びていますが、まだまだ他市より低いのが現状です。とはいえ特徴ある企業のユニークな品揃えで、伸びしろは十分あると考えています。瑞浪市の企業を知り、ふるさと納税の仕組みを理解して、前年比1.5倍の1億5千万円を獲得するための提案を考えてください。

B：まちづくりコース：人を呼び込むプロモーション

瑞浪市は化石や宿場町といった歴史的な財産だけでなく、最先端の研究学園都市としての整備も進めています。子育て世代、リタイア世代、新天地を求める若者世代など、ターゲットに合わせて移住・定住・関係人口を増加させる方法を提案してください。

III：実施結果概要

参加者：30名（Aコース：15名、Bコース：15名、各々3チーム×5名ずつ）

日程：2021年11月13日（土）、14日（日）、21日（日）

市長賞：Aコース：A2（どすこい組）、Bコース：B2（みずなみ〜ず）

IV. 詳細スケジュール

1日目スケジュール（現地）

A コース		B コース	
8:00	岐阜駅出発	8:00	岐阜駅出発
9:15	瑞浪市役所着	9:15	瑞浪市役所着
9:30 ～10:00	開会式・オリエンテーション@瑞浪市役所	9:30 ～10:00	開会式・オリエンテーション@瑞浪市役所
10:00 ～10:30	ふるさと納税の現状説明		移動
	移動	10:30 ～12:00	大湫町（総合計画、年乳対策委員、移住者）、町内見学
10:45 ～11:55	ちやわん屋みずなみ・窯業技術研究所		移動
	移動	12:30 ～13:15	瑞浪北中学校動画鑑賞（@黙食時間中） 昼食@Mビル
12:10 ～13:30	深山動画鑑賞（@黙食時間中） 昼食@瑞浪市役所 会議室	13:15 ～14:30	移住定住施策の説明 駅周辺再開発の説明 駅周辺見学
	移動		移動
14:00 ～15:15	東美濃ビアワークス （醸造所見学・質疑）	14:45 ～16:15	化石博物館→発掘体験現場 （解説・化石発掘体験）
	移動		移動
15:30 ～16:00	きなあた瑞浪 （ポーノポーク解説・買い物）	16:30 ～17:00	振り返り@瑞浪市役所 閉会挨拶
	移動	/	
16:15 ～17:00	日本ジオニック動画鑑賞@瑞浪市役所 振り返り 閉会挨拶		

2日目スケジュール（オンライン）

A コース		B コース	
8:45 ～9:00	参加者ログイン・出席確認	8:45 ～9:00	参加者ログイン・出席確認
9:00 ～9:20	全体説明・操作ガイダンス	9:00 ～9:20	全体説明・操作ガイダンス
9:20 ～10:30	ブレイクアウトセッション① ・振り返り（20分） ・Q&A 動画（15分×2本の予定） ・提案方針相談（20分程度）	9:20 ～10:30	ブレイクアウトセッション① ・振り返り（20分） ・提案方針相談（30分） ・質問整理（20分）
	休憩		休憩
10:45 ～12:00	ブレイクアウトセッション② ・提案方針相談（アウトライン作成）	10:45 ～12:00	インタビュー会 （瑞浪市役所・高野先生（?））
12:00 ～13:00	昼休み	12:00 ～13:00	昼休み
13:00 ～13:30	ブレイクアウトセッション③ ・質問整理	13:00 ～14:45	ブレイクアウトセッション② ・提案方針相談（アウトライン作成） ・中間発表準備（途中適宜休憩）
13:30 ～14:30	インタビュー会 （瑞浪市役所）		休憩
	休憩	15:00 ～16:00	中間発表
14:45 ～15:45	ブレイクアウトセッション④ ・中間発表準備		休憩
	休憩	16:00 ～17:00	ブレイクアウトセッション③ 今後の進め方の相談
16:00 ～17:00	中間発表 今後の進め方の相談		

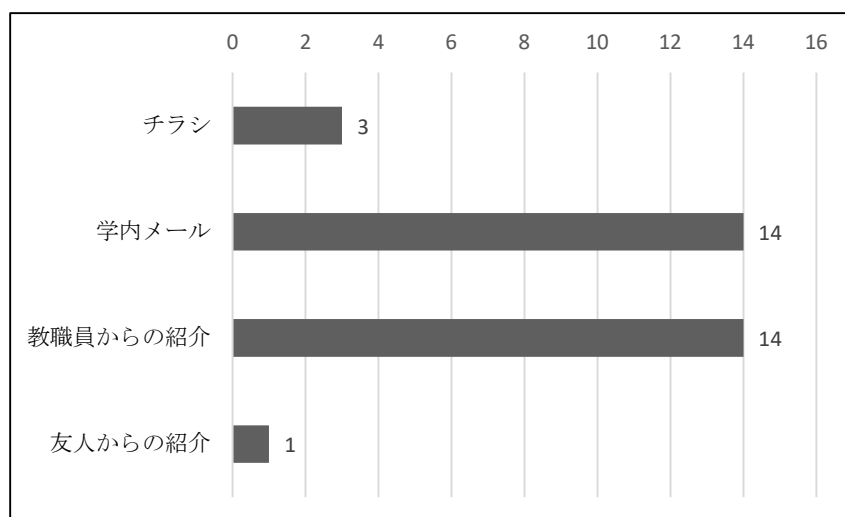
2 活動報告

3日目スケジュール（オンライン）

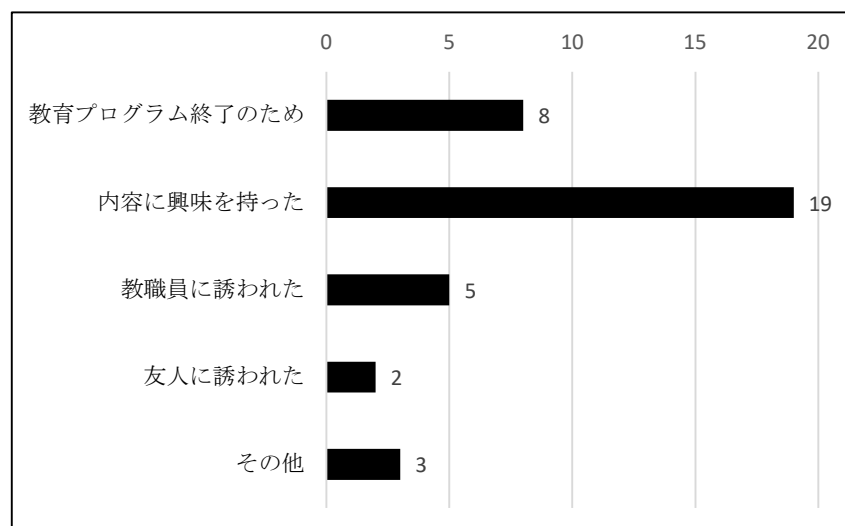
A コース		B コース	
8:45 ～9:00	参加者ログイン・出席確認	8:45 ～9:00	参加者ログイン・出席確認
9:00 ～10:00	全体説明・コース内中間報告②	9:00 ～10:00	全体説明・コース内中間報告②
10:00 ～12:00	ブレイクアウトセッション⑤ スライド修正	10:00 ～12:00	ブレイクアウトセッション⑤ スライド修正
12:00 ～13:00	昼休み	12:00 ～13:00	昼休み
13:00 ～13:30	最終調整	13:00 ～13:30	最終調整
14:00 ～15:30	発表会（共通 ZoomURL に全員切り替え）		
15:30 ～16:00	<閉会式> 講評・表彰・閉会挨拶		

V. 学生アンケート結果一覧（回答数：26名、回収率：86.7%）

Q1：オータムスクールを何で知りましたか？（複数回答可）



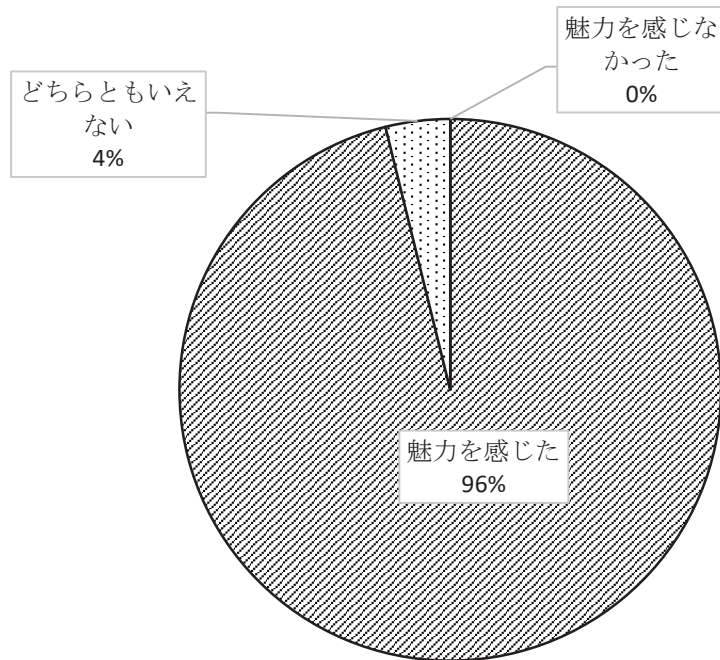
Q2：参加した理由は？（複数回答可）



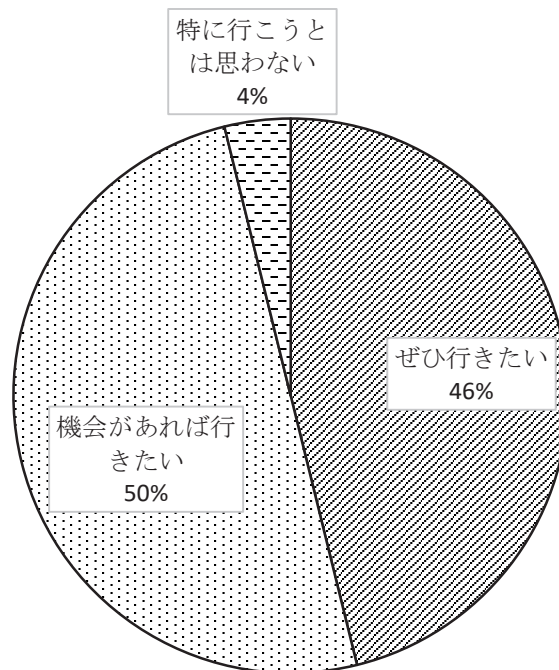
その他のコメント

- ・自分を変えるきっかけにしたいと思ったから
- ・ガクチカ（学生の時に力を入れたこと）になりそうだったから
- ・地域に密着しつつ、他大学の新しい人たちと話し合いをしたいと思ったため

Q 3 : プログラムを通して瑞浪の魅力を感じましたか？



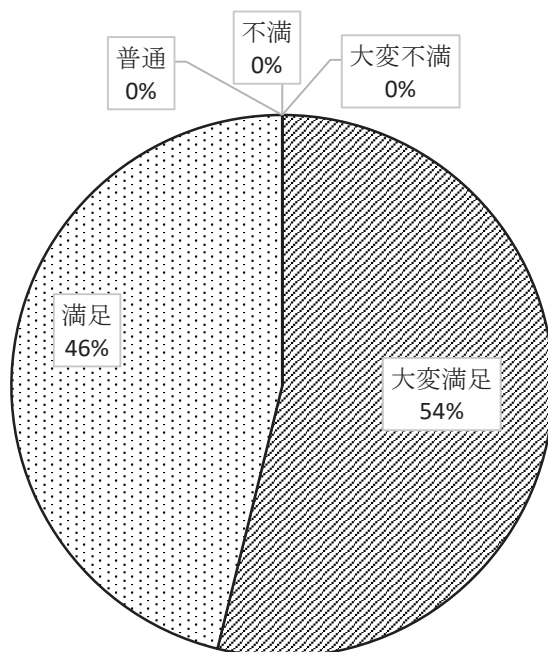
Q 4 : また瑞浪を訪れたいと思いますか



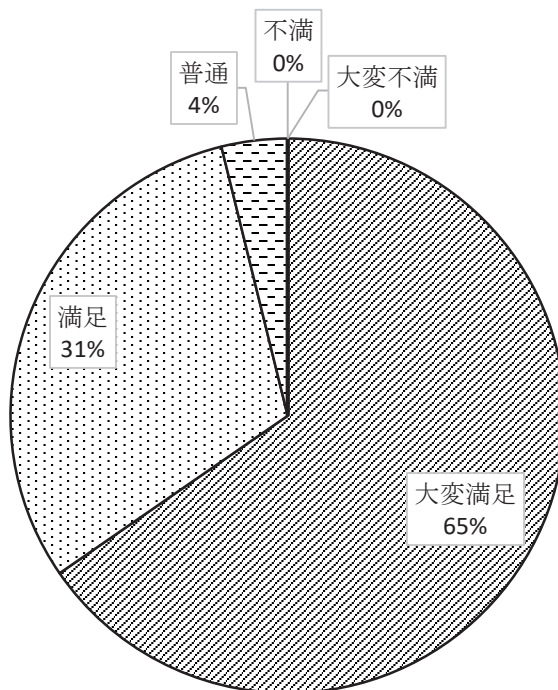
Q 5 : 特に印象に残った瑞浪の魅力があれば教えてください

人々のつながりや温かさをすごく感じてPRするべきと感じた。
大湫町
美濃焼の種類の多さ、また、かわいらしさから普段使いができるものまで多く取り揃えてあるのだと知りました。いままでは陶磁器といえば古臭くどこかご年配の方のものというイメージがありましたが、一転しました。
街並み、雰囲気全て
陶器
歴史を感じる街並み、化石が取れる河原
ちゃん屋瑞浪の見学が種類が豊富で美濃焼の良さも知ることができて印象に残った。
大湫町の住民主体で活動しているというところが印象深かった
人と人とのつながり（大湫町にて）
自然が豊かだということと、想像していたより特産物や体験型施設が充実していたところ。
瑞浪市は、行政の方々だけでなく、市民の方々、瑞浪市全体で市を盛り上げようという意欲があり、温かくてとてもいいところだと思った。
美濃焼きの陶磁器
紅葉 大湫町の民家
クラフトビールの種類の豊富さ
瑞浪市と言えば化石という印象が強かったが、実際はそれだけでなかった。
化石発掘体験はとても楽しかったです。簡単に発掘できるのは誰にでもお勧めできる魅力だと思います。
地ビール とにかく種類豊富で日々新しい味のビールを開発しようとしている姿がとてもかっこよくて印象に残りました。また、私は女性でお酒もまあまあ飲むのですが、ビール瓶の柄だったり味がかわいくて飲むときに友達にかわいいの飲んでるでしょ？と自慢したくなるような素敵なビールでとても魅力を感じました。
カマドブリュワリー
ポーノークを実際に食べましたが、とてもおいしかったです！埴輪の箸置きは、個人的に好きです！
瑞浪でいくつか見学へ行かせていただきました。どこへ見学させていただいても、皆さんが瑞浪についてお話して下さる姿は瑞浪への熱い気持ちを感じ、瑞浪が本当に好きな方ばかりでした。自分の住んでいる町をこんなに好きで語れる人たちはいないなと思い、とても温かくて優しい町でした。

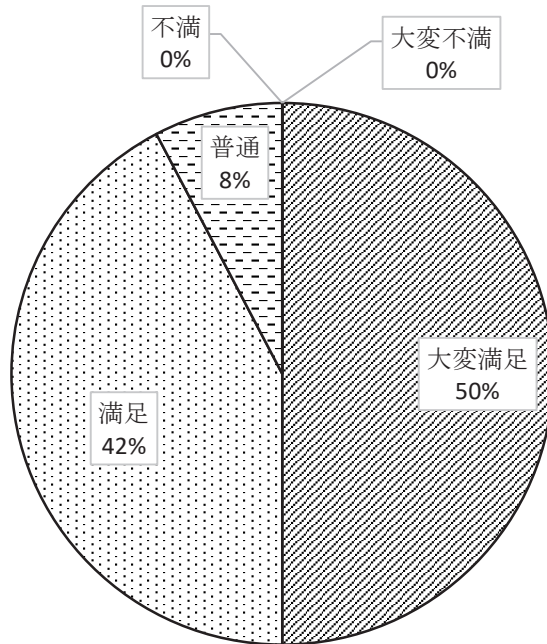
Q 6 : プログラム全体の満足度を教えてください



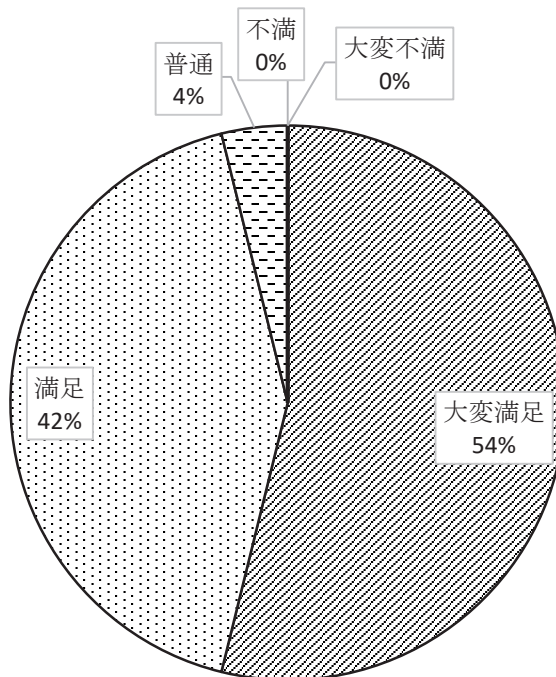
Q 7 : 1日目現地見学の満足度を教えてください



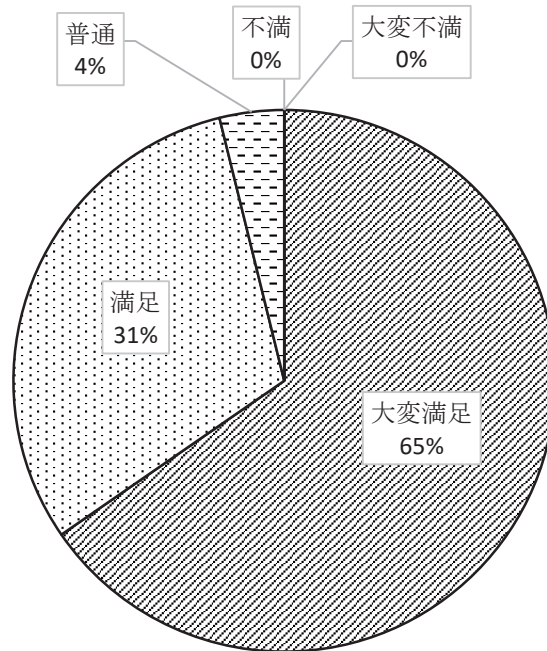
Q 8 : 2日目グループワークの満足度を教えてください



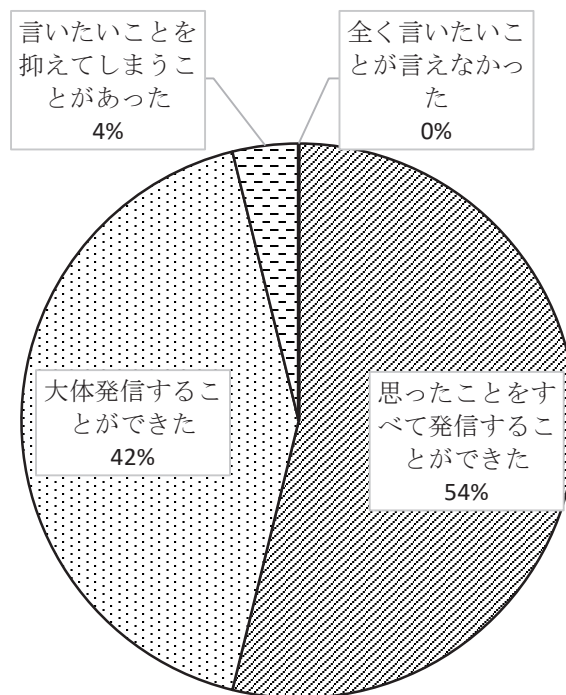
Q 9 : 3日目プログラムの満足度を教えてください



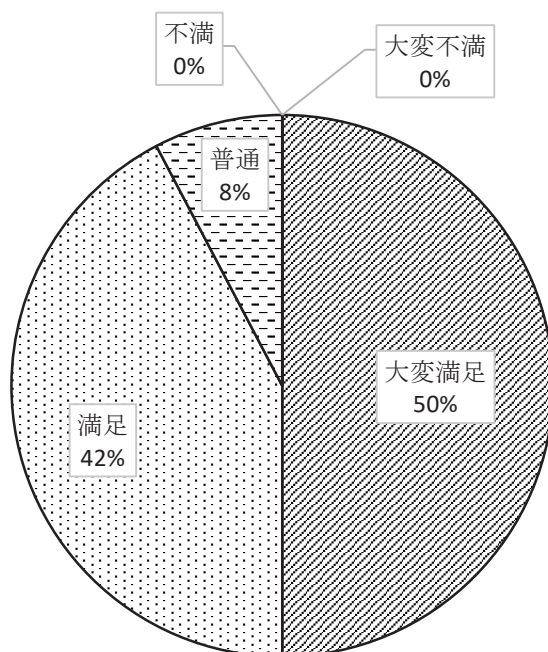
Q10：グループの雰囲気はどうでしたか？



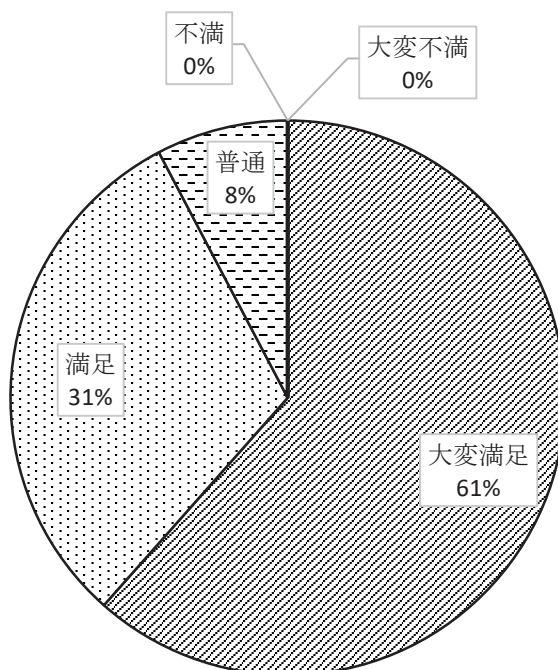
Q11：グループワークは十分に発信することができましたか？



Q 1 2 : 現地見学での教職員のかかわり方はいかがでしたか？



Q 1 3 : オンラインでの教職員のかかわり方はいかがでしたか？



Q14： オータムスクールについて、お気づきのことや感想があれば何でも記述してください

見学先に時間の余裕があまりなかったので、もっと知りたいなと感じました。

以前もオータムスクールに参加させていただきましたが、その時はやっておしまいだった記憶です。しかし、今回は市長賞があるということで前回以上にやる気があったのではないかと思います。今後もサマースクールがあるのであればまた市長賞があるといいなと思っております。

ありがとうございました。

発表資料を作る時間が少なく、別日に作成する必要があって大変だった

とても良い経験になりました。

瑞浪市や先生方からの手厚いプログラムなどを用意していただけて深く感謝しております。

勉強ではあるものの、堅いものではなく、グループワークや瑞浪を巡ったりと、とても楽しいプログラムでした。

市長賞がもらえなかったことがとても悔しかったが、そのくらいこの3日間真剣に瑞浪の課題について向き合っていたのだと実感した。また、オンラインのオータムスクールでもタイムスケジュールやブレイクアウトルームが整っていて不自由なく取り組むことができた。ありがとうございました。

二日目のZOOMミーティングの時間が足りなかった。遠隔での話し合いは少し慣れない部分があった。

今回の企画で初めて瑞浪市を知りました。1日見学ただけでも多くの魅力に触れることが出来、また訪れたいと思っています。貴重な体験ができて良かったです！ありがとうございました。

現地見学も含め、少し時間が押し気味だったことが気になった。せっかくグループに分けていただいたのに、元々友達の人同士や違うグループの人と行動している人もいたため、グループごとに行動を分けるなどするともっと団結力が強まったのかなと思う。

「ふるさと納税の寄付額を2倍にする」というシンプルかつ難しいテーマだったが、チームのメンバーの多角的な視点に助けられながら、楽しく考案することができた。実際に現地見学を行ったことで、資料では見えなかった瑞浪市の良さが感じられた。機会があれば、また参加したい。

瑞浪市の魅力を発見し、自分でどの方法で発信するのか考える機会・市長の前で発表する機会は滅多にないのでとても貴重な体験になりました。教職員の方には、知識や岐阜に住んでいることなど、愛知に住んでいる私と視点が違ったのでロジックを含めまだまだ相手に伝える能力に欠けるなど実感しました。本プロジェクトでは、瑞浪市だけではなく、グループディスカッションを通して自分の長所や短所を発見できる機会でもありました。ありがとうございました。

グループワークの途中で他のグループの人とごちゃまぜのグループワークがあると、より多角的に自分たちの意見を見ることができるといいんじゃないかと思いました。とても面白かったです。ありがとうございました。

Aチーム担当の岐阜大学教員後藤先生には意見の整理において、大変助けて頂いて、そういった教員のサポートの姿勢は非常に良いものであったため、次回以降の学生のためにも、是非続行して欲しいと感じた。

通常二泊三日ということで、一日目の現地見学がかなり忙しいタイムスケジュールでした。特に化石博物館はもう少し長く鑑賞したかったです。

今回はコロナの影響もあり、一日目以外はzoomによる話し合いとなりました。オンラインという形ではありますが、サマースクールが延期になりつつも今回オータムスクールとして開催して下さったことに感謝申し上げます。また、多くの瑞浪市の方々、瑞浪市民の方々、そして各大学の教職員の方々にも、ご協力いただいたこと、運営して下さったこと誠に感謝いたします。

話し合いが2日間というあっという間な時間で、もっとこうしたらいいのにと思いつつも時間の関係でそこまで至らず、極めて細かい部分まで修正しきれなかったことが私にとって大変悔しい思いをした一つであります。よって、1日目は現地、2日目と3日目は話し合い、4日目が発表というように、4日目も加えてみるのはいかがでしょうか。4日目は完全に発表だけで、話し合いは無しにすれば、慌てて資料を提出したり発表に切り替わることが無いかと思えます。

ぜひ、ご検討いただけましたら幸いです。

本日は誠にありがとうございました。とても貴重な経験と、大切な仲間たちに出会えたような気がします。

大学生活で、印象に残る出来事の一つになりました。

スライド修正の時間が少し短く感じました。もう少し時間が欲しかったです。

教職員のが、大学関係なくアドバイスを頂けて、大変ありがたかったです。オンラインで一週間、企画を煮詰める時間があつたので、企画に向き合い制度を高めることができました。きなあつた瑞浪にもう少し長く滞在できると良かったと思います。また、買い物ができることは、お金の所有もあるため事前にお知らせいただきたいと思えました。

最後になりますが、3日間本当にありがとうございました！！学びの多い機会でした。これからも、ここでできた交流、縁や経験を生かして、頑張っていきます！

3日間ありがとうございました。とても貴重な体験であり、楽しい時間でした。コロナ禍ということもあり、ZOOMでの意思疎通は大変難しいものでした。ですが初日にメンバーの方とお会いできたことはとても大きかったです。本来であれば2泊3日のことでしたが、初日だけでも対面だったことはその後がやりやすかったです。昼食時ですが、感染対策のため黙食ではありましたが、感染対策を十分に行った上で少しでも会話しながら食事ができれば雰囲気は和むのではないかと感じました。オンラインの場合は、全体で集まる日をもう1日増やしてもよいのではないかと思います。教職員の方々も対面の時でもオンラインの時でも、気軽に相談できてとても助かりました。ありがとうございました。

『オータムスクール 2021 in 瑞浪』の様子

<市長挨拶>



<学生宣誓>



<参加者一覧>



<グループディスカッションの様子>



<Aコース学習の様子>



<Aコース見学の様子>



<Bコース学習の様子>



<Bコース見学の様子>



3. 地域創成メディエーター 資格取得卒業生アンケート結果一覧

地域創成メディエーター
資格取得卒業生アンケート結果一覧

— 目 次 —

I : アンケート調査概要	・ ・ ・ ・ ・	P. 1
II : アンケート項目一覧	・ ・ ・ ・ ・	P. 2
III : アンケート分析結果	・ ・ ・ ・ ・	P. 4
	集計結果	P. 6
Q 1	・ ・ ・ ・ ・	P. 7
Q 2	・ ・ ・ ・ ・	P. 8
Q 3	・ ・ ・ ・ ・	P. 9
Q 4	・ ・ ・ ・ ・	P. 10
Q 5	・ ・ ・ ・ ・	P. 11
Q 6	・ ・ ・ ・ ・	P. 12
Q 7	・ ・ ・ ・ ・	P. 13
Q 8 (全体)	・ ・ ・ ・ ・	P. 14
Q 8 (第1位)	・ ・ ・ ・ ・	P. 15
Q 8 (第2位)	・ ・ ・ ・ ・	P. 16
Q 8 (第3位)	・ ・ ・ ・ ・	P. 17
Q 9	・ ・ ・ ・ ・	P. 18
Q 9コメント一覧	・ ・ ・ ・ ・	P. 19
Q 9 (参考資料)	・ ・ ・ ・ ・	P. 20
Q 10	・ ・ ・ ・ ・	P. 22
Q 10コメント一覧	・ ・ ・ ・ ・	P. 23
Q 10 (参考資料)	・ ・ ・ ・ ・	P. 24
Q 11	・ ・ ・ ・ ・	P. 26
Q 12	・ ・ ・ ・ ・	P. 27
Q 12 (参考資料)	・ ・ ・ ・ ・	P. 28
その他コメント、後輩へのエールなど	・ ・ ・ ・ ・	P. 30

I. アンケート調査概要

1 : アンケート対象者

地域創成メディエーターの資格を取得した卒業生のうち、住所登録がある卒業生

2 : 調査人数

395名

3 : アンケート実施期間

令和3年10月20日 ~ 令和3年11月20日

4 : アンケート回答者数

82名 (回答率 : 20.8%)

Ⅱ：アンケート項目一覧

必須回答項目

Q 1：性別は？

男性 女性

Q 2：現在、卒業後何年目ですか？

1年目 2年目 3年目 4年目 5年目 6年目以上

Q 3：卒業した学部は？

工 経営 国際 人文 応用 生命 現代
情報 関係 生物 健康科 教育

Q 4：卒業後の進路は？

就職 進学 その他（_____）

Q 5：あなたは何年生の時に地域創成メディエーターの資格を取りましたか？

1年生 2年生 3年生 4年生 覚えていない

Q 6：地域創成メディエーターの「動く」の活動には何年間携わりましたか？

当該年 2年間 3年間 4年間
度のみ

Q 7：あなたが地域創成メディエーターの資格取得を目指した有力なきっかけは？

あてはまるものを一つだけ選択して回答してください。

自発的 先生の 先輩の 友人の その他（_____）
勧め 勧め 誘い

Q 8：あなたが地域創成メディエーターを取得した目的は何ですか？

最も当てはまるものから順に、3つ以内で回答してください。

- ① 地域貢献に関心があったから
- ② 自分を成長させたいと思ったから
- ③ 卒業研究と関係があったから
- ④ 就職に有利だと思ったから
- ⑤ 資格が取れるなら何でもよかったから
- ⑥ 他者の勧めに応えようと思ったから
- ⑦ 具体的な目的は無かった。
- ⑧ その他（_____）

回答 1) _____ 2) _____ 3) _____

Ⅲ. アンケート分析結果

1: 総括

地域創成メディエーターについてはCOO事業に端を発し、2015年度に有資格者での初めての卒業生が4名卒業した。以降継続して資格取得者を輩出しており、2020年度までに519名の学生が取得した。今回は資格を取得した卒業生のうち、現住所が判明している395名に対して調査を実施した。有効回答数は82名であり、有効回答率は20.8%であった。回答は男女ほぼ半々でかつ、卒業後の年数もバランスのとれた回答が寄せられた。

全体的には役立った、良かったとの好意的な回答の割合が半数以上であったが、役に立たなかったという回答も多々見られた。積極的な卒業生はコメント、後輩へのエールも寄せており、好意的な声が認められた。以下に各設問での状況を鑑みながら考察とともに報告する。

①資格取得のきっかけについて

Q7での設問は、資格取得のきっかけが能動的なものか受動的なものかを問う設問であるが、自発的と回答した人は28%であり、取得前の意識は特に高くなかったことがうかがえる。

②資格取得の目的について

Q8の設問は、資格取得の目的を問う設問である。すべての回答をカウントすると前向きな目的（地域貢献、自分の成長、就職に有利）は53.8%であった。さらに細かく回答順位別に分析すると、回答順位が高いほど前向きな目的の割合が増えていた。これより、きっかけはさておき、取得するからにはがんばろうという心境の変化が読み取れた。

③就職時における資格の有効性について

Q9の設問は、就職時の資格の有効性を問う設問である。内訳は、とても役立った、少し役立ったは46.3%、あまり役に立たなかった、全然役に立たなかったは25.7%、わからないは26.8%であったため、有効であったと考える割合のほうが多かった。さらに細かく出身学部の特性を鑑みて分析してみると、国家資格取得が就職に直結する学部は有効性が低く、そうでない学部は有効性が高いという結果となった。これは、本資格は学内資格のため、就職時にアピールする材料としての活用が考えられるが、国家資格の有無が就職に直結する場合は、別の価値観（例：プレゼン能力がついた等）が必要と考えられる。また、国家資格が必要でない学部でも、就職面接時に積極的にアピールしてない人は有効性を感じていない部分が見受けられるため、今後の指導に生かす必要性が読み取れた。

④社会人となってからの有効性について

Q10の設問は社会人としての自分に対しての資格の有効性を問う設問である。内訳ははとても思う、少し思うは52.4%、あまり思わない、全く思わないは14.7%、どちらでもないは32.9%であった。この設問についても「③就職時における資格の有効性について」と同様の傾向が認められた。

⑤本資格の後輩への推奨について

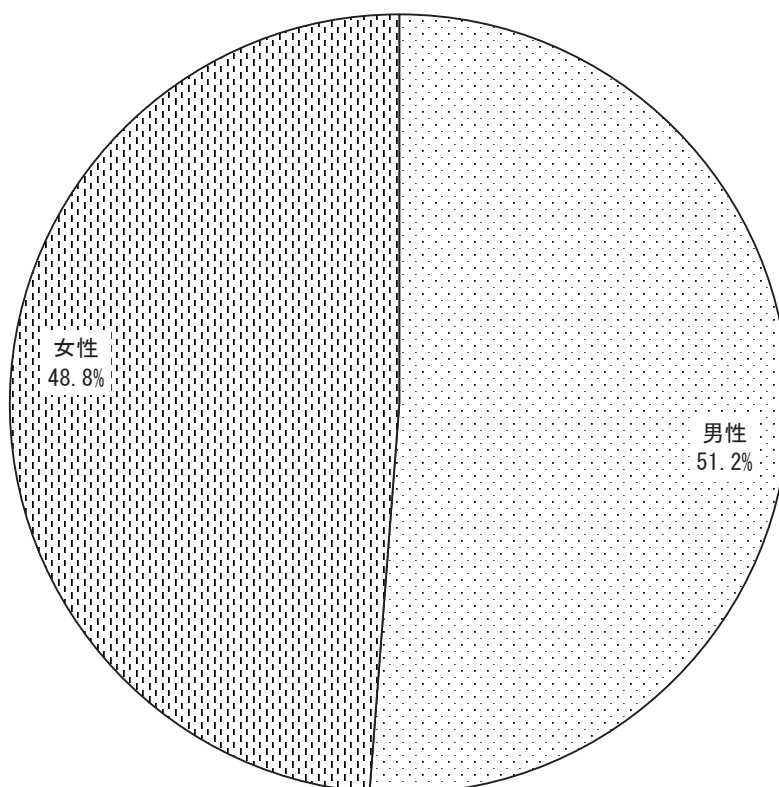
Q12は本資格を後輩へ推奨するか否かという設問であるが、とても思う、少し思うは58.6%、あまり思わない、全く思わないは4.8%、どちらでもないは36.6%であった。学部別で分析しても、国家資格の要否に関わらず、推奨したいという割合は60~70%程度となり、学生にとっては肯定的にとらえている回答が多くを占めた。これは就職だけではなく、多様な価値観を考えての回答が多かったと推察される。卒業生からの推奨が多いことは今後の学生指導にとっても有効と考えられる。

2 : 各設問別結果

- Q1 男女比はほぼ半々であった。
- Q2 卒業後1年目~6年目以上までのすべての年度について回答があった。
- Q3 生命健康科学部と応用生物学部で61%を占め、工学部人文学部がこれに続いた。
- Q4 ほとんどの卒業生の進路は就職であった。
- Q5 3年生、4年生で70.7%を占め、覚えていない卒業生も18.3%いた。
- Q6 当該年度のみ携わった卒業生が81.7%を占め、ほとんどであった。
- Q7 能動的（自発的）な理由は28%で、残りは受動的（先生の勧めなど）な理由であった。
- Q8 トータルとしては前向きな目的とそれ以外の目的は半々であるが、最も重要な目的での問いでは67.1%が前向きな目的で取得していた。
- Q9 とても役立った、少し役立ったは46.3%となり、あまり役に立たなかった、全然役に立たなかったは25.7%、わからないのは26.8%であった。
- Q10 とても思う、少し思うは52.4%、あまり思わない、全く思わないは14.7%、どちらでもないのは32.9%であった。
- Q11 個人で実践、仕事の一環で実践は26.8%であった。
- Q12 とても思う、少し思うは58.6%、あまり思わない、全く思わないは4.8%、どちらでもないのは36.6%であった。

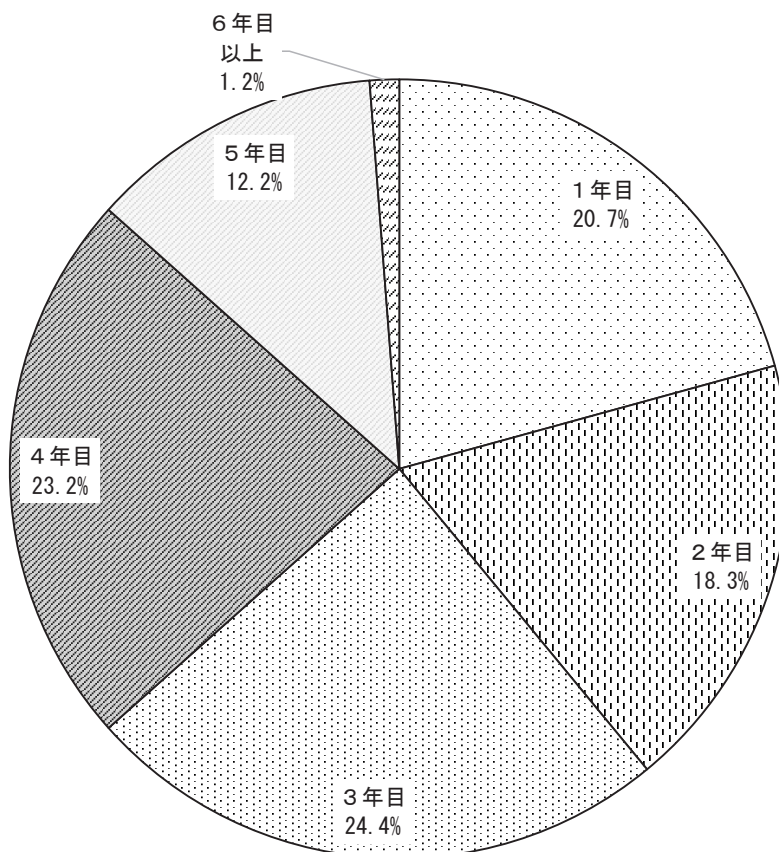
集 計 結 果

Q 1	性別は？
-----	------



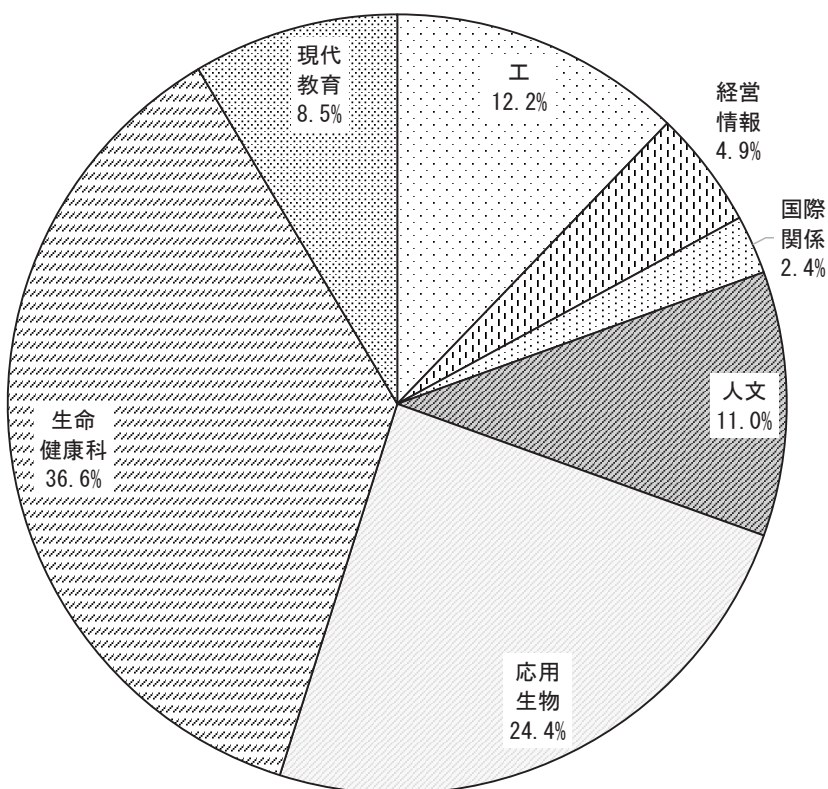
	回 答		合 計
	男性	女性	
人数	42	40	82
割合	51.2%	48.8%	100.0%

Q 2	現在、卒業後何年目ですか？
-----	---------------



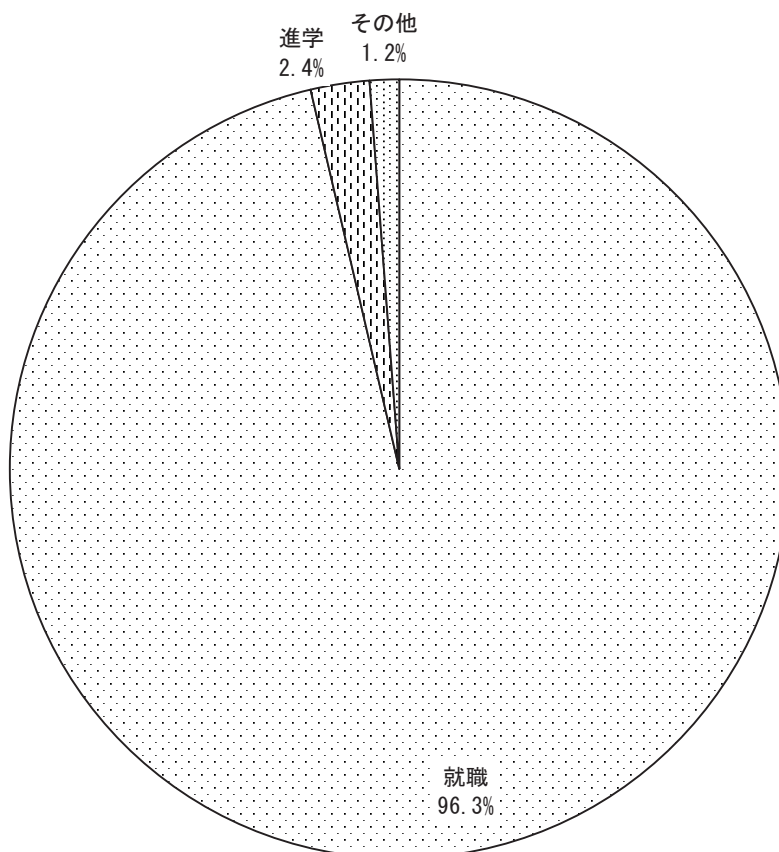
	回 答						合 計
	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目以上	
人数	17	15	20	19	10	1	82
割合	20.7%	18.3%	24.4%	23.2%	12.2%	1.2%	100.0%

Q 3	卒業した学部は？
-----	----------



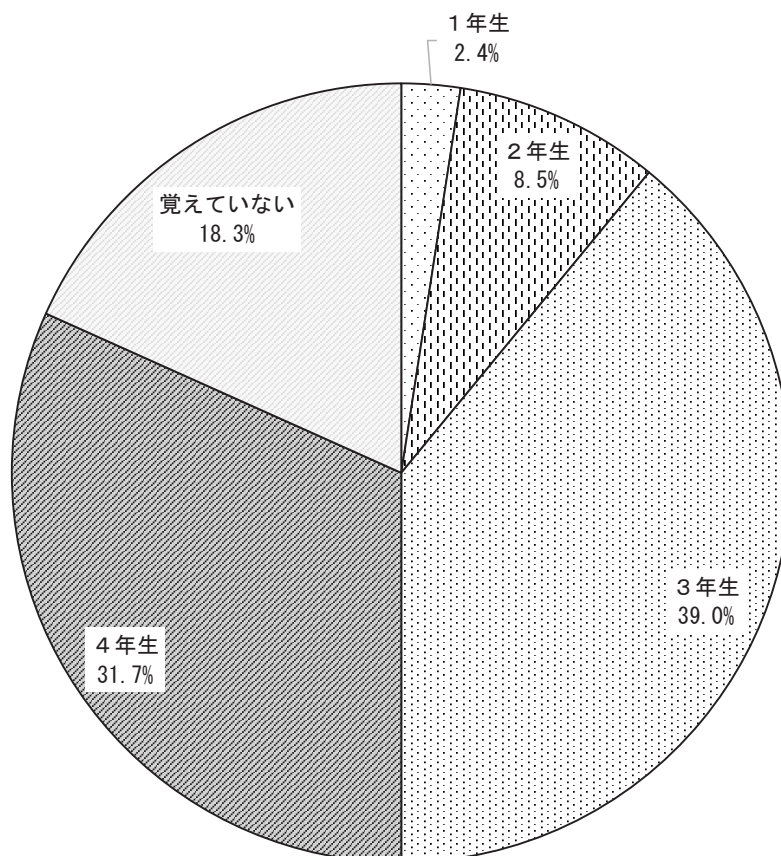
	回 答							合 計
	工	経営情報	国際関係	人文	応用生物	生命健康科	現代教育	
人数	10	4	2	9	20	30	7	82
割合	12.2%	4.9%	2.4%	11.0%	24.4%	36.6%	8.5%	100.0%

Q 4	卒業後の進路は？
-----	----------



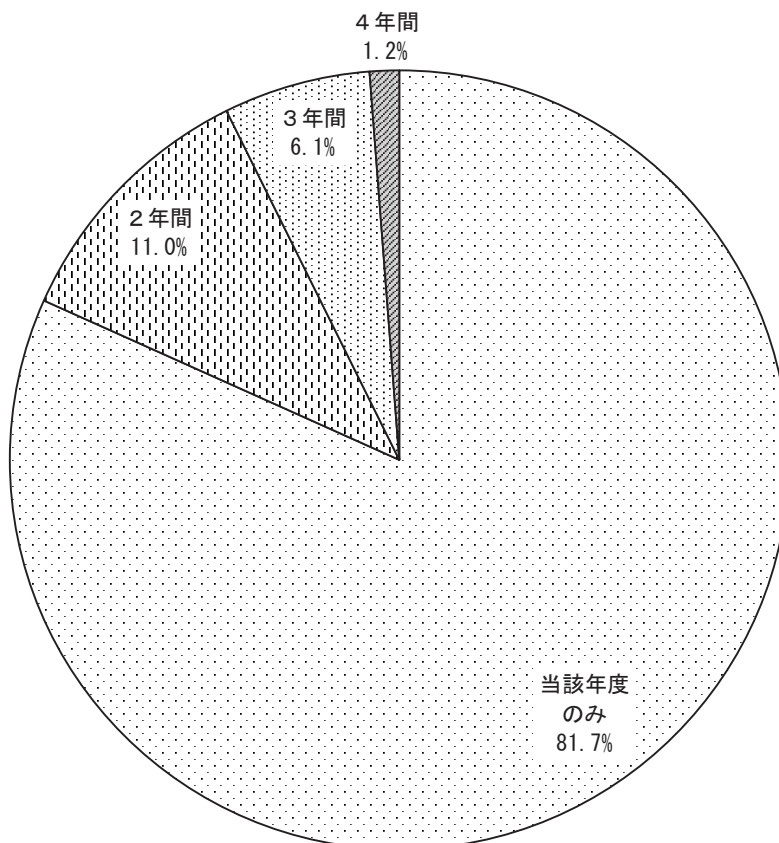
	回 答			合 計
	就職	進学	その他	
人数	79	2	1	82
割合	96.3%	2.4%	1.2%	100.0%

Q 5	あなたは何年生の時に地域創成メディエーターの資格を取りましたか？
-----	----------------------------------



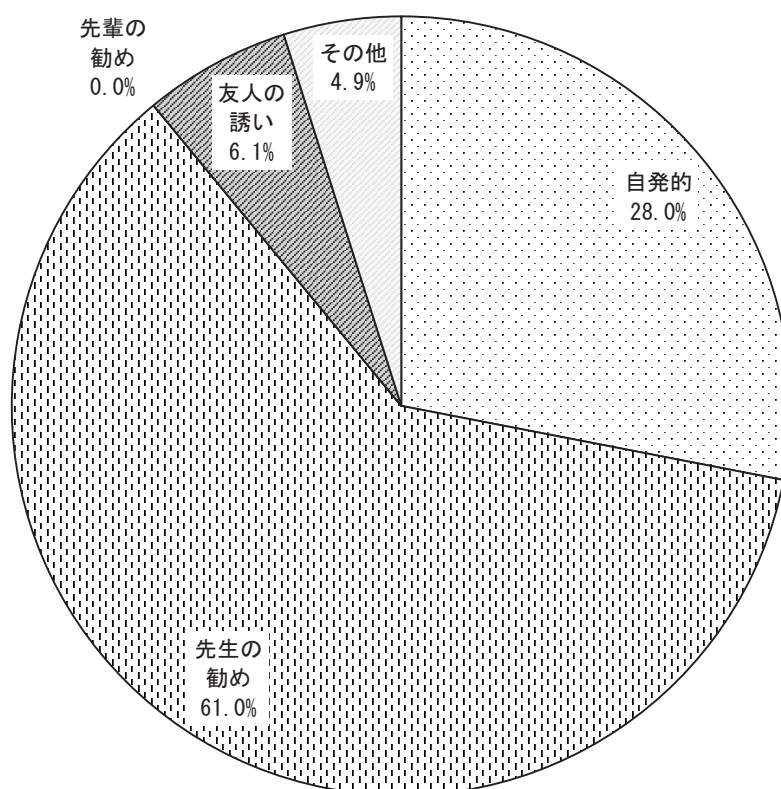
	回 答					合 計
	1年生	2年生	3年生	4年生	覚えていない	
人数	2	7	32	26	15	82
割合	2.4%	8.5%	39.0%	31.7%	18.3%	100.0%

Q 6	地域創成メディエーターの「動く」の活動には何年間携わりましたか？
-----	----------------------------------



	回 答				合 計
	当該年度のみ	2年間	3年間	4年間	
人数	67	9	5	1	82
割合	81.7%	11.0%	6.1%	1.2%	100.0%

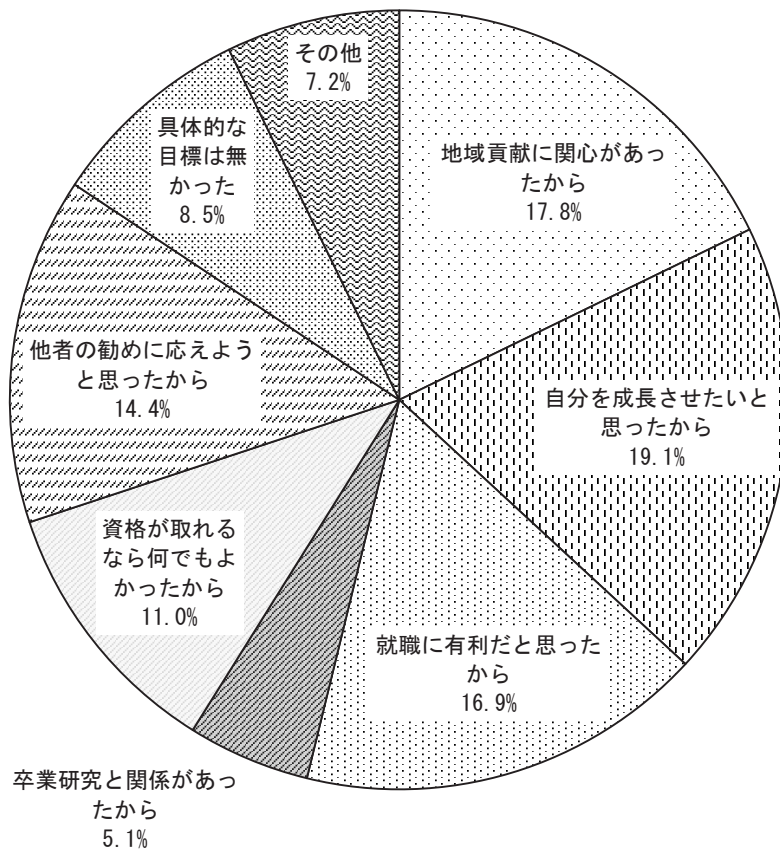
Q 7	あなたが地域創成メディエーターの資格取得を目指した有力なきっかけは？
-----	------------------------------------



	回 答					合計
	自発的	先生のお勧め	先輩のお勧め	友人の誘い	その他	
人数	23	50	0	5	4	82
割合	28.0%	61.0%	0.0%	6.1%	4.9%	100.0%

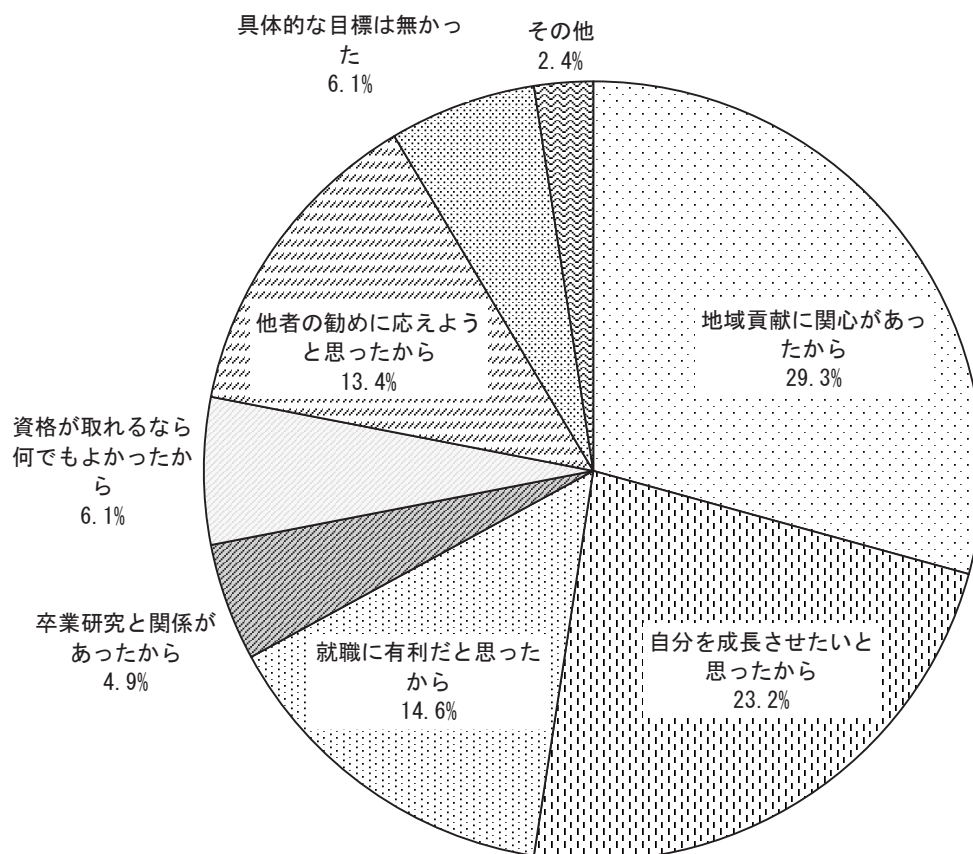
3 地域創成メディエーター資格取得卒業生アンケート結果一覧

Q 8 (全体)	あなたが地域創成メディエーターを取得した目的は何ですか？ (最も当てはまる物から順に3つ以内で回答してください)
-------------	---



	回 答								合 計
	地域貢献に関心があったから	自分を成長させたいと思ったから	就職に有利だと思ったから	卒業研究と関係があったから	資格が取れるなら何でもよかったから	他者のために応えようと思ったから	具体的な目標はなかった	その他	
人数	42	45	40	12	26	34	20	17	236
割合	17.8%	19.1%	16.9%	5.1%	11.0%	14.4%	8.5%	7.2%	100.0%

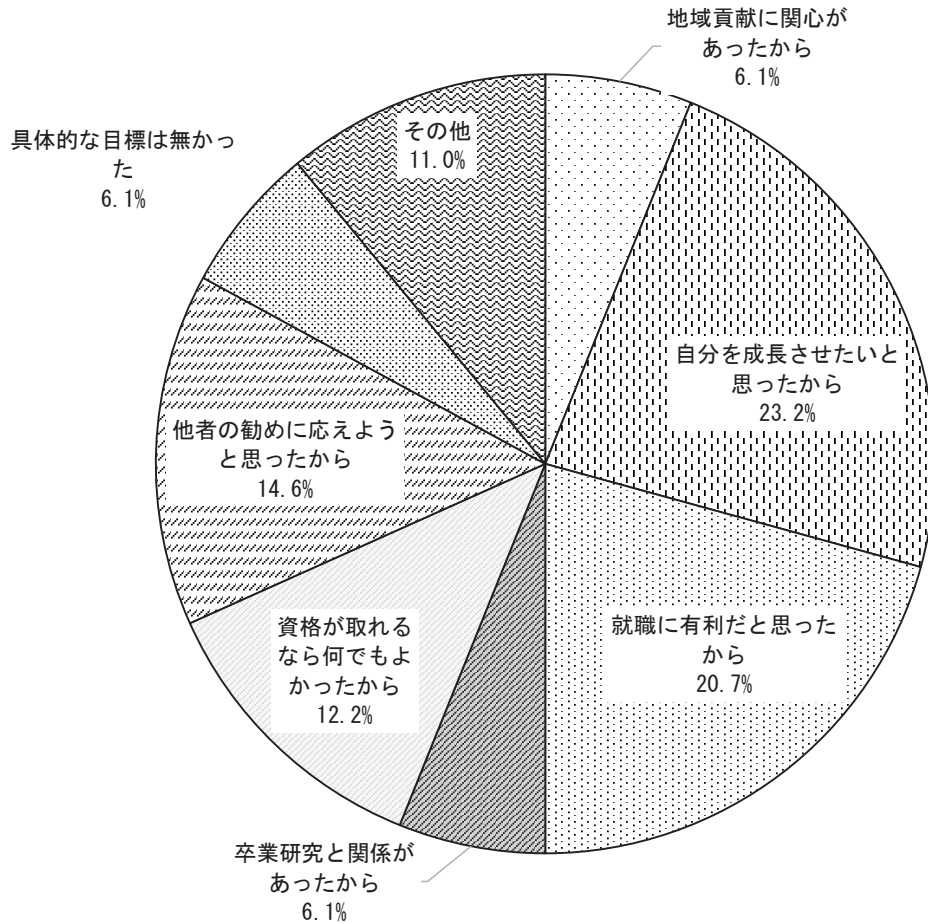
Q 8 (1位)	あなたが地域創成メディエーターを取得した目的は何ですか？ (回答順位が第1位の回答)
-------------	---



	回 答								合 計
	地域貢献に関心があったから	自分を成長させたいと思ったから	就職に有利だと思ったから	卒業研究と関係があったから	資格が取れるなら何でもよかったから	他者のために応えようと思ったから	具体的な目標はなかった	その他	
人数	24	19	12	4	5	11	5	2	82
割合	29.3%	23.2%	14.6%	4.9%	6.1%	13.4%	6.1%	2.4%	100.0%

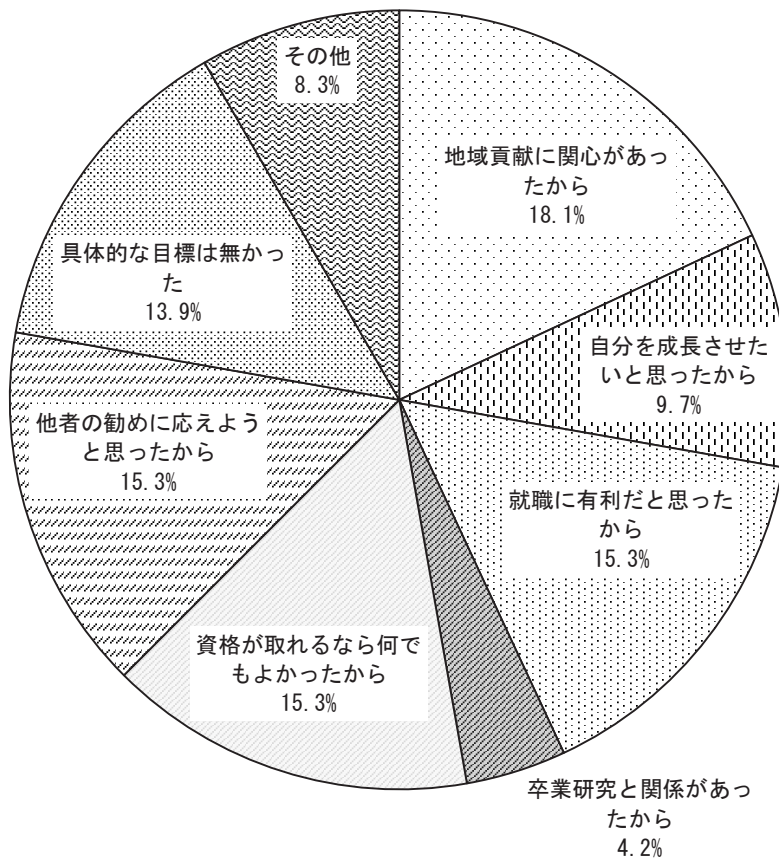
3 地域創成メディエーター資格取得卒業生アンケート結果一覧

Q 8 (2位)	あなたが地域創成メディエーターを取得した目的は何ですか？ (回答順位が第2位の回答)
-------------	---



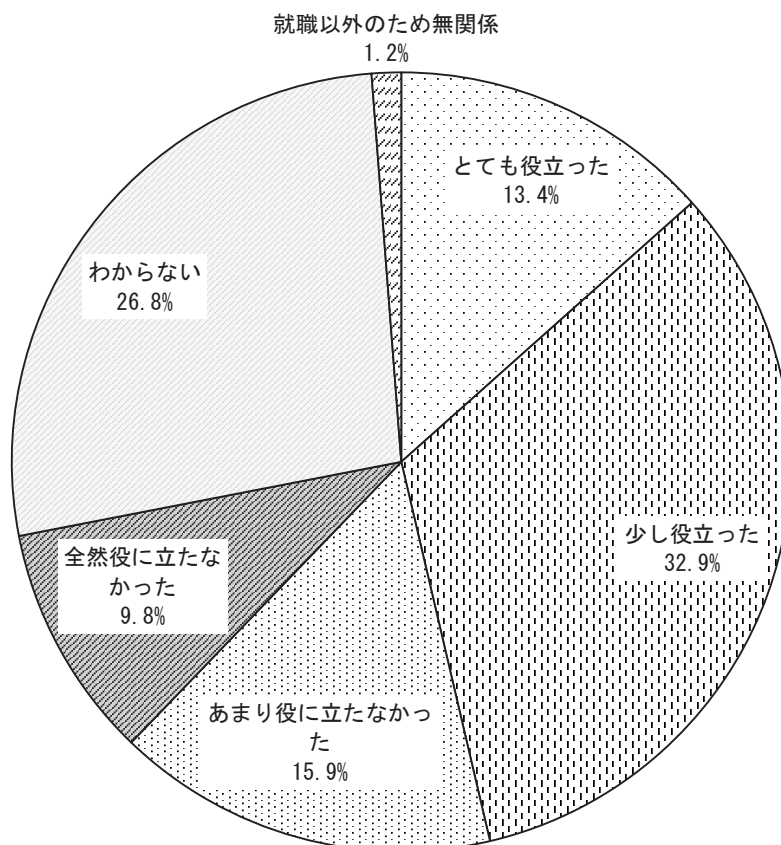
	回 答								合 計
	地域貢献に関心があったから	自分を成長させたいと思ったから	就職に有利だと思ったから	卒業研究と関係があったから	資格が取れるなら何でもよかったから	他者のために応えようと思ったから	具体的な目標はなかった	その他	
人数	5	19	17	5	10	12	5	9	82
割合	6.1%	23.2%	20.7%	6.1%	12.2%	14.6%	6.1%	11.0%	100.0%

Q 8 (3位)	あなたが地域創成メディエーターを取得した目的は何ですか？ (回答順位が第3位の回答)
-------------	---



	回 答								合 計
	地域貢献に関心があったから	自分を成長させたいと思ったから	就職に有利だと思ったから	卒業研究と関係があったから	資格が取れるなら何でもよかったから	他者のために応えようと思ったから	具体的な目標はなかった	その他	
人数	13	7	11	3	11	11	10	6	72
割合	18.1%	9.7%	15.3%	4.2%	15.3%	15.3%	13.9%	8.3%	100.0%

Q 9	地域創成メディエーターは就職活動において役立ちましたか？
-----	------------------------------

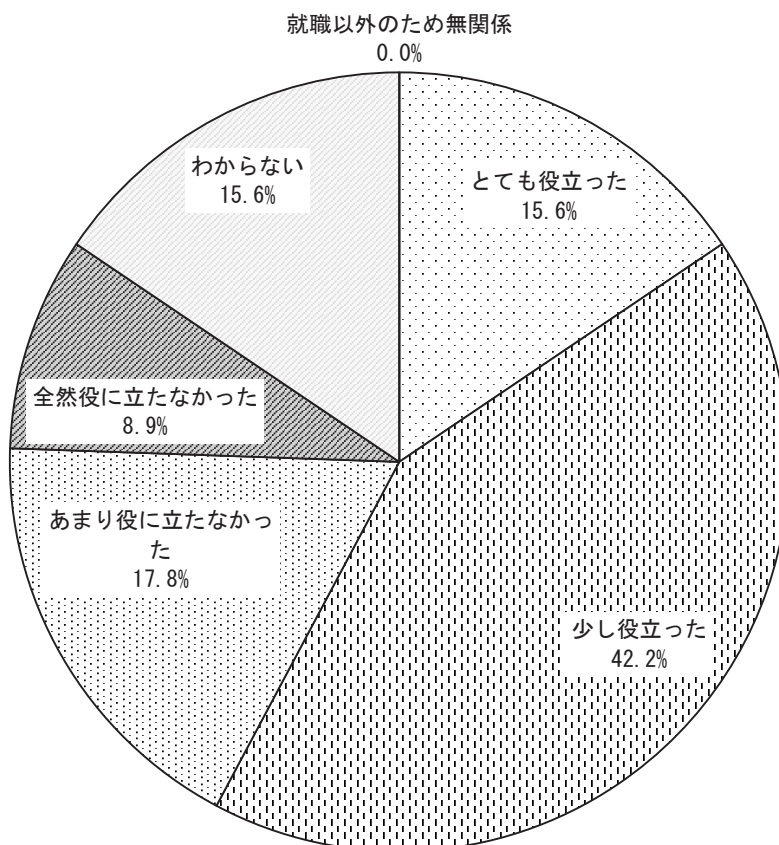


	回 答						合計
	とても役立った	少し役立った	あまり役に立たなかった	全然役に立たなかった	わからない	就職以外のため無関係	
人数	11	27	13	8	22	1	82
割合	13.4%	32.9%	15.9%	9.8%	26.8%	1.2%	100.0%

何故そのように思いましたか？(記入があった人の回答)

1	就職先が地域貢献と無関係だったため。	36	中部大学独自の資格だったため、興味を持ってもらえ、アピールすることができたため。
2	あまり関係のない職種だから	37	面接のときに質問されたため。
3	就職活動の際に表に出すことはなかった。自分の活動を振り返ったことで自己アピールのヒントになった。	38	面接で話題になったから。
4	面接時に資格について聞かれ、そこから話しが膨らみ内容のある面接を受けられたから。	39	プレゼン場で緊張しすぎることなく、応答も落ち着いてできるようになった。
5	役立った実感がないので	40	面接の際、どう説明すればよいかわからないので、それが役に立った感じがしなかった為。
6	大学での活動として就活時にいえたため	41	就職活動終了後に取得した為。
7	面接の際にこの資格に関して触れていただくことが多く、自分のペースで面接を進めることができたため。	42	一般的な資格ではないため、興味を持ってもらえた。話の引き出しが増えた。
8	就職と関係があまりないと感じたから	43	面接で特に聞かれていない。
9	就活の面接において、面接官に興味を持ってもらえた	44	就職活動をしていない
10	面接等で聞かれることがなかったです。	45	面接で詳しく質問された
11	地元での就活時に話題にできたから	46	学生時代に頑張った事として、誰も被らないようなエピソードを面接で話すことができたから。
12	地域の特徴を発見する能力を身につけられたから。	47	地域創成メディエーターとは何かを話すことはできなかったが、この活動を通じて得たことは面接で話せたから。
13	面接時に地域創生メディエーターについて質問されることが多いのでそこから話を広げて自分の成長を具体的に話すことができた。	48	一度就職活動で落ちた。
14	履歴書に資格として書くことができ、こういった活動をし人数と協力して意見を出し合うことができた主張することができた。	49	面接などで触れられることがなかったため。
15	何にも活かせてないから	50	それは何か？と話のタネになったから。
16	・履歴書には、地域創成メディエーターのことを書くよりもサークル活動など他に書くことがたくさんあったから。 ・グループでのディスカッションがあった際に自発的に発言することができた。	51	地域創成メディエーターをしたおかげで、インターンシップ先に就職が決まった。
17	あまり活用していない	52	自己発育に役立ち観点が広がったと感じたため
18	プレゼンテーション能力が、就活の面接において活かされた部分があった。	53	この資格についてあまり、就職の際に深掘りされなかったため。
19	深く考えたことがないため	54	自己PRにかけたから
20	数多く会社を受けたなかでそれについて聞かれたのは1社だけだったし、興味を示してくれなかったから。	55	現在、消防士として職務に務めているが、人(患者)を対象としているため、地域と直接関与しているのかはわからないため。
21	話題に持ち出さなかったため。	56	自分の意欲的な面をアピールする一つの指標になったのではないかと思った為。
22	わからない	57	就職活動時にメディエーターの資格について記載した記憶がないため。
23	地域との関わりを持つことで、対人交流行場においてコミュニケーションを図れることが出来るから	58	地域の特性を知る為に必要だったから。
24	特に面接で話すこともなかった	59	書いても何それ？という感じだから。
25	履歴書に書けなかった。	60	病院就職であり書類に記載できなかったから。
26	資格のことを特に言われなかったから。	61	面接等で特に地域創生メディエーターについて話しておらず、就職先もこの資格と関連があるところではなかったため。
27	地域創生メディエーターを知らない人が多いから	62	履歴書に書くことはできたが、一切触れられることがなかったため。
28	地域創生メディエーターを知らない人が多いから	63	履歴書の自己アピールに使えた
29	分野が違う会社のため	64	面接のきっかけになった。
30	面接で聞かれることはなかった。就職が有利になったか分からない。	65	資格の内容にピンとくる人が少ないから。かといって話しても会社側に必要な能力と思わせにくい。
31	民間企業の人事の人の反応をみていると、「そのようなものがあるんですね」といわれたから。	66	面接官から具体的な取り組み内容とそれをどのように業務に活かせるか問われたため。
32	この資格を取得するまでの過程の話が面接で話す事ができた。(学生時代に頑張ったこと等の質問で)	67	就職面接の話の種になった
33	活用せずに就職活動したため。	68	今の仕事に役立っているかが不明のため
34	就職先が地域と関わりを持って活動しているので、この資格に強い関心を持ったから。	69	大学独自の事業であることから、他者とは違った経験談を話すことができるため。
35	すでに就職活動を終えていたため。	70	面接時のPRに繋げることができました。
		71	履歴書に書き、面接で聞かれたからです。

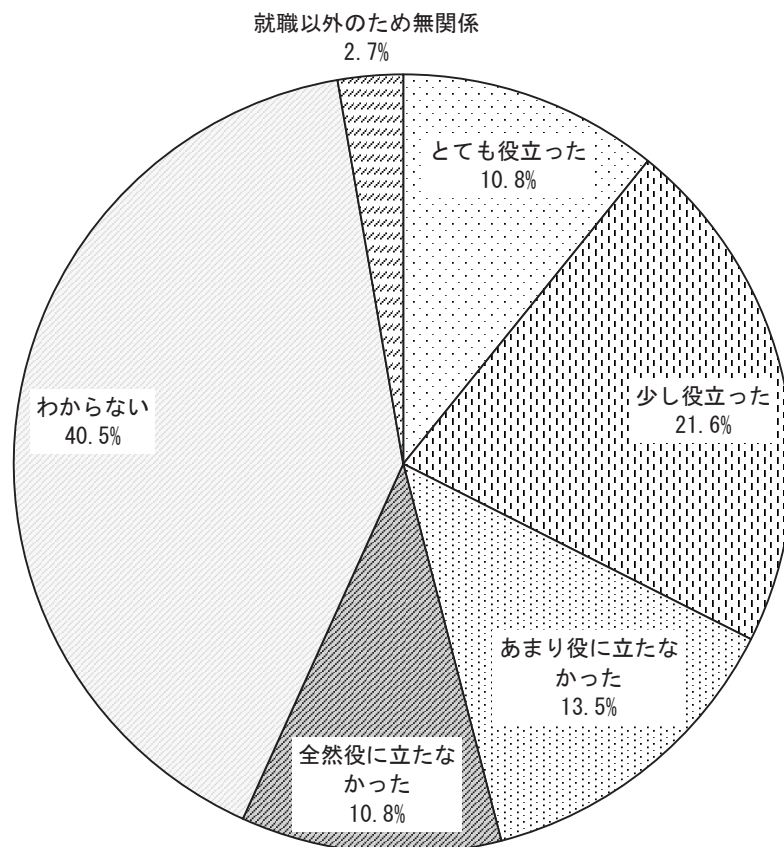
Q9 参考1	地域創成メディエーターは就職活動において役立ちましたか？ （国家資格の取得を主目的としていない学部 of 卒業生が対象） （工学部、経営情報学部、国際関係学部、人文学部、応用生物学部）
-----------	--



	回 答						合 計
	とても役立った	少し役立った	あまり役に立たなかった	全然役に立たなかった	わからない	就職以外のため無関係	
人数	7	19	8	4	7	0	45
割合	15.6%	42.2%	17.8%	8.9%	15.6%	0.0%	100.0%

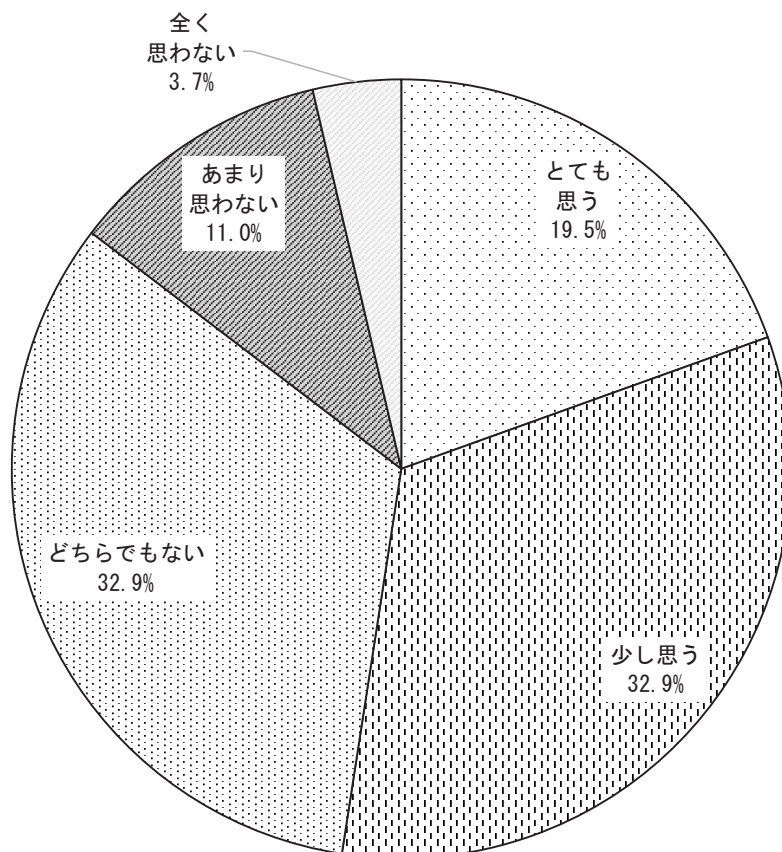
Q9
参考2

地域創成メディエーターは就職活動において役立ちましたか？
 (国家資格の取得を主目的とする学部の卒業生が対象)
 (生命健康科学部、現代教育学部)



	回 答						合計
	とても役立った	少し役立った	あまり役に立たなかった	全然役に立たなかった	わからない	就職以外のため無関係	
人数	4	8	5	4	15	1	37
割合	10.8%	21.6%	13.5%	10.8%	40.5%	2.7%	100.0%

Q10	地域創成メディエーターの資格取得は「社会人としての自分に有益であった」と 思いますか？
-----	--

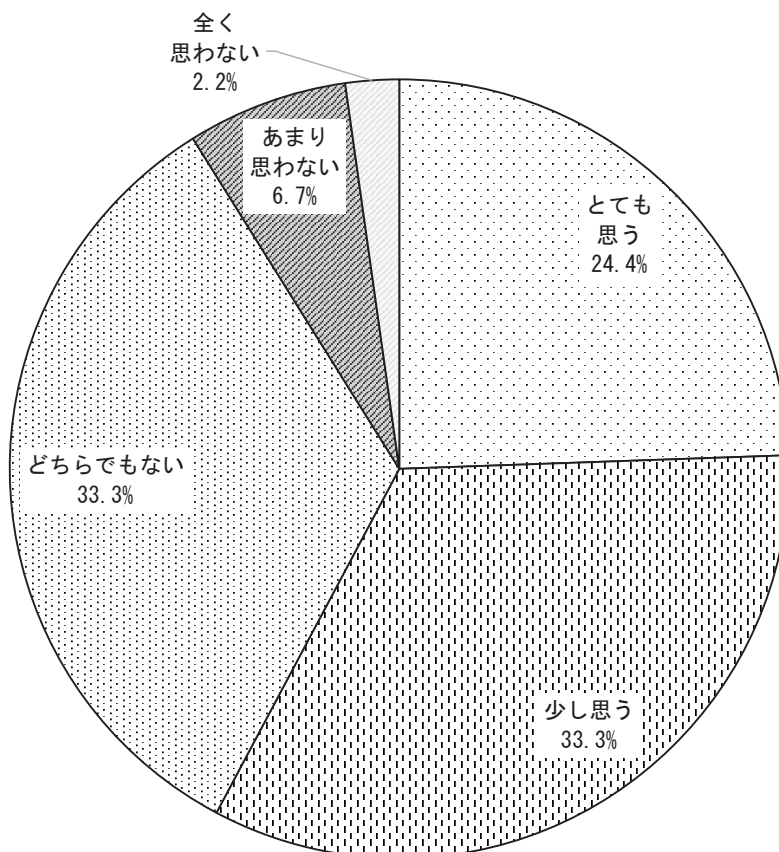


	回 答					合 計
	とても 思う	少し 思う	どちら でも ない	あまり 思わ ない	全く 思わ ない	
人数	16	27	27	9	3	82
割合	19.5%	32.9%	32.9%	11.0%	3.7%	100.0%

何故そのように思いますか？(記入があった人の回答)

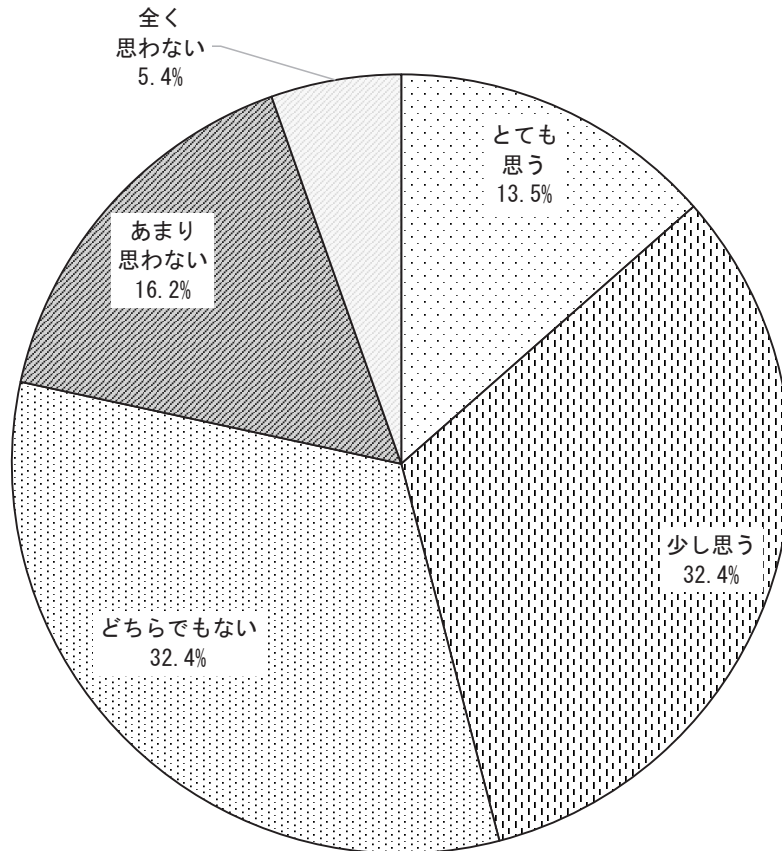
1	地域貢献に関わってないから。	36	自信がついた
2	取得したことすら忘れていた	37	社会人では、自発的に行動することが求められるため、メディエーターでの活動で自ら考えて取り組んだ経験が活きていると感じるから。
3	現職では意見をまとめる必要もなく問題解決の過程が存在しないから。	38	あってもなくても変わらないから。
4	自分の活動の目的を明確にして、活動を行うことは社会人になって仕事を行うことに通ずるところがあるから。	39	直接的には今の仕事に関係ないが、自分でまとめ話す力が身についたから
5	取得したことに後悔はないので	40	資格を使っていない(現在)
6	使用した場面が思いつかないため	41	地域に貢献できたから
7	成功体験となり、自分に自信がついたので。	42	課題発見、課題解決、実践というプロセスは社会においても必要だと感じているから。
8	何事も自発的に動けたことには何かしらの経験値として役立つと思うから。	43	メディエーターの活動を通じ、幅広い年代と会話することや自ら考え行動する力が身に付いたと実感する場面が多いから。
9	担当教授が悪かった。	44	役に立った実感は得られていない。
10	地元で働く者として資格があって良かったと思います。	45	資格取得時のプレゼン発表が社会人になって良い機会であったと感じたため。
11	就活時に活用するという目的のみで取得したため。	46	地域に関わりたいと思うが、仕事をしているとなかなか思うようにいかない。
12	自分がしている仕事との関係性が薄いため。	47	地域に関する仕事ではなかったから。
13	メディエーターの資格取得の過程で行ってきたこと(発表やその練習)が社会人になって活かしていると思います。	48	社会人になってから有益と感じたことがなかったため
14	特に使う場面がなかった	49	就職先でも高齢の方と接する機会があるため。
15	何にも活かせてないから	50	自分の住む地に関して考えることができたことはとても良いと思うが、現状は何か活かせることができていないため。
16	自分ではアルバイト先として考えたことがなかった職業や企業を選び働いて、貴重な経験になったと思うから。	51	自身の経験として、不要な物はないと考えている為。
17	あまり活用していない	52	知識として自分の中で持つことができたため。
18	メディエーターの活動を通して、社会生活(知らない人と多く関わる)ことに慣れることができたから。	53	地域に密着した仕事だから。
19	資格取得していたことを今知ったため	54	すごい長い文章を書いてまでやらなくてよかった。活動は資格取得しなくても続けてたし。
20	発表したこと自体が自分を成長させてくれた自信がついたと思うから。	55	資格ありきの仕事だから、あまり関係ない。
21	仕事をする上でも、地域の課題やニーズに合うものを提案する場面があるため。	56	ポスター発表など、人前で発表するという経験を積むことができたため。
22	就職する際の糧となるから	57	仕事内容が少し異なっているから
23	活動は充実したものだったが、社会人になって生かされているところがあるように思わない	58	発表や資料作成能力が向上した。
24	学生教育部学生支援課の細川貴史さんにサポートしてもらったから。	59	人前でプレゼンするのに動じないメンタルがついた。
25	資格を生かせないから。	60	地域活性について、考えるきっかけを作れない人が多いと思うので有意義に思う。
26	地域創生メディエーターを知らない人が多いから	61	就職活動で、授業での話を誰かにする時に話すネタにはなった
27	地域にかかわる仕事に全くたずさわっていないため。	62	役立っているか不明
28	様々な経験をする場としては良かったと思う。	63	普段関わることの少ない、学外の方との交流により、人との関わり方が経験できたため。
29	地域で自分のできることを常に考えていく姿勢が生まれたから。	64	「動く」の活動は自分にとって貴重な経験で、学んだ知識は現在に活かされている。
30	地域との関わりをもつ活動が出来ていないため。	65	仕事でも地域に関わることもあるからです。
31	たくさんさんの経験ができたため。		
32	人と地域を結ぶことは自分にとって必須だから。		
33	地域とみっちりやる仕事ではないため、どちらでもありません。しかし、人とのかかわりとしてはとても役に立っています。		
34	分からないため。		
35	友人と最後まで協力しあって、1つのことを終えることができたから。普段は関わらない方たちと、話し合う機会があり、プレゼンしたり、できたから。		

Q10 参考1	地域創成メディエーターの資格取得は「社会人としての自分に有益であった」と思いますか？ （国家資格の取得を主目的としていない学部卒業生が対象） （工学部、経営情報学部、国際関係学部、人文学部、応用生物学部）
------------	--



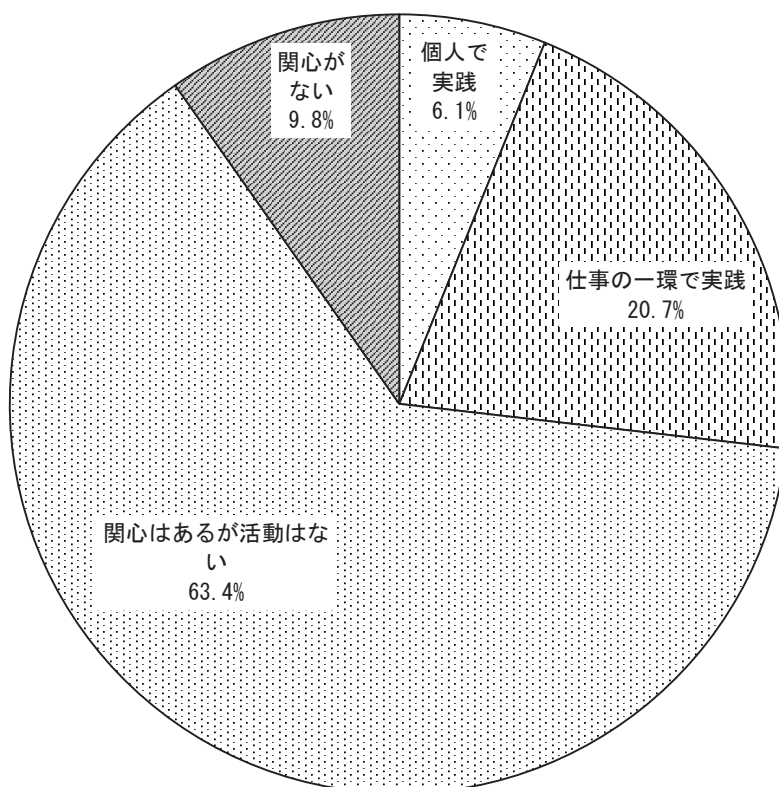
	回 答					合 計
	とても 思う	少し 思う	どちら でも ない	あまり 思わ ない	全く 思わ ない	
人数	11	15	15	3	1	45
割合	24.4%	33.3%	33.3%	6.7%	2.2%	100.0%

Q10 参考2	地域創成メディエーターの資格取得は「社会人としての自分に有益であった」と思いますか？ (国家資格の取得を主目的とする学部の卒業生が対象) (生命健康科学部、現代教育学部)
------------	---



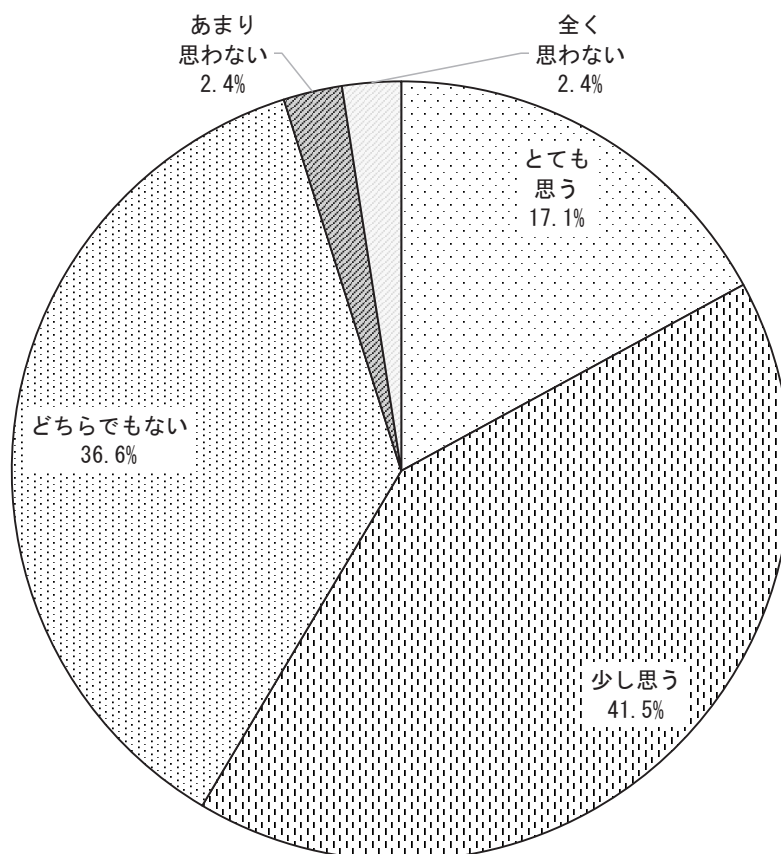
	回 答					合 計
	とても 思う	少し 思う	どちら でも ない	あまり 思わ ない	全く 思わ ない	
人数	5	12	12	6	2	37
割合	13.5%	32.4%	32.4%	16.2%	5.4%	100.0%

Q 1 1	あなたは現在、地域に関わる活動を実践していますか？
-------	---------------------------



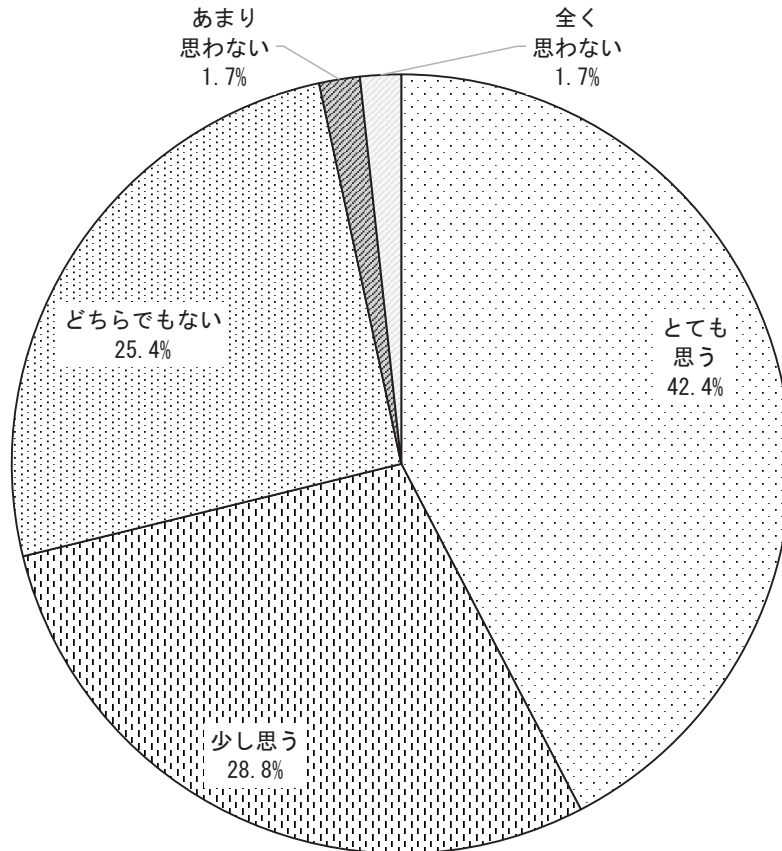
	回 答				合 計
	個人で 実践	仕事の一 環で実践	関心はあるが活動 はない	関心がない	
人数	5	17	52	8	82
割合	6.1%	20.7%	63.4%	9.8%	100.0%

Q12	あなたは、後輩たちにも地域創成メディエーターの資格取得を推奨したいと思えますか？
-----	--



	回 答					合 計
	とても 思う	少し 思う	どちら でも ない	あまり 思わ ない	全く 思わ ない	
人数	14	34	30	2	2	82
割合	17.1%	41.5%	36.6%	2.4%	2.4%	100.0%

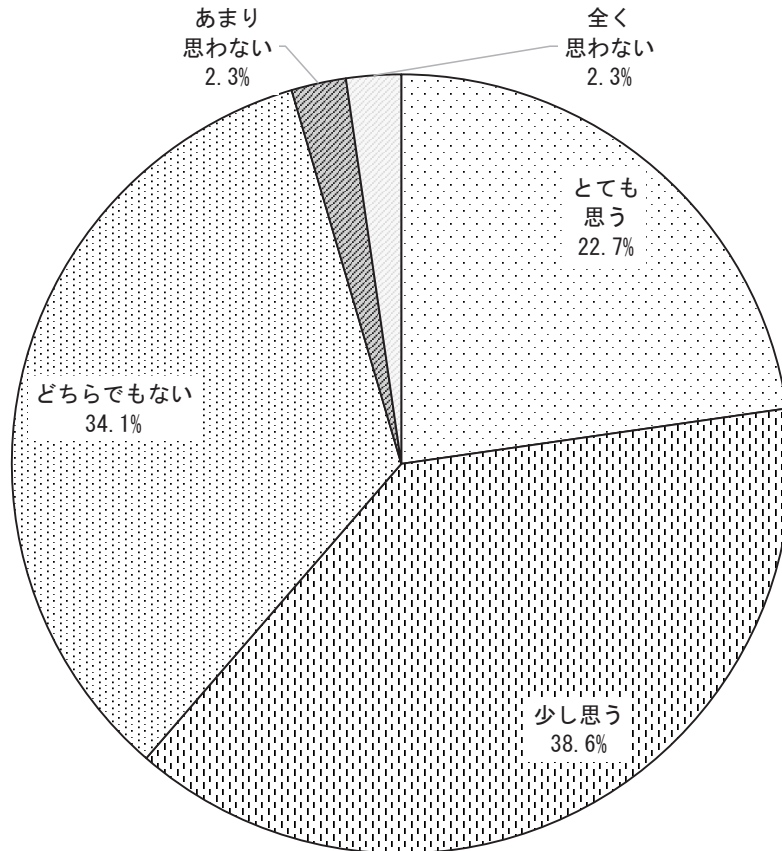
Q12 参考1	<p>あなたは、後輩たちにも地域創成メディエーターの資格取得を推奨したいと思いませんか？ (国家資格の取得を主目的としていない学部 of 卒業生が対象) (工学部、経営情報学部、国際関係学部、人文学部、応用生物学部)</p>
------------	--



	回 答					合 計
	とても思う	少し思う	どちらでもない	あまり思わない	全く思わない	
人数	50	34	30	2	2	118
割合	42.4%	28.8%	25.4%	1.7%	1.7%	100.0%

Q12
参考1

あなたは、後輩たちにも地域創成メディエーターの資格取得を推奨したいと
思いますか？
(国家資格の取得を主目的とする学部の卒業生が対象)
(生命健康科学部、現代教育学部)



	回 答					合 計
	とても 思う	少し 思う	どちら でも ない	あまり 思わ ない	全く 思わ ない	
人数	20	34	30	2	2	88
割合	22.7%	38.6%	34.1%	2.3%	2.3%	100.0%

その他コメント、後輩へのエールなど

<p>17 在学中に本活動のような自分の意見を纏めて発表する機会は卒業研究以外では得られることもないと思う。このような力は地域や企業といった社会の中で問題解決に必要な能力であると考えているから。</p>	<p>17 これから取得される方は、楽しみつつ、頑張ってください。</p>
<p>18 私が本資格を取得したのは自発的ではありませんでしたが、自分の在学中の活動をまとめ、振り返る機会として有意義なものであったと考えております。社会人になったあとに自分を省みるという行為をする時間を自発的に得るのは難しいことだと改めて思います。非常に貴重な機会であると思うので、取得する価値がある資格だと思います。</p>	<p>18 やってみて損はないと思うから</p>
<p>19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29</p> <p>2 がんばれ</p> <p>3 就活、面接で有利になるため。また人との関わりが増えると同時に人脈が増える。</p> <p>4 面倒くさいと思うのであればやるべきではない。意欲がある人同士で取り組んでもらいたい。</p> <p>5 目的がある人へは勧めるが、目的がない人は不要なため。</p> <p>6 自分の地元のことを考えるきっかけになる。 資格を取ることができる</p> <p>7 就活に関して、この活動は知名度はないので、就活に役に立つのはその人次第だと思います。経験としては、会社によってアルバイトのような仕事だったり、正社員のような仕事だったり、会社によるところが大きいと思います。私はとても貴重な経験をする会社がいくつかあったので参加してよかったと思います。</p> <p>活動を通して、この活動を今後の自分に活かすも活かさないも、けっきょく自分次第だと思いました。みなさんも積極的に頑張ってください。</p> <p>8 就活の練習だと思ってやってみてほしいから。</p> <p>9 自分自身に向き合うきっかけになるし自信もつく。しかし就職にこの地域創生メディエーター資格が有利かと言われればそんなに役には立たない。就職に向けてどういう仕事に就きたいか、人生設計をつくるきっかけにはなるので良いと思う。</p> <p>自分と向き合いたい、自信をつけたい、目立ちたい人はぜひ参加してください！残されてる時間が少ない人はしない方がいいかもしれないです。</p> <p>10 いつもとても一生懸命で応援しています。</p> <p>11 この資格を取得するために行った活動が今現在、とても役にたっているから。</p> <p>12 生きていれば、大丈夫。</p> <p>13 伊藤ゼミで資格を取ると楽しいですよ！！</p> <p>14 取得して損することはないためがんばってください。</p> <p>15 自ら率先して活動した経験は一生の糧、宝になると思います。困った時は、先生から手厚いサポートが受けられますので、是非、挑戦してみてください。</p> <p>16 これから取得される方は、楽しみつつ、頑張ってください。</p>	<p>19 卒業後も忘れることのない経験ができ、自分の身になっていると現在でも感じるから。ただ、資格取得だけを目的とする人にとっては難易度がやや高いと思う。</p>
<p>20 活動する中での経験は自身の財産になると思うので頑張ってください。</p>	<p>21 大学を卒業すると、すべての行動が自己責任となりこれまでの生活環境も一変するため非常に大きなストレスがかかるが、地域創成メディエーターでは自発的に行動する力や、効率的に物事を進める力等を身に付けることができ、将来的な自分の武器を圧倒的に増やすことができるから。</p>
<p>22 頑張ってください。</p>	<p>23 是非挑戦して下さい。</p>
<p>24 何事も経験だと思うので、何かのきっかけになればと思います。</p>	<p>25 就職で有利になると思うから</p>
<p>26 就職後も人前で話す機会はありますが、メディエーターで話した事を思えば全然カンタンと思えました。頑張ってください。</p>	<p>27 環境について考えられる。資格があれば就活の時に安心感が少しでも増える気がする。国から学校に助成金がでるから。</p>
<p>28 緑の砂漠という言葉が印象に残っている。環境のためと言ってただ木を植えると、同じ種類の細い木が乱立し、かえって環境を悪化する。動物が生活できない森が出来てしまう。森という環境を考えて、継続的に観察して森を復活させる活動が重要だと知る機会になった。環境保護の活動の難しさを感じる機会となり良かったと思う。</p>	<p>29 私の場合は、交友関係を広げることができたため、お勧めします。ただ、活動時間も多いため、強くはお勧めできません。</p>

4. 新聞記事

アスファルト再生 中部大生が学ぶ



名古屋中央アスコン見学

昭和土木（名古屋市）と大林道路（東京）の共同企業体「名古屋中央アスコン」のアスファルトプラントに、中部大（愛知県春日井市）工学部の学生八人が訪れた。

実践的な人間育成を狙う大学と、持続可能な社会づくりへの貢献を目指す企業側の共同企画で、産業廃棄物となった道路などのアスファルトの再生の工程や施設の実態を学んだ。

プラントでは、各地の工事現場などから運び込まれた廃材を適切な大きさに砕き、選別して再生骨材に。再び道路に敷ける「アスファルト混合物」に仕上げて出荷する一連の工程を、蒔田正隆営業所長（左）の案内で見学し、学んだ。

●写真。都市建設工学科二年で三重県桑名市の岡部彰仁さん（左）は「規模の大きな機械には、机の上の勉強では分からない迫力がある。災害対策の仕事に興味があり、将来の進路に向けて大切な機会になった」と話した。

2021年7月7日（水） 中日新聞

*この記事・写真等は、中日新聞社の許諾を得て転載しています。



地域活性化 どう活動？

中部大生が取り組み発表

中部大学（春日井市松本町）で十五日、同大の人材

育成プログラム「地域創成メディエーター」を修了した学生が、それぞれの活動成果を発表した。写真。メディエーターは「仲介者」の意味。学生は講義で地域活性化や環境問題などを学んだ上で、課外活動として実際に地域のイベントなどに参加。さまざまな人と関わりながら、地域が抱える課題に主体的に取り組める力を身に付ける。社会経験を積み就職などにつなげる狙いで、修了した学生をメディエーターに認定し

ている。本年度は七十五人が認定された。十五日の発表会では代表の八人が地域のワークショップやイベントでの活動を紹介。「地域の住民の声を生かすことが必要と学んだ」「コミュニケーション能力が向上した」などと語った。

参加した人文学部三年の稲垣龍雅さん(三)は「地域活性化には人の力が大切だと分かった。これからその精神を広げていきたい」と話した。(磯嶋康平)

2022年2月16日（水） 中日新聞

*この記事・写真等は、中日新聞社の許諾を得て転載しています。

文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(平成25年度～平成29年度)
『春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業』

文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」(平成27年度～令和元年度)
『岐阜でステップ×岐阜にプラス 地域志向産業リーダーの協働育成』

2021(令和3)年度
「地(知)の拠点継続事業」成果報告書

発行日 2022(令和4)年3月

編集発行 中部大学 国際・地域推進部
〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200番地
電話：0568-51-9872 FAX：0568-51-1172
<https://www3.chubu.ac.jp/coc/>

印刷 木野瀬印刷株式会社
〒486-0958 愛知県春日井市西本町三丁目 235 番地

